

## 第3章

### 男性の家庭・地域への参画を 促進する学習プログラム事例

---





## 第3章

# 男性の家庭・地域への参画を促進する 学習プログラム事例

## 1 学習プログラム事例の活用のしかた

第2章では、男性の家庭・地域への参画を促進する学習プログラムについて、対象とする男性を地域とのかかりによって大きく3つに分け、それぞれを対象とした学習プログラムの考え方やプログラムの展開の留意点等について説明しました。第3章では、女性／男女共同参画センターや民間団体が実際に実施している学習プログラムの事例を紹介します。

### ●「学習プログラム事例一覧」のみかた

表3-1は、本章に掲載されている学習プログラム事例の一覧です。本章には、11の女性／男女共同参画センターと2つの団体が企画・実施した19事業の詳細が掲載されています。表の各項目（センター・団体名、学習プログラム（事業）名、おもな対象、テーマ）をみて、特に関心のある事例から読んでみるとよいでしょう。

### ●各事例の内容

各学習プログラムの事例は、女性／男女共同参画センターの事業担当者等の参考になるように、通常の事業報告等には載せないような企画の試行錯誤のプロセスや工夫等まで、できるだけ詳細がわかるように記されています。特に、男女共同参画の視点に立った取り組みとはどのようなことかについては、例等を示しながら具体的に示しています。

各センター・団体ごとに、まず「男性を対象とした事業の企画にあたって」の項目において、男性を対象とした事業全般の企画の前提や背景となることについて記しています。具体的には、センター・団体の概要、男性を対象とした事業に取り組むにあたっての方針・方向性、地域の男女共同参画推進プランの位置づけ、地域の問題点・ニーズ把握、テーマ設定のしかた等です。これらは、各学習プログラムを具体化する前にしっかりと捉えておくべき基本事項です。この項目を読んで、自分の地域と類似した前提や背景をもつセンター・団体の学習プログラム事例をまず読み進めるのもよいでしょう。

次の項目からは、各学習プログラムの内容についてです。以下の4つの項目に分かれています。

#### ①事業概要

学習プログラムの位置づけ、企画の背景、目的・ねらい、対象、テーマ、予算、定員／参加者数、連携、資源の活用等

#### ②プログラム

事業・学習プログラムの内容

#### ③男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

学習プログラムの中に男女共同参画の視点をどのように盛り込み、どのように参加者の意識の醸成を図ったか。参加者確保や連携にどのような工夫をしたか。参加者の学びをグループ結成や実践の活動につなげるために、どのような工夫をしたか等

#### ④成果

見えてきている成果・効果について。たとえば、講座修了生がどのようなグループを結成し、どのような活動をしているか、個人や地域の変容はどうか、男女共同参画の視点をもった男性がどのように地域にかかわ

表3-1 学習プログラム事例一覧

|    | センター・団体名           | 学習プログラム（事業）名                                            | おもな対象              | テーマ                         | ページ |
|----|--------------------|---------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------|-----|
| 1  | もりおか女性センター         | 男性応援講座<br>「サックリ、サクサク 弁当男子♪」                             | 一般男性               | 料理、地域参画                     | 75  |
| 2  | 大田区立男女平等推進センター     | 「パパの手でつくる 赤ちゃんの<br>ハッピータイム♪」                            | 子育て中（乳児）<br>の父親    | 子育て、ワーク・ライフ・<br>バランス        | 80  |
|    |                    | 「男の生き方塾」～元気で人の役に<br>立つカッコいい人生を楽しむコツ～                    | 定年前後の男性            | 定年後の生き方、地域参画                | 83  |
| 3  | 豊島区立男女平等推進センター     | ワーク・ライフ・バランス推進事業<br>（ワーク・ライフ・バランスフォー<br>ラム・区民応募企画）      | 一般男女<br>（主に企業で働く人） | ワーク・ライフ・バランス                | 88  |
| 4  | 川崎市男女共同参画センター      | 「すくらむ塾」                                                 | 一般男女               | 人材育成、地域参画、政策・<br>方針決定過程への参画 | 92  |
|    |                    | パパのための子育てサロン<br>「パパバリ場」                                 | 子育て中の父親            | 子育て、地域参画                    | 95  |
|    |                    | 「カジダン・イクメンキャンペーン」                                       | 一般男女               | 家事参画、育児参画                   | 97  |
| 5  | 静岡市女性会館            | 「男性介護者交流会」                                              | 定年前後の男性<br>（介護者）   | 介護、地域参画                     | 101 |
| 6  | 浜松市男女共同参画推進センター    | 「ママも喜ぶ♪イクメン教室 パパ<br>とスキンシップ!!」                          | 子育て中の父親            | 子育て                         | 105 |
|    |                    | 「『協奏』で地域に生かす熟年力!～<br>いきいき10万時間～」                        | 定年前後の男性            | 定年後の生き方、地域参画                | 107 |
| 7  | 三重県男女共同参画センター      | 「楽しみながら目指そう!育—MEN!<br>イクメン応援フェア!」                       | 子育て中の父親            | 子育て、地域参画                    | 111 |
|    |                    | 「カッコイイじいじになろう!～ソフ<br>リエ資格をとって地域デビュー～」                   | 定年前後の男性            | 孫育て、子育て支援、地域<br>参画          | 115 |
| 8  | 大阪府立男女共同参画・青少年センター | 男性向け講座「心が折れない男の生<br>き方：男の鎧を脱ぎ捨てよう」                      | 働き盛りの男性            | 生活自立、働き方の見直し、<br>メンタルヘルス    | 118 |
| 9  | 鳥取県男女共同参画センター      | 「男の人生マネジメント事業」                                          | 定年前の男性             | ライフプラン、生活自立、<br>地域参画        | 122 |
| 10 | 島根県立男女共同参画センター     | 「男性のための生活自立支援セミ<br>ナー」（雲南会場）                            | 定年前後の男性            | 料理、介護、生活自立、子<br>育て支援、地域参画   | 125 |
| 11 | 長崎県男女共同参画推進センター    | 男女共同参画地域力活性化事業                                          | 一般男性               | 地域参画、活動支援                   | 131 |
|    |                    | 男女でともにチャレンジ・モデル実<br>践事業                                 | 一般男女               | 地域参画、活動支援                   | 135 |
| 12 | NPO 法人エンツリー        | 八王子市親子つどいの広場堀之内<br>（CacheCache）を中心とする父親<br>のネットワークづくり支援 | 子育て中の父親            | 子育て、地域参画                    | 140 |
| 13 | NPO 法人<br>エガリテ大手前  | 「男2代の子育て講座」<br>（ソフリエ・パパシエ資格認定）                          | 祖父世代<br>子育て中の父親    | 孫育て、子育て、子育て支<br>援、地域参画      | 144 |

ているか等

第1章や第2章で述べてきたように、女性／男女共同参画センターで実施する男性を対象とした学習プログラムの大きな目的は、男女共同参画の地域や社会をつくることです。学習プログラムを実施し、参加者をどのように支援することが、男女共同参画社会の形成につながっていくのかについてのヒントが、工夫や成果の項目から得られるのではないかと思います。また、これらの事例から、地域において男女共同参画を推進する支援者としての姿勢を読み取っていただければと思います。



---

## 2 学習プログラム事例

---





## 施設名

## もりおか女性センター

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-10  
 電話：019-604-3303 ホームページ：http://mjc.sankaku-npo.jp/

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

盛岡市は、北海道に次ぐ広さをもった岩手県の中部に位置する人口およそ30万人の県庁所在地である。中核市に指定されている。

もりおか女性センターは、もりおか女性の会の長年の運動の成果として、平成12年に市の直営として開設された。平成18年に盛岡市が指定管理制度を導入し、NPO法人参画プランニング・いわてが指定管理者となってもりおか女性センターの管理運営を開始した。

当センターは、盛岡市の策定した男女共同参画推進のためのプラン（なはんプラン）を具現化することを目的に作られた施設である。なはんプランでは、行動目標の第1に「みんなで育てる、お互いを尊重する意識づくり」があり、「男女の固定的な役割に基づく制度や慣行を見直す」ことが掲げられている。したがって、男女共同参画推進のための意識の醸成がセンターの大きな役割であるが、現実には、県民の意識は性別役割分業意識が強く、特に男性にその傾向が強い。平成23年の県民意識調査によると、「個性と能力を発揮できる社会の実現」については70%強が重要と意識しているが、満足している人が14.4%で、不満を感じている人が25.2%となっている。家事労働については、妻の仕事の有無にかかわらず、妻の家事労働の時間が長い（3時間20分の差）。このことから男性の家事・育児への参加の必要性がわかる。

また、施設名が「女性センター」となっているために男性が入りにくいという印象を与えている。

そうした状況の中で、どのようにしたら男性に親しみをもってもらえるのか工夫を凝らしながら事業の企画をおこなっている。個々の講座ではどうしても女性を対象とすることが多いので、男女共同参画週間の事業やフェスティバルの事業などで、映画会、講演会、講談などを通して広く市民に参加を促し啓発に努めている。その結果、参加者の2割ぐらゐは男性を確保できている。

毎年11月におこなう「女性に対する暴力をなくす運動」期間でも、大型ショッピングセンターや大きな商店街へ出向いて、街頭でPR活動を展開し、そこで男性向け講座のチラシの配布などもおこなっている。そこでのチラシを見て参加申し込みをしに来る男性もいる。

## 施設名 ▶ もりおか女性センター

事業名（講座名）

男性応援講座「サククリ、サクサク 弁当男子♪」

## 1. 事業概要

## ■ 企画の背景

この講座を企画する以前から、メディアで「弁当男子」という言葉がはやりはじめていた。経済の低迷により出費を抑えることを目的に昼食のお弁当を男性も自分で作るようになり、そのことが男性の生き方として

かっこいいこと、という風潮が出はじめていた。

■実施年度 平成21年度

### ■事業の趣旨

楽しみながら、身近な食材で、安全で格安、簡単かつ短時間でできる「お手軽弁当メニュー」を学ぶ。弁当作りからはじめる「生活力アップ」、節約、エコ、健康、時間管理など、生活の総合力を高めることにより、性別役割分業やワーク・ライフ・バランスへの気づきを促して実践力へと結びつける。また、会食や情報交換を通して、男性の自主グループへの発展へとつなげる。

■定員 弁当作り初心者、初級者の男性15名。参加者数12名

## 2. プログラム

日時 平成21年12月2日（水）～17日（木）の全3回 時間 19：00～21：00

3回の内2回はノー残業デーである水曜日をあてた。

場所 もりおか女性センター 本館 生活アトリエ

テーマ 弁当男子の世界へようこそ♪

内容 ①12月2日（水） 握らないおにぎりにチャレンジ  
②12月9日（水） ロコモコ弁当にチャレンジ  
③12月17日（木） サーモンピカタ弁当にチャレンジ

講師 アトリエ Afternoon Tea 代表 小原 薫さん  
(ベジタブル&フルーツマイスター 野菜ソムリエ)

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

毎年、形を変えて男性対象の講座を企画してきた。男性を呼び込む時に、食べることを組み合わせると集客に効果があることは経験からわかっていた。ただ、公民館などでおこなっている男性のための料理教室（ソバ打ち教室など）とは違う要素が必要だと感じており、毎日の暮らしの中で生きてくるような内容にするなどの工夫が求められていた。弁当作りからはじめる「生活力アップ」として、節約、エコ、健康、時間管理などの生活の総合力を高めることにより、性別役割分業やワーク・ライフ・バランスへの気づきを促し実践力へと結びつけることを講座の趣旨とした。

「もて男」「イクメン」などの流行語をとりいれると反響が大きいことも経験上わかっていた。そこで21年度は、当時流行していた「弁当男子」という言葉を取り入れ、「サククリ、サクサク」と簡単で手軽というイメージをもつ言葉を入れるなど、キャッチコピーにも気をつけた。結果、テレビ局3社、ケーブルテレビ1社、新聞社3社の取材が入り、PR効果が増した。新聞社の若い男性記者には、是非講座に参加してその経験を記事にしてほしいとお願いした。彼は家では家事を妻にまかせっきりで何もしたことがないとのことである。講座に参加してお弁当を作り、家に持ち帰って妻に食べてもらいその評価も記事の中に入れて「体験コラム」を書いてくれた。テレビでもNHKの全国放送の夜の経済ニュースの中で「経済不況下の男性の弁当作り」という視点で放映され、地元のテレビ局でも18時台のニュース番組で取り上げられ、講座の企画が参加者に対するだけでなく、広く社会に波及効果をもたらした。

## 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

講座参加者は、20歳代1名、30歳代2名、40歳代5名、50歳代1名、60歳代4名 計13名。

講座を企画する際には、講師との念入りな打合せをおこない、実際の実習では、ゆっくり丁寧な指導や調理の簡単ヒント、また、My弁当箱を持参して盛り付けるなど、受講生に寄り添いながら無理なく楽しく主体的に参加できるように配慮したことが、いい結果につながった。

3回の講座の最後の日に、受講生の中から「もう少し続けたい」という声が出てきた。センター側で次回集

まれるように場所を設定し、5名以上集まればグループとして登録できることを伝えた。しかし、最初の会には3名しか集まらなかったため、センターから講座修了生に新しい会が立ち上がったことを知らせ、その会に参加するように呼びかけをおこなった。

結果的に6名の参加希望者（20歳代1名、40歳代2名、60歳代3名）が集まりグループが立ち上がった。グループの名前をCookingと食べるからといって「COO会」（くうかい）とつけ活動を開始した。無理のないように月1回第3木曜日の夜に集まることとし、指導者は自分たちが順番に当番制で引き受けることにした。材料費のみ1人500円/月と設定、当番の人がメニューを決定しレシピの準備と買い物、当日の講師役をおこなっている。当番の時には事前に自宅で調理の練習をしてのぞむメンバーもおり、会に入る前から料理をしていた人、全くしたことがない人、それぞれができることから少しずつチャレンジし、和気あいあいとした雰囲気の中で活動している。この会の特色は全員が当番として主体的に関わり、生活の総合力を高めることでさまざまな気づき生まれ、「性別役割分業意識」の変化につながっていることである。活動を続ける中で、時間の経過とともに出てくる生活上のさまざまな出来事を通して、男性の生活的自立の必要性を感じ、みなで支え合いながら活動できるように成長した。

グループ結成から2年半の間に取ためたレシピと写真があったので、平成24年の「市民団体支援事業」に応募して、成果を市民に見てもらったらどうかと提案した。その結果、新たに自分たちの活動の様子を写真に撮り、レシピとともにフェスティバルで展示発表した。これが大変好評で、料理写真の下にはりつけたクリアポケットの中のレシピがなくなるほどでした。家族や友人が展示を見にセンターを訪れ、男性たちが自主的に楽しみながら活動を続けていることに驚き、賞賛の声が上がった。彼らにとってもとてもいい刺激になり、さらなる企画を考えている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

このグループを継続できるように、職員も時々様子を見に入ったりしながらグループを支えている。グループはその後、休会者が2名あったが、新たなメンバーの加入もあり現在6名で月1回の活動が続いている。フェスティバルに参加し好評であったことでグループのモチベーションが上がり、来年の「市民団体支援事業」に向けて新たな構想を練っている。

センターのニュースレターで展示の活動紹介を掲載したところ、一般市民の男性から参加希望の連絡があり、COO会へとつないだ。生き生きと活動する男性グループが女性センターの中にあることで、男女共同参画に対する市民の目にも変化が起きていくように感じる。

今年度は、高齢者の育児参加をテーマに、「イクジイ養成講座」を実施した。相変わらず参加者はあまり多くはないが、女性センターに足を踏み入れることに抵抗は薄くなっているように感じる。からだを使って子どもと遊んだり、他の男性とからだを触れ合ったりすることも抵抗なくこなしている。この講座の参加者もとても楽しかったと感想を述べている。

今後もマスコミの力なども借りながら、男性の男女共同参画意識を高めるためにさまざまな講座の企画を工夫していきたいと考えている。

平成21年度 もりおか女性センター主催講座：今年度テーマ「広げよう、わたしたちの学びと行動を！」

**男性応援講座**  
サクサク、サクサク **弁当男子**  
● 弁当男子の世界へようこそ♪ (全3回)

日時：2009.12/2 (水) 9 (水)、17 (木)  
19:00～21:00  
会場：もりおか女性センター本館生活アトリエ (プラザおでって5階)

か当(作り)から始める生活力アップ! 5つの楽しみ

- 一、節約
- 二、健康
- 三、エコ
- 四、時間管理
- 五、手際

●講師「小原 薫さん」  
バシダアール・フルーグマイスター(日本バシダアール・フルーグマイスター協会認定) アトリエ Afternoon Tea (19時～21時)にて開催いたします。

|                                                     |                                              |                                                |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第一回<br>12/2 (水)<br>～サクサク、サクサク「にぎらない(?) おにぎり」にチャレンジ! | 第二回<br>12/9 (水)<br>～サクサク、サクサク「ロコモコ弁当」にチャレンジ! | 第三回<br>12/17 (木)<br>～サクサク、サクサク「サーモンピカタ」にチャレンジ! |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------|

対象 弁当作り初心者、初級者の男性 (原則、全回参加できる方)  
定員 15人  
参加費 受講料無料。但し、材料費のみ自己負担 1,500円  
持ち物 エプロン、三角巾(ハンダクなど)  
申込方法 11月19日(木)10時から、電話(604-3303)にて先着順に受け付け  
(※開館時間—平日9時～21時30分、土日祝日9時～17時)

●申込み・問い合わせ先  
もりおか女性センター(本館) 電話 019-604-3303  
〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-10 プラザおでって5階 <http://mjsan.kaku-nbo.jp>  
もりおか女性センター 指定管理者：NPO法人 夢画プランニング・いわて  
※専用の駐車場はありません。プラザおでって地下駐車場および近隣の有料駐車場をご利用ください。

**散歩みち**

男性の生活力アップを目的に企画した盛岡女性センター主催の「弁当作り講座」に参加した。

一念発起、弁当作りに挑戦

早速家に持ち帰り、妻に試食してもらおうと「初めてにしてはおいしいよ。70点くらいかな」とまずまずの評価。次は100点目指して頑張ります。

【宮崎隆】

一念発起した。午後7時すぎ、妻に借りたエプロンを手におそろのおそろの会場のドアを開けると、既に10人ほどの参加者が準備を始めていた。「中」

方からオープンコースターの使い方で手取足取り習いながら2時間弱かけて、チキンライスの上にハンバーグを乗せた「ロコモコ弁当」を完成させた。

学生の娘の弁当を作ろうと「趣味の山登りに持って行くため」などと動機や年齢層もさまざまだが、料理に関して素人という点は皆同じ。野菜の切り

2009.12.13 (日) 毎日新聞「散歩みち」

〈もりおか女性センター アドバイザー 平賀 圭子／本館事業グループリーダー 加藤 清子〉

## 施設名

# 東京都大田区立男女平等推進センター 「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北4-16-4  
Tel : 03-3766-4586 ホームページ : <http://www.escenaota.jp/>

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

大田区は、東京都23区のひとつで、東京都の東南部の位置にあり、東は東京湾、西と南は多摩川を挟み川崎市と隣り合い、品川区、目黒区、世田谷区と隣接している。

高級住宅街と呼ばれる田園調布、山王（馬込文士村）、日本を高度経済成長期から支えてきた町工場が集積する羽田、物流拠点としての湾岸地域と多様な様相を持つ。羽田空港の国際化により埋め立てられ、広さは60.42平方kmと23区中最大となり、人口（697,094人）も増加し、子育て世帯の転入も増えている。

「エセナおおた」は、平成12年 大田区立男女平等推進センター区民自主運営委員会（区長が委嘱のメンバーが事業を実施）としてあった組織のメンバーにより、NPO法人 男女共同参画おおたを設立、平成18年より指定管理者として、施設管理業務を任された。事業は、そのまま区民自主運営委員会に委嘱。Ⅲ期目、平成23年より、施設管理業務および男女平等推進事業共、NPO法人男女共同参画おおたが、指定管理者として任された。

大田区男女共同参画に関する意識調査報告書（平成21年10月）では、女性が仕事を続けていく場合、男女とも約70%が、「育児休業・保育施設などの労働環境、社会福祉の不備」と「家事・育児」が大きな要因になっていると答え、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を聞いたことがあるかの問いには、男女とも「聞いたことがない、無回答」が56%になっている。また、生活の中での仕事・家事育児・プライベートな時間の優先度については、男性は、仕事優先が約60%、女性は、家事優先、仕事優先に分散している（各約20%）になっており、男性の意識改革、ワーク・ライフ・バランスの認知度を上げることが必須である。

男性講座の地域の男女共同参画推進プランの位置づけとしては、①男性の家事・育児・介護への取り組み支援 ②ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発 としている。

男性を対象とした事業を取り組むにあたっての、施設の方針・方向性としては、「男女共同参画推進プラン」の目的に向けた事業を実施、男性が固定的性別役割分担意識を変えること（男女共同参画の視点）で、女性の再チャレンジ、男性の家庭参画、地域参画、男女共同参画のまちづくりが進むと思われる。地域の問題点とニーズ把握としては、町工場などで働く男性は60歳代、70歳代で現役、組合や町会等の役目もあり、住民の考え方は保守的な人も多い。

子育て中の父親世代は育児に対する抵抗感は少なく、積極的に子育てにかかわりたいと思っている。しかし、ふだんは仕事に追われているため、なかなか仕事以外に時間をとれない状況にある。一方、定年を迎えた団塊世代は、地域情報がほとんどなく、地域活動を求めている。

テーマの設定としては、①男女共同参画の内容は必ず入れるが、わかりづらいので、広報では前面に出さない。②企画の際、ターゲットの年代が企画員になる、またはニーズ調査をする。③ターゲットが求めているもの、その年代に響くもの、社会のニーズを考慮し設定することとしている。

男性が施設に足を運ぶための工夫としては、①家族(妻など)が参加する講座でチラシを配布し、声

かけをして薦めてもらう。②シニア世代は、知人の紹介が効果的なので、知人、企画員、ターゲットのサークルに声かけして誘ってもらう、などを行っている。

## 施設名 ▶ 東京都大田区立男女平等推進センター

事業名（講座名）

# 「パパの手でつくる 赤ちゃんのハッピータイム♪」 ～赤ちゃんウツトリ！ママはにっこり！ベビーダンスとマッサージ～

## 1. 事業概要

### ■事業の位置づけ

- ・男性の家事・育児への取り組み支援
- ・ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の推進

### ■企画の背景

子どもが生まれ、生活が大きく変化する中で、妻とのよりよい協力体制を築くことやワーク・ライフ・バランスの大切さを父親として、男性として考えることが必要である。

親になるまで、乳児が身近にいない生活をしてきた世代の父親にベビーダンス、ベビーマッサージを通して、子育ての楽しさを知り、積極的に育児をおこなえるよう、きっかけ作りをおこなう。

■実施年度 平成24年4月8日（日）、15（日）、22日（日） 午前10時～12時 全3回

### ■ねらい

「大田区男女共同参画推進プラン」より、①男性の家事・育児への取り組み、②ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の推進、③男女共同参画社会に向けた広報啓発を目的とし、ジェンダーに敏感な視点を持ち、ワーク・ライフ・バランスを知ること、自分らしい生き方を考え、夫婦関係、親子関係をよりよくすることをねらいとしている。

■対象 生後2ヵ月からハイハイまでの、第一子の赤ちゃんと父親

### ■テーマ

新生児をもつ父親がベビーダンス、ベビーマッサージを通して、積極的に育児をおこなえるようきっかけ作りをおこなう。また、子どもが生まれ生活が大きく変化する中で、妻とのよりよい協力体制を築くことや、ワーク・ライフ・バランスの大切さを父親として、男性として考え、男女共同参画の視点をもつことを目標とする。

■予算 事業予算（講師料ほか） 57,500円

■募集定員 15組 応募数 72組 参加者数 15組

### ■連携したネットワーク

- ・一般社団法人 日本ベビーダンス協会
- ・ベビーマッサージ Step by Step

### ■事業形態、施設が持っている資源の活用等

- ・ベビーダンス、ベビーマッサージの実践
- ・ワークショップ ワーク・ライフ・バランスの話聞き、日常と合わせ話しあう。
- ・母親は、待っている間、当センターの再チャレンジのビデオ、情報誌を見て話し合う。

## 2. プログラム

|   | 時 間         | 内 容                                                                                                                                                                                                                | 講 師                                                                         |
|---|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 10:00～12:00 | ～こんなにすごい！パパ育児のメリット～<br>・ベビーダンス（手遊び）などを通して、赤ちゃんとのふれあいを学び、子どもが小さい頃から育児をする楽しさ、メリットを知る。<br>ワークショップ<br>・「子どもが泣くことの意味を知る」                                                                                                | 田中由美子さん<br>（一般社団法人日本ベビーダンス協会代表理事、ベビーダンスの考案者）                                |
| 2 | 10:00～12:00 | ～パパとママの幸せは、赤ちゃんをもっとハッピーにする～<br>・ベビーマッサージ実技<br>ワークショップ<br>・「ワーク・ライフ・バランス（WLB）について知る」育児や家事などの経験が仕事にも生きてくることを知る。<br>・子育て中に活用できるサービスなどの紹介（パパ、ママ育休プラスなど）                                                                | 青木博美さん<br>（ベビーマッサージ教室 Step by Step 主催、NPO 法人ロイヤルセラピスト協会認定ベビーマッサージセラピスト認定講師） |
| 3 | 10:00～12:00 | ～ココロとカラダが癒されるマル秘テクニック～<br>・仕事や育児で疲れた時、夫が妻や子どもとできるマッサージ（疲れにくい体作りのコツや、マッサージなどでふれあう習慣をもち、ケアしあう関係の大切さ、支えあいながら子育てをおこなう良さについて知ってもらう。）<br>ワークショップ<br>・パパ・ママの性別役割分担意識からくる育児ストレスについて考え、その対応などを知る。<br>・妻の良い所を書いた手紙（ラブレター）の作成 | 青木博美さん<br>（同上）                                                              |

### 〔参加者の感想〕

- ・日曜日が来るのが楽しみだった。他の赤ちゃんと会う機会もないのでよかった。
- ・他のお父さんの話が聞けて参考になった。同じ悩みがあるのだと思った。
- ・自分の周囲に同じ位の子どもを持つパパがいないので、今回参加できてすごくよかった。
- ・子どもがかわいくなった。（お母ちゃんがいなくてもいける！と思った等）
- ・子どもの様子を気にするようになった。
- ・子どもと2人で過ごす自信がついた。

\* ママプログラム（別室にて）・最終日後半のみ見学 ※参加は自由

「再チャレンジ」のビデオ観賞・エセナおたの発刊の情報紙を読む

ワークショップ（話し合い）

- ・再チャレンジについて
- ・子育ての悩み 等

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

- ・男性の家庭参画をうながすため、父子のみでの参加とする。ベビーダンス、ベビーマッサージを通して、子育ての楽しさ、子どものかわいさに気づき、母親がいなくても子どもと過ごせる自信をつける。
- ・ワーク・ライフ・バランスについて学び、育児、家事の体験は、仕事や人生設計に役立つことを知る。
- ・乳児の父親という共通項のある参加者同士が、ワーク・ライフ・バランス、子育て、夫婦の現状について知り、子育て、夫婦などの悩みについての情報交換や解決策などを話し合うことで、日常生活、家族、仕事など人生について考える機会とする。
- ・第1回（平成20年）、第2回（平成22年）、第3回（平成23年）、第4回（平成24年）と実施。  
第1回では、ベビーマッサージとベビーサイン（赤ちゃんの手話やジェスチャーを使ってコミュニケーションをはかる）を実施、乳児のため、母乳のこともあるので、夫婦の参加もOKにし、母親は見学の形をとり、

第1回は母親も参加としたが、父親が母親を頼ったり、母親が我慢できず手を出したりがあった。このため、第2回以降は、父子のみの参加を原則とし、母親が参加の場合は、別室、別メニューとした（母親は参加なしでOK）。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

- ・参加者同士が最終回にアドレス交換をしたり、連絡をとりあっているとのこと。
- ・講座後、家族同士一緒に出かけたり、交流しているとのこと。
- ・保育園などの保護者の会（おやじの会、手伝いなど）を積極的にしているとの声が聞かれる。
- ・マンションなどの役員を受けた、なども聞かれる。
- ・講座後、夫婦関係を見直したという声は多い。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

- ・ワークショップの時間を長くして、話し合いを深めることが課題であり、参加者の要望でもある。しかし、その際の乳児への対応、保育の問題（予算など）が難しい。
- ・講座後、父親同士の交流を持続させ、さらに地域活動に影響を及ぼしてくれるような気づきを増やしたい。
- ・サークル化ができればよいと思うが、講座後、職員がコーディネートしていく必要があり、職員確保が難しく課題である。

**人気のベビーダンスとベビーマッサージ**  
**パパの手で作る**  
**赤ちゃんのハッピータイム**  
 赤ちゃんうっとり ♪  
 ママはほっこり ♪

4/8日 4/15日 4/22日  
 毎週日曜 全3回 10:00~12:00

- 会 場：大田区立男女平等推進センター「エセなおた」（地図は裏面）
- 対 象：生後2カ月からハイハイまでの第一子の赤ちゃんとお父さん（全3回出席できる方優先）
- 定 員：15組（申込多数の場合は抽選） ●参加費 無料
- 申込方法：E-Mail または FAX で「エセなおた」へ（詳細は裏面参照）
- 申込締切：3月28日（水）必着

【主催】大田区立男女平等推進センター「エセなおた」

◎ 申込が殺到する人気講座がさらにグレードアップ◎

| 日程      | 内 容                                                      |
|---------|----------------------------------------------------------|
| 1 4/8日  | こんなにスゴイ！パパ育児のメリット<br>抱っこしたままステップを踏む「ベビーダンス」で赤ちゃんにココロ     |
| 2 4/15日 | パパ&ママがハッピーだと、赤ちゃんもハッピー！<br>ベビーマッサージ体験&ワググライフ（ハラス）の意味を知る  |
| 3 4/22日 | ココロとカラダが癒される♡テクニック<br>ベビーマッサージ&おむつを履くマッサージテクニック紹介でママにっこり |

**お申込み方法**  
 E-Mail または FAX に下記を記入  
 ① 講座名「赤ちゃんのハッピータイム講座」  
 ② 氏名と住所  
 ③ 子どもと父親の名前（ふりがな）  
 ④ 子どもの月齢と父親の年齢  
 ⑤ 電話番号

**評判のカリスマ講師**  
 ベビードンサー兼子育て中ママダンサー  
 現在子育て中ママダンサー  
 田中由美子氏  
 （日本ベビードンサー協会 代表理事）  
 /Mのイクメンデビューを  
 しっかりサポートする強い味方です。  
 青木博美氏  
 （ベビーマッサージ教室 Step by Step 主催）

●申込締切：3月28日（水）必着

**申込先・主催**  
 〒143-0016 大田区大森北 4-16-4  
 大田区立男女平等推進センター  
 「エセなおた」  
 （JR大森駅から徒歩8分）  
 ☎：03-3766-4586  
 FAX：03-5764-0604  
 E-MAIL：escena@escenaota.jp

**エセなおた 検索**

今スグ  
 簡単申込み★



## 施設名▶東京都大田区立男女平等推進センター

事業名（講座名）

## 「男の生き方塾」 ～元気で人の役に立つカッコいい人生を楽しむコツ～

### 1. 事業概要

#### ■事業の位置づけ、企画の背景

職を辞した後、企業社会（タテ社会）から地域社会（ヨコ社会）への切り替え等、意識改革が難しく悩んでいる男性に対し、「地域社会参画について」共に考えながら、ワーク・ライフ・バランス、夫婦関係・友人づくり、生きがい、地域の活性化など、残りの20年（10万時間）を、元気でいきいきと、地域の役に立ちながら楽しく有意義に生き抜く極意を伝授する。

#### ■実施年度

平成24年10月3日（水）、10月10日（水）、10月17日（水）、10月24日（水）、10月31日（水）  
午後7時～9時 全5回

#### ■ねらい

「大田区男女共同参画推進プラン」

基本目標 I 課題 1 施策の方向①男性の家事・育児・介護への取り組み支援

2 施策の方向①ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の推進

II 課題 2 地域活動の場での男女共同参画の促進 施策の方向①地域活動の参画促進

職を辞した男性の地域社会への参加と、家事・育児・介護への参画を支援し、生き方を見直し、楽しく生きる。

■対象 おおむね50歳以上の男性

■テーマ ワーク・ライフ・バランス、男性の家事、介護への参画、家族（夫婦）について考える。  
地域活動の場での男女共同参画の促進。

■予算（講師料ほか）63,500円

■募集定員 25名 応募数28名 参加者数25名（40歳代1名、50歳代5名、60歳代13名、70歳代6名）

#### ■連携したネットワーク

昨年度までの「男の生き方塾」の参加者が作っているサークル「サードエイジサロン」が企画、運営。

## 2. プログラム

| 回 | 実施日時                             | テーマ・内容                                                                                                                                                                                                                                                            | 講師・担当                                                       |
|---|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 1 | 2012年<br>10月3日(水)<br>19:00～21:00 | 「男の生き方塾」の歴史と狙い(19:00～19:30)<br>気の利いた自己紹介(19:30～21:00)<br>最初グループで話し合い、次に全体で自己紹介を行った。<br>グループでの自己紹介は各自が1分程度自己紹介し、次にそれを受けて隣の人に「他己紹介」をしていただき、工夫のない自己紹介がいかに印象に残らないかを体験した。<br>自己紹介のポイントを紹介して、次に各自、自己紹介文を作り、最後に2分間で、全体に対して自己紹介をして終わった。                                   | 中西光彦さん<br>(サードエイジサロン)                                       |
| 2 | 10月10日(水)<br>19:00～21:00         | 「近所付き合いの会話術」<br>近所付き合いは「あいさつ」から始まり、「人を褒め・元気づける会話」——「雑談力」がポイント<br>近所付き合いについて、グループワークをし、結論を代表が発表し、多くの方の悩み、解決方法を知り、知識が共有できた。会話は難しくペット、子ども等の仲介者が必要という結論になった。男女共同参画社会の推進を理解しないと異年代(特に若い世代)や女性たちと一緒に地域活動をしていくことは、難しいことを学んだ。                                             | 小林 昭文さん<br>NPO法人日本アクション<br>ラーニング協会シニアコーチ<br>埼玉県立高等学校教諭      |
| 3 | 10月17日(水)<br>19:00～21:00         | 「家庭内コミュニケーション術」<br>最初に家庭内での悩みをオープンできる範囲でポストイットに記入し、次に、その中からどの悩みの解決策を検討するか話し合い、課題を決定し解決案を出し合った。悩みの多いグループと悩み無しのグループに分かれた。悩み無いグループはこの状況を維持・改善するための方策を、悩み多きグループは、解決案を策定して代表が発表し、全体で問題の本質を共有した。他人の家庭でも同じ悩み、改善の方向が同じでびっくりしたとの声があった。この話し合いでも若い人は、男女共同参画は当たり前のこととの認識であった。 | 小林 昭文さん<br>(同上)                                             |
| 4 | 10月24日(水)<br>19:00～21:00         | 「楽しい老後の演出 家庭では威張らず、謙虚で、適度のストレッチ」<br>職を辞した後の10万時間の使い方について、いろいろな事例から、理解できた。キーワードは「行動すること」であることも教わった。妻との良い関係づくりにも「動く」ことが重要であることを学ぶ。特に今回は高齢者の夫婦関係について話し合い、積極的に参加し、相手の立場を理解した発言が多く、明日から相手を褒めて、感謝するというようになった。                                                           | 大島 政義さん<br>(さわやか福祉財団で、ワーク・ライフ・バランス関連事業の取りまとめ役として活動、講演実績も多数) |
| 5 | 10月31日(水)<br>19:00～21:00         | 「わいわいガヤガヤ語り合おう」<br>講座の締めくくりとして全体のふりかえりをおこない、それを各グループで話し合い、各グループのまとめを作った。同時に、話し合いを通じて、また、各自が講座を通じて感じたことや学んだことを、ひとり3分で発表した。                                                                                                                                         | サードエイジサロンの<br>メンバー                                          |

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

- ・男女共同参画の視点を盛り込むために、企画の内容について、事業会議(事業企画、事業運営をするボランティア、職員計14名で構成された会)にて意見を出し合い、企画会(前年度までの男塾の参加者で構成されているサードエイジサロンという会)へ伝えた。また講師打ち合わせの際、こちらの目的、テーマについて伝え、講座に盛り込むように依頼した。
- ・ワーク・ライフ・バランスについて学び、家庭、地域活動、仕事のバランスは、人生に役立つことを知る。
- ・講義を聞いた後、参加者同士がワークショップをおこなうことで、夫婦、職場、地域の人間関係について、具体的な行動が見える内容にしている。
- ・目に止まるように「元気で、人の役に立つ」、会話術、コミュニケーション、近所づきあいなど定年前後の

- 世代が関心をもっていること、不安に思っている言葉をタイトルなどに入れ、チラシ作成を工夫している。
- ・ 講座の中で、男女共同参画について、また大田区男女平等推進センターとしての役割についても説明し、カルチャーセンターの講座との違いを知ってもらい、また面白いだけ、楽しいだけで良いという講座ではないことを理解してもらう。
  - ・ 講座だけでは、男女共同参画の学びは難しいため、講座後、サークルに誘う、ボランティア活動に誘うなどして、継続的に活動しながら学んでもらえる工夫をしている。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

- ・ 講座後に実践できる内容を多く取り入れ、ふりかえりにも時間をかけたことで、妻の話を意識して聞くようになった、コミュニケーションをとるようになった、地域の集まりに出かけてみた等、講座で学んだことを実践したという声が多く聞かれた。
- ・ 講座で、自信をつけた修了生は、福祉関係、高齢者関係、社会教育課、子育て支援課などの事業の企画、運営、支援に関わり、活動の場が広がっている。
- ・ 平成16年より、毎年「男の生き方塾」を開催し、9年目となり、団塊世代の地域デビューが騒がれた時代から、毎年定年退職で地域に戻る方が参加し、年齢も違った世代交流ができるようになった。
- ・ 講座の修了生からできているサードエイジサロンがサークルから、今年度は、ひろば事業（月に1回誰でも参加でき、情報交換、学び合い、おしゃべりなどする会）となり講座参加者以外の人々、また女性（独身で、定年後の男性の問題に興味のある方）も参加するようになり、学びや実践（子どもたちと、お菓子作り、軽食作り、凧づくりを一緒にする等）をおこない楽しんでいる。
- ・ 修了生は、学習会を企画・運営する、講座の企画員、スタッフになる、講師、アシスタントに登用、イベントの企画、運営に関わるなどのしかけをおこない、活動の場を多く提供することで、活躍が広がっている。
- ・ 男塾で学んだことを機会に情報や仲間を得て、活動の場の広がった修了生が多い。具体的には、市民大学の企画・運営、町会、マンションなどの自治会の役員、子育てイベントのスタッフとして運営・補助ほか、障がい者施設の庭の手入れ、各施設のおまつりの手伝い、子育てひろばでのベビーカーのメンテナンス、行事の手伝い等など区内全域での活躍が増えてきている。
- ・ 活動の中での悩みなどをサードエイジサロンで話し、男女平等について学習することで、自分らしく楽しく活動していくことをめざしている。「エセナおおた」の広場事業として開催し、事業担当メンバーが、情報提供、区内外の活動紹介などもしている。
- ・ 今年度は、調理を別枠にし、調理の初級編、中級編の2つの講座で誘い、男の生き方塾へ誘う工夫をした。また、区民企画講座では、地域でシニアの方々が世代間交流の居場所を作っている団体が「リタイア後を10倍楽しく！～今から準備する男の教養講座～」を企画・運営し、男性のシニア向け講座を多く企画した。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

- ・ 会社など組織で仕事をしてきた男性が、地域デビューすることは、かなりハードルが高いようで、講座などへの参加はスムーズでなく、「退職浪人」という言葉も生まれている。講座の必要性はあるが、ターゲットにまだまだ届きにくい、届いて講座に参加しても年1回開催では、意識が継続しにくい。
- ・ 50歳代、60歳代の男性は、今の生活態度、言動が家族にも周囲にも理解されていると思込んでいる人が多いが、子ども世代、孫世代、妻からは、理解しにくいという声が多い。男性は、人権だとわかると言う人も多いが、男女平等としては、焦点がボケてしまうので、理解にはかなり時間と工夫が必要である。
- ・ 講座の企画、サークル運営などを進めていくためのコーディネーターなどが必要であるが、こうした存在になる人材は、活動がどんどん広がり忙しくなる。このため、コーディネーター、リーダー役の養成も必要になってきている。
- ・ 講座が始まったころは、話し合い、ワークショップになると本音で語られなかったり、話し合いはイヤだとい

う声もあったが、近年では、話し合い、ワークショップが盛り上がっている。しかし、男性だけでは、男女平等は、わかりづらいので、男女による議論が必要という声もあり、検討課題である。

・展望

- ①いろいろな年代の男性に、その年代にあった男女平等を理解できる学習方法を考え、実践する中で、一人ひとりが自分らしく生きられる快適な社会をめざしたい。
- ②現在実施の講座は、ジェンダーの視点をもった男性が地域の中で活動したり、地域リーダーとして活躍することをめざしているが、特にシニア世代は、男女平等への理解には、地道な積み重ねの学習と実践が必要であるため、時間をかけていきたい。

## 「男の生き方塾」 受講生募集 **元気で人の役に立つ** カッコいい人生を楽しむコツ

願を祈した後、企業社会から地域社会への意識の切り替えが必要です。この講座は地域活動への参加で幅広い経験のある同年代の男性グループが企画しました。「地域への参加」についてともに考え、生涯学習、友人づくり、生きがいづくり、地域の活性化など、残りの20年、10万時間を元気でいきいきと有意義に生き抜くヒントを見つけるための講座です。

長年のお勤め、お疲れさまお帰りなさい！

テレビを消して、本を閉じて外に出よう！  
新しい世間があるあなたを待っている。



新しい「世間」(地域・近所)で何をやるの

- ・楽しいことをする
- ・役立つことをする
- ・仲間を見つける

○地域で頼りにされ信頼される関係づくり  
**元気で人の役に立つカッコいい人生の実践**

### 10月3日～10月31日 毎週水曜日 19時～21時

◆会場：大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」  
◆対象：概ね50歳以上の男性 ◆定員：抽選で25人  
◆申込締切：9月20日(木)必着 (申し込み方法は裏面をご覧ください)

| 回 | 日 時                  | テーマ・内容                                       |
|---|----------------------|----------------------------------------------|
| 1 | 10月3日(水)<br>19時～21時  | オリエンテーション<br>気の利いた自己紹介                       |
| 2 | 10月10日(水)<br>19時～21時 | 課題解決のコミュニケーション①<br>近所付き合いの会話術                |
| 3 | 10月17日(水)<br>19時～21時 | 課題解決のコミュニケーション②<br>家庭内コミュニケーション術             |
| 4 | 10月24日(水)<br>19時～21時 | 楽しい巻頭の演出<br>20年、10万時間の有益な過ごし方・楽しみ方           |
| 5 | 10月31日(水)<br>19時～21時 | コマラス 外に出て「仲間をつくらう」<br>「これからできること」「やりたいこと」は！！ |

主催：大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

## ↑ FAX送信票 FAX番号03-5764-0604

「男の生き方塾」2012 「元気で人の役に立つカッコいい人生を楽しむコツ」に申し込みます

|                           |     |   |
|---------------------------|-----|---|
| (ふりがな) 氏 名                | 年 齢 | 歳 |
| 住 所 〒                     |     |   |
| 連絡先 ( 電 話 ・ FAX ・ E-mail) |     |   |

■ 講師紹介  
小林昭文さん/NPO法人日本アクションリサーチ協会シニアコーチ  
前校の助産師の先生で空手の達人。話し合いによる問題解決の手法やコミュニケーション術が好評。  
大島政義さん/「公益社団法人 さわやか福祉財団」で長年世話人を務められ、退任された今、「恩返り」(にんだんかわり)【団塊世代の恩返し】を立ち上げ、サードエイジの楽しみ方を演出している。

■ 会場  
〒143-0016 大田区大森北4-16-4  
大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」1階 会議室  
(JR大森駅東口から徒歩8分、ハローワーク大森の2軒隣)

■ 申し込み方法  
FAX、E-mailまたは往復はがきに  
①講座名「元気で人の役に立つカッコいい人生を楽しむコツ」 ②〒住所 ③名前(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号 をご記入のうえお申し込みください。  
※申し込みを受付(次第)から迄お申し込みをします。  
申込後3日を超えても返信がない場合は必ず電話でお問い合わせください。  
※個人情報は講座目的と今後の講座案内以外には使用しません。

■ 申し込み締切 9月20日(木)必着

■ 申し込み先・問合せ先  
大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」  
〒143-0016 大田区大森北4-16-4  
電話：03-5766-4586  
FAX：03-5764-0604  
E-mail：escena@essoena.jp



「エセナおおた」古澤 里美

## 施設名

## 豊島区立男女平等推進センター

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-37-4 勤労福祉会館3F  
電話：03-5952-9501 ホームページ：<http://www.city.toshima.lg.jp/jinken/danjokiyodo/index.html>

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

豊島区立男女平等推進センター（愛称：エポック10）は平成4年に「女性をとりまく諸問題の解決と男女共同参画社会の実現に資すること」を目的に設置され、平成15年に施行された「豊島区男女共同参画推進条例」で豊島区の男女共同参画を実現するための拠点施設として位置づけられている。設立当時は池袋駅の駅ビルに開設され、利便性や知名度が高かったために登録団体が約140団体あった。

平成17年に移転し、現在は池袋駅西口から徒歩8分程度の複合施設に設置されている。児童館機能と高齢者の居場所機能をもった「区民ひろば」「勤労福祉会館」「郷土資料館」と併設されているため、建物自体には各年齢層の男女が来所する。そのため、男性主体のグループが環境や介護の勉強会等で定期的に交流コーナーや研修室を利用していることもある。平成24年度現在の登録団体数は約70団体、当センターが主催した男性向け介護講座のOBが結成した男性グループもある。

当センターは区の直営であり、男女共同参画行動計画の策定、計画の進捗管理をおこなっており、また、その計画を反映しながら啓発事業や相談事業を実施しているため、区の男女共同参画施策を体系的かつ効率的に展開している。

職員は区職員5名（所長を含む）、学習コーディネーター2名、相談員2名、臨時職員1名で構成されており、夜間の研修室の貸出しや受付業務は臨時職員2名が対応している。

池袋という繁華街を抱えた豊島区は、人口約26万9千人、人口密度は平成24年1月現在ヘクタールあたり205.7人の全国一の高密度都市である。また、転出入により年間約2万人（人口の10分の1弱）が入れ替わっている。この環境において、平成23年度に実施した住民意識調査では当センターの認知度は約25%であった。また、「男女平等になっていない」と回答した女性52.1%、男性36.1%という状況である。

平成22年度から検討をはじめた第3次豊島区男女共同参画推進行動計画（平成24年～平成28年）を策定するにあたり、「男性にとっての男女共同参画」を盛り込むことは大きなテーマとなり、結果、「重点課題（10）男性や子どもにとっての男女共同参画の推進」「施策④男性にとっての男女共同参画の推進」「事業番号65両親学級・父親対象育児講座における意識啓発」「事業番号66中・高年の活動支援」「事業番号67男性の参画を積極的に促す講座の展開」「事業番号68男性の心身の健康」が具体的に掲げられることとなった。

**施設名 ▶ 豊島区立男女平等推進センター**

事業名（講座名）

**ワーク・ライフ・バランス推進事業  
（ワーク・ライフ・バランスフォーラム、区民応募企画）**

**1. 事業概要**

※以下「ワーク・ライフ・バランス」を「WLB」とする。

豊島区第2次男女共同参画推進行動計画改訂版（計画期間：平成19～23年度）において、「重点課題（8）家庭生活と社会生活との両立支援の推進施策⑭男性の育児・介護参加とWLBの推進」を掲げており、第3次計画では「重点課題（5）家庭生活と仕事の両立支援の推進施策⑭WLBの推進」として引き続き取り組むこととしている。

平成19年に「仕事と生活の調和（WLB）憲章」や「仕事と生活の調和のための行動指針」が出されたが、WLBの意義が認識されにくい状況であった。実際、平成21年度に実施した住民意識調査ではWLBという用語を「知っている」との回答は36.7%となっており、「知らない」と回答した53.3%を大きく下回っていた。そのため、WLBの重要性や必要性を理解してもらい、WLBを推進することにより女性にも働きやすい職場環境の構築や男性の家事・育児参加が実現できることを広く周知する必要がある。

このような状況があり、多くの参加者を得て情報共有できる場となるよう、平成20年度から毎年1回計5回、「WLBフォーラム」を開催した。

フォーラム対象者（5年間共通）は「企業の経営者、人事労務担当者、働き方に興味のある方」とし、企画にあたっては、一般区民に向けてはWLBの意義について理解を深める機会とするとともに、企業経営者等に対しては、中小企業におけるWLBについて実践的な例を紹介することにより、自社でも取り組めるという意識をもってもらえる内容となることを心がけた。

- 平成20年度 会社を元気にするワーク・ライフ・バランス ……参加者100名
  - 平成21年度 会社を元気にする働き方の見直し WLBへの第一歩 ……参加者 86名
  - 平成22年度 データから読み解く！WLB活用術 ……参加者107名（女性47名・男性60名）
  - 平成23年度 聴かなきゃ損！WLBの実践 ……参加者186名（女性71名・男性115名）
  - 平成24年度 実践あるのみ！ワーク・ライフ・バランス ……参加者 96名（女性63名・男性33名）
- 共催、協賛とも5年間共通  
共催：東京都労働相談情報センター池袋事務所  
協賛：東京商工会議所豊島支部・（社）豊島法人会・（社）豊島産業協会

**2. プログラム**

- 平成20年度 会社を元気にするワーク・ライフ・バランス
  - 第1部 基調講演 講師 木谷 宏さん
  - 第2部 シンポジウム形式でNPO法人の代表やWLBに積極的に取り組んでいる企業に勤務する職員による取り組み紹介など
- 平成21年度 会社を元気にする働き方の見直し WLBへの第一歩
  - 第1部 基調講演 講師 竹信 三恵子さん
  - 第2部 シンポジウム形式でWLBに積極的に取り組んでいる企業2社の取り組み紹介
- 平成22年度 データから読み解く！WLB活用術
  - 第1部 基調講演 講師 渥美 由喜さん
  - 第2部 シンポジウム形式で豊島区WLB推進認定企業の取り組み紹介

区民から募集した「WLB川柳展」を同時開催

平成23年度 聴かなきゃ損！ WLBの実践

第1部 基調講演講師 小室 淑恵さん

第2部 シンポジウム形式で豊島区 WLB推進認定企業の取り組み紹介

区民から募集した「イクメン写真展」を同時開催

平成24年度 実践あるのみ！ワーク・ライフ・バランス

第1部 基調講演講師 岩田 喜美枝さん

第2部 参加企業の女性職員の交流会

区民から募集した「イクジイ写真展」を同時開催

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

働く人々のWLBが実現すれば、社会のさまざまな場面で男女共同参画が可能となる。そのため、多くの企業、地域住民にWLBの重要性、必要性を知ってもらうことを重視した。まずは企業経営者や人事労務担当者の意識改革が必要であるため、企業の研修として参加してもらえるよう平日の午後に実施している。当センターは企業との接点が少ないため、企業との連携が強い行政機関や民間団体と共催、協賛し、参加者確保に努めた。

豊島区WLB推進企業認定制度への申請を促すことにより、各企業でのWLBの実践につなげる工夫をしている。具体的には、申請内容の確認のために企業を訪問した際に、豊島区が作成・発行している「区内企業のWLB取組事例集」や東京都が発行している「働く女性と労働法」などを用いて、具体的な取り組み方法を説明している。認定を受けることのメリットやそもそもWLBの重要性が浸透していないためか申請は少ないが、同業者ですでに認定された企業や産業関係団体から勧められたり、企業とかかわりのある庁内他課から紹介されたりして申請する企業がある。

企業の経営者や人事・労務担当者は男性が多いため、男性に注目してもらうためにはチラシや広報に「統計」「データ」等の単語を用いた方が仕事の一環というイメージをもってもらえるのではないかと意見もあり、フォーラム周知の際にそのような単語を使うよう心がけた。また、メディアに登場する機会の多い人物に基調講演を依頼すると参加者が多くなる。その場合、講師料が高額になるが、関係機関との共催やこの事業の実施意義を講師に伝えること等により講師料交渉をおこなっている。

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

フォーラム後のアンケートの感想には「自社に持ち帰り、実践したい」というものが多く、参加者の満足度は高い。また、育休中の男性参加者がシンポジウムで職場復帰への不安を語った際には、育休中の女性の多くが感じていることを男性が語るという珍しい状況に多くの参加者が社会が変化しつつあることを感じ取った。

「男女平等推進センター」を利用する機会が少ない参加者に対し、当センターの存在や取り組みを周知する機会にもなっている。

東京都労働相談情報センター池袋事務所と共催することにより、都内全域にフォーラム開催の周知をするため集客につながっている。また、東京商工会議所豊島支部、(社)豊島法人会、(社)豊島産業協会の協賛を得て、各団体の会員への周知を依頼しており、地元の企業関係者の参加につながっている。また、平成24年度からは東京城北勤労者サービスセンターにチラシの配布を依頼し、区内中小企業への周知に努めた。

平成22年度からフォーラムと同時開催している川柳や写真の展示も男性からの応募もあり、大変好評である。

### 5. 今後に向けた展望と課題

育児休暇・休業を取得する男性が若干ながら増えているという報道もあったことから、今後も継続してWLBの推進に取り組むことが必要であると捉えている。

現在のWLB推進事業は企業関係者を対象とした事業に重きをおいているため、「イクメン写真展」「イクジ

「写真展」等地域住民が参加しやすい事業を大きくする工夫も必要であると感じている。

ワーク・ライフ・バランスフォーラム

## 聴かなきゃ損！ ワーク・ライフ・バランスの実践

**イコメンカシダン  
写真展同時開催**

日 時：平成23年10月26日（水曜日）午後1時30分～4時30分  
会 場：豊島区立勤労福祉会館 大会議室（6階）  
対 象：経営者、人事労務担当者、働き方に関心のある方など

10月26日（水）  
定員 100名  
（先着順、抽選あり）

**基調講演** 午後1時30分～2時50分  
～新しい人事戦略、欠員補充ゼロの職場術～  
講師 小室 淑恵 氏  
（株）ワーク・ライフ・バランス 代表取締役社長

**シンポジウム** 午後3時～4時30分  
弊社（ウチ）もやっています ワーク・ライフ・バランス！  
～豊島区ワーク・ライフ・バランス認定企業からのメッセージ～

**パネリスト**  
平野 吉彦 氏 / 東京信用金庫 人事総務部長  
四元千佐子 氏 / (株) ゼネット 総務部マネージャー  
小室 淑恵 氏 / (株) ワーク・ライフ・バランス 代表取締役社長

**コーディネーター**  
笠原 智子 氏 / (株) インデリジェンス キャリア研修講師

【小室 淑恵（こむろ よしえ）氏】  
アメリカ滞在中のベビーシッター先で、シングルマザーの女性が育児とキャリアの両立を余念に悩む姿を受け、そこから育児と仕事の両立支援を自らのテーマに掲げ、2006年（株）ワーク・ライフ・バランスを設立。女性の育児休業に限らず、男性の育児休業者、介護休業者、うつ病などでの休業者が職場にスムーズに復帰できるように「armo（アルモ）」を開発。1児の母、高学歴の女性として多くの人から支持を得ている。  
「新しい人事戦略 ワーク・ライフ・バランス～考え方を導入しよう」（日本労働協会やメジウムセンター等）、他ワーク・ライフ・バランスに関する著書多数。

●電話・FAXでお申込みの方【要面参照】  
豊島区立男女平等推進センター（エポック10）  
電話：03-5952-9501 FAX：03-5391-1015  
東京都労働相談情報センター池袋事務所 事業普及課  
電話：03-5954-6505 FAX：03-5954-6502

●インターネットをご利用の方  
豊島区立男女平等推進センター（エポック10）  
A0029117@city.toshima.lg.jpへ必要事項をメールしてください。  
東京都産業労働局雇用政策課HP「TOKYOはたらくネット」  
以下を照して「労働セミナー」をクリックしてください。  
http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/

【会場】豊島区・東京都労働相談情報センター池袋事務所 【講師】東京信用金庫株式会社 人事総務部長 平野 吉彦氏 / (株) 豊島産業協会 / (社) 豊島法人会

ワーク・ライフ・バランスフォーラム

イコメン写真展  
同時開催

## 実践あるのみ！ ワーク・ライフ・バランス

～社員の元気は会社の元気～

◆平成24年10月31日（水）◆

開催時間：午後2時～5時 費用：無料  
会場：勤労福祉会館6階 大会議室 公開講演 定員200名（先着順・抽選あり）  
対象：経営者、人事労務担当者および働き方に関心のある方など

企業の経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）が注目されているが、自社にどう取り入れていくか課題となっている企業も増えています。ワーク・ライフ・バランスの経験、取り組み方、導入のメリット、働き方の改善について実例を交えながら、岩田喜美枝氏にお話しさせていただきます。

**基調講演** 午後2時～3時30分  
ワーク・ライフ・バランスのすすめ  
～社員の多様性を企業の実力にする～  
講師：岩田 喜美枝 氏  
株式会社資生堂顧問/財団法人21世紀職業財団会長

**交流会** 午後3時45分～5時  
～みんなの働き方を知りたい！  
女性交流会～  
フォーラムに参加した企業の女性職員同士で、働き方について情報交換し、交流を深めませんか？女性職員同士のネットワークを作りましょう。

岩田喜美枝氏  
（いわたまみえ）  
プロフィール  
1971年、労働省に入省、働く女性支援や国際労働問題を担当し、03年退官。同年株式会社資生堂に入社し、常勤顧問、04年取締役執行役員CSR部長、07年取締役常務を経て、08年同社初の女性代表取締役執行役員副社長に就任。現在、資生堂顧問を務める。また、内閣府男女共同参画会議議員、経済同友会幹事、ワーキングウーマン・パワーアップ会議代表幹事も兼任。

●電話・ファクスでお申込みの方【要面参照】  
豊島区立男女平等推進センター（エポック10）  
電話：03(5952)9501 FAX:03(5391)1015  
東京都労働相談情報センター池袋事務所 事業普及課  
電話：03(5954)6505 FAX:03(5954)6502

●インターネットご利用の方  
豊島区立男女平等推進センター（エポック10）  
A0029117@city.toshima.lg.jpへ必要事項をメールしてください。  
東京都産業労働局雇用政策課HP「Tokyoはたらくネット」  
以下を照して「労働セミナー」をクリックしてください。  
http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/

【会場】豊島区・東京都労働相談情報センター池袋事務所 【講師】東京都労働局雇用政策課 岩田喜美枝氏 / (社) 豊島法人会

〈豊島区総務部男女平等推進センター 小澤 さおり〉



## 施設名

## 川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口2-20-1  
 電話：044-813-0808 ホームページ：http://www.scrum21.or.jp

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

はじめに、川崎市の地域特性について3点確認しておきたい。まず、本市は東京都および横浜市に隣接し、JRや私鉄、さらには幹線道路もそれらの地域に直結しており、両地域をはじめとする市外への通勤・通学者が多く居住していることが挙げられる。特に市内在住男性においては、市外へと通勤するケースが顕著である。第2に、本市人口の性比（女性人口を100とした場合の男性人口の指数）は104.5と、政令指定都市及び東京都区部などの大都市のなかで最も高く、また、年代については労働力人口の中核となる20歳代後半～40歳代前半の男性が多くを占めていることがある。それゆえ、出生率も1.04と大都市のなかでも最も高くなっている（川崎市総合企画局都市経営部統計情報課『平成22年版 大都市比較統計年表から見た川崎市』）。第3に、本市は工場や中小企業などの事業所が多く在所している。これらの地域特性から、本市における男性対象の事業課題は、主に次の3点にまとめられる。

- (1) 子育てや家庭に関わる時間が相対的に短い [就労男性]
- (2) 関心のある男性に対しても各種情報が行き届きにくい [就労男性]
- (3) 居住地域への愛着や関心が希薄になりがち [就労男性／退職後男性／若年層男女]

男性対象の事業企画・実施にあたり上記の対象層に適した内容とすることはもちろんだが、とりわけ当センターでは、事業所や市民活動団体・グループと連携することにより男性が男女共同参画に触れられる機会を増やし、そのうえで家庭ならびに地域社会への男性市民の主体的な参画につなげることを方針としている。また、当センターは市内唯一の男女共同参画推進拠点施設であり、施設所在地から離れた地区居住者にとって来館は容易ではない。

そのため、市内で広く男女共同参画を推進するため、連携・協働先を開拓していくことを重視している。なお、平成18年に民間事業者で構成されるTEPCOパブリックサービスが指定管理者となつて以降、指定管理代表者（株キャリアライズ）での研修もプログラムに組み込んだ大学生インターンシップ研修や、就労男性を主たる対象としたトークサロンなど、現実において男性が比重をおかざるをえない職業領域を通じての男性への働きかけなど、アプローチ方法を拡充させている。

## 施設名▶川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

事業名（講座名）

すくらむ塾

## 1. 事業概要

## ■背景

地域の男女共同参画推進の担い手として、一方では旧来からの自治会・町内会があり、他方でNPOをはじめとする新たな社会活動組織がある。自治会・町内会はよく知られているように会長をはじめとする役職に占める中高年男性の比率が高く、他方でNPOなどの新しい組織形態は相対的に年齢が低めで、女性が活躍しているケースも多い。地域での課題解決には、それらの組織が協働し、それぞれの強みを活かしていくことが必要である。そのため参加対象者を男女とし、男女のニーズの違いを理解したり、男女が共同して参画していく中で対等に意見を述べたり、手法を学びあう機会が求められる。

■予算 年度により多少の変動はあるが、10回前後の講座で約10万円

## ■参加者

参加年代は特に限定していないが、実質的に子育て中または子育てが一段落した女性、退職後の男性を含めたシニア世代の男女が主な参加者層となっている（大学生や就労者が参加した企画の際は土日開催時のみ）。参加者数は、10名前後の年度が多い。

## ■協力機関

市の市民協働推進部、自治政策部、危機管理室など。数回は、テーマに関連する公開講座の形をとり、学識者や専門家に講演やワークショップを実施していただいている。

## 2. プログラム

平成19年度は、「いざという時に頼れる地域づくり」のテーマで募集し、全12回（8～2月、月1～2回）で平均10名の参加（うち男性4名）。学習講座と課題解決のための実習の組み合わせで実施した。ワークショップを取り入れ、知識習得型の講義形式だけでなく、課題を認識し仲間と課題解決のために考えを整理し、調査したり、まとめたり、意見交換し、行動をふりかえる、今後の行動を考えるという実践の時間を多くとるように工夫を凝らした。

平成20年度は「ワーク・ライフ・バランスー幸せな人生のためのワークスタイルー」をテーマに募集し、全9回（6～12月、月1～2回）でうち公開講座を2回実施、公開講座の講師の書籍を読む読書会なども企画に盛り込んだ。参加7名（うち男性3名）だった。土日開催とし、働く男女が参加し自分にとってのワーク・ライフ・バランスの課題を設定し、調査するなどして、報告書を各自でまとめた。

当該年度は、テーマに沿って働く世代が当事者として課題をどのように捉え、解決する上で自分はどのようなアプローチをするのかを考える機会とするため、連続講座の中に単発で参加できる公開講座を設けるという手法でおこなった。

平成24年度は、東日本大震災をふまえ、「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」としてゴールを明確にした課題解決型の事業とした。参加者は、防災冊子の利活用と今後の地域での防災リーダーの養成（特に女性）のために必要な情報収集・情報発信（過程を見せていく）、講座の企画と運営および講座用の学習教材の作成、調査活動を担当し、冊子を2種類製作するための準備をおこなっている。なお、本年度はテーマの性質上、市民メンバーは女性に限定して募集したが（参加5名）、短期インターンシップ大学生や社会教育指導主事を目指す大学生も8名参加（うち男性4名）している。実施時期は9月～3月で、月1回の正規定定期会議に加え、メンバーが自主的に月2回程度の打合せや取材・学習会・講座の企画や資料準備などの活動をしている。

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

本事業は、女性の政策・方針決定過程への参画促進を目的として平成11年の開館以来「女性政策塾」として実施していたものだが、平成15年度以降、名称を「すくらむ塾」とあらため、対象者を女性のみでなく男女双方として実施している。男女双方に拡充した理由としては、実際の政策・方針決定過程においても女性のみ／男性のみではなく男女がともに討議し、合意形成をめざすことが多く、より実践的にそのプロセスを学ぶことができることにある。また、性別や年齢、ライフステージ、置かれている社会的状況などの点で多様な参加者とかかわることにより、多様な視点を知り、ひいては男女共同参画の意義を実感できることにもなると考えられる。

男性参加者については、起業家支援事業を他部局と連携し実施する中で、NPO・ソーシャルビジネスに取り組みたい男性が男女対象のすくらむ塾の受講生になったケース、公開講座を挟んだ連続講座としたことで公開講座がきっかけで土曜日を中心に参加したケース、若年男性については、夏期・短期インターンシップ事業を（平成18年度以降）毎年実施することにより、継続して男子学生が参加し、男女共同参画にももとは関心がなかったが、自身のジェンダーバイアスに気づく機会となり、卒業研究に関連付けて学習を継続する等のケースがあった。男性参加者の場合は、他の講座等がきっかけで職員が媒介となって男性が参画するケースが多い。

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

平成19年度の受講生は、連続講座を通じて、仲間づくりの難しさ、会社とは異なる表現、地域活動の注意点などについて新たに学習した。受講者のなかには、連携機関が実施する市民活動の基礎講座に仲間となる女性を誘って参加し、メンバーを増やしながら地域で活動の場を増やしている男性もいる。また、審議会等における市民公募の委員となった人、女性の管理職や団体の代表者となり活躍する人もいた。平成20年度の受講生のなかには、地域活動を増やしてワーク・ライフ・バランス実践するということを学習し、長時間労働をはじめとする仕事一辺倒の働き方を見直し、市民活動団体を立ち上げ、プライベートでのパートナーを見つけた人もいた。少人数であっても、彼らにとって男女共同参画センターへのかかわりが新しい視点を開き、自身の行動変容を促す機会となっている。

現在実施している「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」の参加者については、目的と役割を明確にし、男女の学生は調査票の設計など、自分たちが当事者として授業で学んでいることを活かし、自分の生活をふりかえりながら課外活動として参加している。他方、市民公募の女性たちは、講座の企画を練るためにプロジェクト会議とは別に個別の自主勉強会を立ち上げ、テーマに関する市内の市民館等の企画講座に積極的に参加、関係先へのヒアリングも主体的におこなっている。次年度もセンター事業として継続実施していく予定であるため、学習教材を作成する活動を通じて、プロジェクトメンバーの名刺を手にししながら、新たなメンバーを増やすための努力をしている。

### 5. 今後に向けた展望と課題

今後の方向性としては、対象者は男女双方としつつ、ひとつの具体的なテーマについて自分の関心に引き寄せ、「参加してみたい」「自分にも何かできることがあるかもしれない」「考えてみたい」と思うような敷居の低さ（下駄履き感覚）を意識して新規の参加行動を促す形で継続しておこないたいと考えている。人材育成事業では、長期連続講座としての実施は仲間作りをしていくには適している。しかし、仲間を見つけ、そこに留まって学習するための場や機会とするのではなく、そこから地域の課題解決のために行動していく過程のひとつひとつに適切に寄り添いながら自立を促すかかわりを強化していくことが必要であると感じる。例えば、男女共同参画の統計データを知識として資料で学習することはもちろん重要ではある。だが、その資料が示す課題解決のために何をすればよいかかわからず、学習したことが活かさないこともしばしばあると思われる。それゆえ、学習した統計データが意味するところを具体的なテーマのなかで捉え返し、具体的なアクションへと

つないでいくことが必要ではないだろうか。職員には、受講者が解決するための手立てを学習し、仲間と共有し、意見を交わし、創意工夫して行動につなげていくため（エンパワーメント）に必要な支援のあり方を丁寧に分析し、かかわっていくことが求められていると感じる。

平成20年度 連続講座すくらむ塾

今話題の！ 仕事と私生活の両方を充実させる、新しい時代の働き方・生き方をデザインしよう！

# ワーク・ライフ・バランス

—幸せな人生のためのワークスタイルを見つけよう！—

ワーク・ライフ・バランス「仕事と生活の調和」とは、仕事と生活が相互に良い影響をもたらす状態を指す言葉です。生活スタイルの多様化に対応するため、今や多くの企業がノー残業デー、男性の育児休暇取得を促進するなど、ワーク・ライフ・バランスの考え方を取り入れています。多彩な講師陣による「公開講演会」と話題の本を読み解く「読書会」、さらに自分にとって関心のある問題を調べて解決する方法を探す作業の中でワーク・ライフ・バランスの考え方を理解し、幸せな人生のためのワークスタイルをデザインしよう！

**こんな方に最適です！**

- これから就職活動が迫るけど、どういふ企業を選んで、どういふ働き方をしたら自分らしく働けるかな？今の社会の中で、就職希望が叶ってこれるワークスタイルはありますか？
- 仕事で忙しくて趣味の時間も、スキルアップする時間も、仕事の成績を伸ばしたいけど生活も充実させたい。でも仕事と趣味の両方が両立できなくて悩んでいる。どうすればいいかな？
- 先はいつも仕事で家事との時間がとれない。私も子育て中ではあるけれど、家事の中で悩んでいる。でも育児時間があるからと悩まない。どうすれば仕事と家事を両立できるかな？

**すくらむ塾は他の講座とここが違う！**

1. 専ら受講者を迎えた講座と、活発の本を読む授業でワーク・ライフ・バランスの知識が深まります。
2. 自分の関心のあるテーマについて、インタビューや実地調査を行います。
3. 少人数のセミナー形式なので、調査研究に対するバックアップが充実しています。

**第1回 6/28 (土) 14:00~15:30**

●会場：すくらむ21 第1・2研修室 ●対象：このテーマに関心のある市内在住・在学・在勤の方

●参加費：無料

●保育：あり (対象：1歳半以上就学前まで 定員：10名【要予約】) **先着15名**

▼ 申し込み方法 5月27日(火) 9:00より 電話または FAX、メールにて受付開始

川崎市男女共同参画センター すくらむ21 TEL: 044-813-0808  
〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口2-20-1 FAX: 044-813-0864  
mail: [scrum21@scrum21.or.jp](mailto:scrum21@scrum21.or.jp)

主催：川崎市男女共同参画センター

応募にあたってのご質問は  
お電話にて問合せ下さい。  
TEL: 044-813-0808

## 女性の視点でつくる 防災冊子製作準備 メンバー募集中!

3/11東日本大震災以降、1人ひとりの防災への意識は高まっているようにみえます。しかし、もつと女性の視点で考える防災のまらづくりに遅れているため、すくらむ21では、女性の立場からの災害への自衛の備え、心構えのほか、外出先で被災したら？避難所の運営ほかなど、必要となる防災情報、川崎市の特性を踏まえた女性の視点でつくった防災冊子の製作を予定しています。

その製作に携わる製作準備メンバーを募集します。

主に、この製作準備メンバーで25年2月までに

- ① 防災冊子製作のための基礎講座にてリアルタイムで研修を実施します。
  - 1人暮らしの備えの仕方について
  - 1人暮らしの防災意識を高めること
  - 子育て中や高齢者の防災意識について
- ② 防災冊子の製作のための基礎講座・ワーキングショップと研修・講習を行う予定です。

**【実施日】9月～平成25年2月の間(月1回程度・全6回)**  
※9月1日(土)オリエンテーション予定  
※いずれも10時～12時を予定(メンバーで初回に日程調整の上、実施日を決定します)

**【場所】すくらむ21**

**【保育】あり(要予約・お子さん1人につき300円/1回)**  
※9/1分の保育の予約受付：8/29まで

**【対象】市内在住・在勤の女性10名**

**◆申込方法◆**  
所定の申込用紙(裏面参照)に必要事項を記入の上、郵送・持参にてお申込みください。

**◆参加者の決定◆**  
書類審査の上、参加者を決定します。参加の可否については、申込者全員に書面にてご連絡します。(8月25日頃)

申込の切：8/10

## 施設名▶川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

事業名（講座名）

### パパのための子育てサロン「パパり場」

#### 1. 事業概要

##### ■目的

本市は、生産年齢人口の男性が多く、とりわけ市中央に位置する中原区では通勤の至便性の向上と高層マンションの開発等により、乳幼児の子育て世代が増加傾向にある。しかしながら、先述のように、市外の職場へ通うケースが多いため、男性においては地域のつながりや関心が希薄であるという課題を抱えている。

本事業は、女性のみならず男性においても子どもの誕生と成長が家庭や地域社会への参画の大きなきっかけのひとつとなることをふまえ、育児を通じて男性同士がネットワークを形成し、男性の家庭・地域参画を促進していくことを目的としている。

##### ■対象

市内在住の小学生くらいまでの子と男性保護者（講座内容により女性保護者やプレパパの参加も可としている）

■予算 60,000円

■回数 全6回（10～2月）

■定員 募集（各回）20組 応募22組（回により変動あり）

■協力団体 運営を市民グループ「パパ塾」に委託

##### ■運営方法

市民館における市民自主企画講座（パパ塾）への参加者が集まってできた市民グループへ運営を委託

#### 2. プログラム

実施内容は、運営団体との協議を経て決定した。

第1回 パパのための時間の上手な使い方～かたり場サロン

第2回 パパも絵本を選ぼう、読み聞かせをしよう！

第3回 なかはら子ども未来フェスタに参加してみよう！

第4回 パパの子育てを考えよう～パパサミット（市内外からパパグループが参加）

第5回 パパのためのカメラ講座

第6回 ママと仲良く妊娠・出産・子育て期を過ごすコツ

その他、イクメン・カジダン写真展の広報、展示等でも同グループの協力を得ている。

#### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

男性を対象とした事業においては、チラシ・ホームページ・市報が対象者の目にとまることが少ない、自分には関係のない施設とみなされるなどにより集客が容易でないとされており、当センターにおいても同様の課題を抱えていた。とりわけ、学識者や専門家による男女共同参画の理解促進、啓発、意識醸成を前面に出す講座は、男性にとってみれば「お説教」のように捉えられかねず、参加に魅力を感じないのは当然のことでもある。他方で、料理講座や知識習得のための講座は、テーマによってはある程度の参加が見込めるかもしれないが、必ずしも男性が地域参加を実践していくことにつながらないおそれがある。

それゆえ本事業では、対象者と同じライフステージにいる男性自身によって構成される市民グループの協力を得て、どのような内容であれば男性が参加してみたいと思ってもらえるかを当事者である男性自身が企画し、また周囲の同じような境遇にいる男性に呼びかけ、生活に即した内容を当事者の男性自らが体験にもとづいて話をするという形式を採っている。

また、出産前／直後の段階での家庭・地域参画がその後のあり方に大きく関わるため、プレパパも参加できる形態をとった。

単発の講座では、受講終了直後には意義や必要性を理解したとしても、日頃の実践に結びつかないというケースも多くなると思われる。そのため、男性自身が継続して実践していく意味でも、さらにはその人数を増やしていく意味でも、男性のネットワーク形成が重要であると考えている。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

本事業を10月にスタートしてから間もないため、新たなグループ結成、地域や参加者の生き方の変容等の明確な成果はまだ明らかでない。

参加者数については、運営団体が持っていたネットワークを通じて、あるいは別事業であるイクメン写真展（カジダン・イクメンキャンペーンの項を参照）の広報などにおいても運営団体と連携協力することを通じて、本事業を知ってもらい、参加が徐々に増加しているなどの効果が見られる。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

本事業は育児に直面している男性を対象としたものであるが、当然ながら、数年後にはライフステージが移行していかざるを得ない。それゆえ、①現在の市民グループの活動をいかに次世代へと継承していくか、②現在参加している男性たちのライフステージの変化に合わせた活動内容のフォローアップをいかに図るか、という課題がある。

①については、当センターと市民グループとの協働事業として育児や地域活動に参画したい男性を支援する「イクメン研究所」を実施することを計画している。それを通じて、現在の育児世代男性の迷いや悩みも含む体験の中から蓄積されてきたノウハウを次世代へと継承していくしくみづくりを考えている。②については、本年度協力を得ている市民グループ等とも継続して関わりながら、対象者層を育児に限定せず、地域にどのように関わるのかということ意識し、変化していく課題や関心の移り変わりを事業に反映させていく必要があるだろう。さらに、本事業では育児を担っている男性を主たる対象としているが、その前後の年代にあたる男性、具体的には若年層と40～50歳代の男性についてはアプローチが不足していることも踏まえて、世代間のタテのつながりも検討していきたいと考えている。

地域社会はパパの出番を待っています!

# パパり場

IN 川崎  
2012 to 2013

パパになる上場、  
語り場、交流の場  
が「パパり場」です。

今、パパをやっているから、言える。  
「あ、知ってたらできたのに・・・」  
「あれ、やっぱばよかったなー」  
「これは、なかなかいいかも!」  
これからパパになる男性も、  
パパをやっている男性も、  
パパり場であることを楽しめる!それが「パパり場」です。

内容、詳細は裏面下  
ご参照ください。

## 10月27日～2月2日 (全6回シリーズ)

|    |                                                                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------|
| 会場 | すくらわ21 4F 多目的室 (10/27, 11/11, 1/26, 2/2)                                |
| 対象 | 0歳～小学生くらいまでの子どもと男性保護者 (パパり場のご参加いただけます)<br>(※11/23, 12/19, 1/26は事前での参加可) |
| 定員 | 先着20組                                                                   |
| 保育 | あり (両者の場合、両方も可、11/23, 12/19は除く)                                         |
| 運営 | 川崎パパり場                                                                  |

**申込案内**

お申込みは9月25日9:00より

電話、FAX、ホームページにて受け付けます。会場および申込方法の詳細は裏面をご覧ください。  
主催：川崎市男女共同参画センター（愛称：すくらわ21）

## 施設名▶川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

事業名（講座名）

## カジダン・イクメンキャンペーン

### 1. 事業概要

#### ■目的

本事業は、職場優先になりがちな男性の働き方の見直しや父親の家事・育児への参画、男女が協力して子育てに関わることについての学習機会と情報提供を目的としている。

川崎市は各区が南東から北西へと広がり、当センターの所在する、あるいは隣接する区以外からのアクセスは容易ではない。また、講座等への参加は、もとより回数や人数にも限りがある。そのため、身近な場所、機会、方法により男女共同参画に触れる機会を創出するため、事業所・団体・大学等の機関と協力・連携しながら、写真・川柳・人気投票など、市民参加型の各種キャンペーンを実施している。

■対象 市内在住・在勤・在学の市民（男女・年齢不問）

■予算 105,000円

■回数 通年で断続的に各種事業を実施

#### ■協力団体

川崎フロンターレ、川崎市浴場組合連合会、川崎市内工業組合団体（女性活躍推進事務局長会議）、パパ塾（市民グループ）、NPO法人ファザーリング・ジャパン、川崎市教育委員会、市内各市民館・図書館

### 2. プログラム

#### [6月 男女平等推進週間]

昨年度実施したカジダン・イクメン写真コンテストにて応募された作品を、同週間中に市民館の協力を得て展示実施。

#### [10月 ワーク・ライフ・バランス月間]

ワーク・ライフ・バランスの一環として、カジダン・イクメンの写真と川柳を募集。応募写真は、センター館内の他、市民館、子ども未来フェスタ（市内イベント）で展示。また、2月に実施する当センターのまつりでの来場者投票や、選考委員会により賞を選定した。川柳は、館内の階段に掲示している（賞の選定はなし）。

#### [12～2月 イクフロ企画（川崎フロンターレ「いっしょにおフロんた〜れ」への協力）]

お風呂で育児をしている（イクフロ）写真を募集。応募作品は、銭湯の壁面に掲出する予定である。表彰式は、市内の団体・機関によって構成されるネットワーク「すくらむネット21」が実施する男女平等推進フォーラム（テーマは「ワーク・ライフ・バランス」）にて実施する。

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

各種キャンペーンの実施上の工夫点としては、第1に、写真や川柳、あるいは応募や投票といった行動を通じて、従来、効果が実感しにくいという課題を抱えていたワーク・ライフ・バランスの「見える化」を図ったことにある。ワーク・ライフ・バランスの効果や成果が分かりにくいままでは、事業所はその推進のための取組みに逡巡してしまうため、視覚的な成果を示すことで協力機関が賛同・協力をしやすい形式とした。

第2に、作品を見てもらうという受動的な形式ではなく、可能な限りイベント写真の撮影・応募や川柳を詠む、投票といった参加型形式を取り入れたという点がある。参加型とすることで、楽しみながら男女共同参画に触れるとともに、写真撮影や川柳を詠むなかで身近な生活と男女共同参画との結びつきを考える機会になる。

第3に、連携先を増やすことに重点をおいているということがある。当センター利用者とは異なる市民に触れてもらうことはもちろん、連携先関係者の意識醸成につながると考えている。

なお、本事業にはグランプリ作品などの選考が含まれているが、優れたあり方や作品としての出来栄を競

うということではなく、応募者（市民の関心・参加者）を増やすためであり、主たる目的は、応募にいたるまでの過程や応募作品の紹介を通じたワーク・ライフ・バランスの推進にある。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

写真は、応募者を中心に作品展示についての問合せの電話が数件あったほか、貸室利用者が自己をふりかえる機会として作品を見たり、見学のために家族で来館したりするなど、実際の家庭参画にも結びついている。市民館・子ども支援室等子育てに関わる別の主体へパネル貸出をおこなうなど、センター内に留まらない広がりが生まれている。

また、館内の階段壁面に掲示している川柳については、来館者が足を止めて見ている様子もしばしば見受けられ、応募作品をまとめた配布物も増刷が必要になったり、来館者同士が自分の家庭をふりかえって作品にコメントを述べたりと、多くの市民が知るきっかけになっているようだ。出前講座等での配布時にもワーク・ライフ・バランスの理解を深めるきっかけとなり、非常に喜ばれている。

選考委員会においては、関係者だけでなく市内7つの商工業協会・組合からなる工業組合団体の協力を得て実施することができ、選考委員会への参画が事業所におけるワーク・ライフ・バランスへの理解や周知協力につながっており、事業所へのワーク・ライフ・バランスの推進の一助となっている。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

現在のキャンペーンは、男女共同参画に触れる、いわば「入り口」の段階にあたるものであり、市民においてはイベント的な参加、連携・協力機関においては「協力」というスタンスに留まっているケースも少なくない。男女共同参画の着実な推進のためには、キャンペーンからプロジェクトへの展開、すなわち「協力」から「参画」へといかに接続していくか、その手法を開発しなければならないと考えており、学習研修事業や相談事業など、他事業にいかにつなげていくかが課題である。また、本事業では育児を担っている男性を主たる対象としているが、その前後の年代にあたる男性、具体的には若年層と退職前後の男性についてはアプローチが不足しており、今後の具体的な方策を検討しているところである。

なお、今後に向けては、連携・協力機関において、少しずつではあるが、着実に主体的な意見や働きかけも増えてきていることから、男性の家事・育児への参加促進キャンペーンという形態から、さらに踏み込んだ取り組みへと進めていける可能性を感じている。具体的には、次世代と働き手をつなぐキャリア支援冊子・WEB版の製作とワーク・ライフ・バランス推進を組み合わせながら、事業所との共通の取り組み課題として推進体制を強化し、実効性のある「参画」を促進するためのしかけのもと、プロジェクトとして進めていくための体制づくりをスタートさせているところである。



家事に積極的の女性性 育児を楽しめるメンズ 孫などの子育てに積極的に関わる男性のこぼ

# カジダン・イクメン・イクジイ

## 2012 写真大募集

2012年10/29(月)～11/30(金) 17:00必着

「はい、あーん」  
「今日のご飯もおいしいよ」

「あなたのイクフロ写真を大募集！  
あなたのお風呂で育児をしている写真が  
銭湯に展出されます！  
(詳しくは12月1日発行のフロンターレHPで)」

市民特別賞 3000円の商品券  
3部門のグランプリ 5000円の商品券

全作品の中から2月17日(日)の  
すくらむ21まつりにて、市民がシール  
投票を行い、市民特別賞を選びます。

2月下旬に選考委員会を開催し、カジダン、イクメン、  
イクジイの3部門でグランプリ作品を1点ずつ選びます。

※グランプリ受賞者への表彰式は、すくらむネット21男女平等なわさき推進フォーラム(11/20)第1部にて行います。

問合せ先:川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21) (TEL:044-813-0808, FAX:044-813-0864)

主催:すくらむ21、川崎市教育委員会、■東海開発、教育文化会館、各市民館、分館  
協賛:東海川崎フロンターレ、(株)NPO法人フーズ(ワンダージョイント) 詳細はHPで

川崎フロンターレ/川崎沼崎組合連合会/川崎市人権・男女共同参画室 合同プロモーション

いっしょに  
お風呂に  
たのび  
シリーズ最終弾

# イクフロ

銭湯浴育

2012年12月6日(木) → 2013年2月24日(日)

オフロスキー  
(NHK Eテレ「あいつけたじ」)  
&  
オフロスキー  
(川崎フロンターレ「平日劇場」)  
最強タッグ結成!!

川崎フロンターレが地域貢献活動の一環として2010年にスタートした  
川崎市内銭湯の利用促進キャンペーン「いっしょにお風呂にたのび」。  
このシリーズも今回の第3弾をもってついに完結！  
フィナーレを飾る最終弾テーマは「イクフロ」。  
「家族の絆を銭湯で深めよう！」を合言葉に、  
育(イク)児をお風呂(フロ)でおこなっちゃ楽しい企画盛りだくさん！  
もちろんお一人様でも楽しめることうけあい！  
さあ皆さん、身も心も温まりに銭湯へレッツゴー！

問い合わせ先:044-829-3011(09時から18時まで、土日祝日)

「あいつけたじ」NHK Eテレ  
月曜 07:45～08:00  
17:00～17:30(4分)

「あいつけたじ」NHK Eテレ  
日曜 07:25～07:55  
※放送時間変更あり

〈川崎市男女共同参画センター 脇本 靖子/尾形 泰伸〉

## 施設名

# 静岡市女性会館 「アイセル21」

〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18  
電話：054-248-7330 <http://aicel21.jp>

### 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

静岡市は東京都と名古屋市のほぼ中間に位置し、その範囲は駿河湾から南アルプスまで南北に広がる。全国で5番目に面積が広いが、10%未満しかない平野部に、約71万人の人口の98%が集中している。平成15年に清水市と合併し、平成17年政令市となった。

静岡市女性会館（以下、女性会館）は、平成4年に地元の女性たちの熱い思いがけない、中央公民館（現・葵生涯学習センター）との複合施設として開館した。県庁、市役所をはじめとする行政と商業の高度集積地に隣接し、周辺は文教地区となっている。同一区内には県の男女共同参画センター、複数の生涯学習センター、県と市のNPOセンター、産学交流センター、SOHOしずおか等、多くの公共施設がある。静岡市唯一の女性会館が取り組む事業には、これらの公共施設がおこなう事業との違いや特徴を出すことと同時に、連携も視野に入れる必要がある。

旧静岡市では平成3年に「静岡市女性行動計画」が策定され、旧清水市と合併した平成15年には「静岡市男女共同参画推進条例」が施行された。同年「静岡市男女共同参画行動計画」（平成15年～20年）が策定され、現在は「第2次静岡市男女共同参画行動計画」（平成21年～26年）の基本施策に基づいて、各種事業がおこなわれている。

女性会館では政令市となった平成17年から講座開設等一部業務の委託がはじまり、平成19年には指定管理者制度が導入された。指定管理者に選定されたのは、女性会館で平成7年から始まった人材育成塾「アイセル女性カレッジ」の1期から6期までの修了生が中心となって立ち上げた「(特非)男女共同参画フォーラムしずおか」である。ユーザーがサービスの提供者となったことから、当事者の視点での事業企画を心がけ、市内外から注目を集めるようになった。

指定管理者となった2年目以降は、課題解決型事業に取り組みはじめ、さまざまな対象が持つ課題を想定した上でのテーマ設定を心がけるようになった。

そのため、職員研修では、内閣府の「第3次男女共同参画基本計画」や『男女共同参画白書』等などを読み込み、静岡市の統計情報等、科学的なデータの収集にも努めるようになった。また、市民アンケート、利用者アンケート、利用者トークサロンを定期的におこなうと同時に、各事業終了時には必ず参加者に対してアンケートを実施するなど、さまざまなニーズの把握に努めている。こうして得られた情報から地域の課題解決に向けた企画立案を心がけている。

男性を対象とした事業を企画するにあたって、子育て世代や高齢世代など世代別のニーズを想定し、対象を限定している。指定管理者制度が導入された当時は、団塊の世代の大量定年が話題になっており、その世代に着目し生活自立を目的にした講座を企画した。料理だけでなく、スーパーを会場におこなった食材の買い物、カジュアルなおしゃれのコツや衣服の手入れなど、さまざまな工夫をして参加者を募り、実施した。参加者には好評だったが、理事による年度末の内部評価は「カルチャーセンターや生涯学習センターの男性向け講座との違いが見えない」「単に男性が多く集まればいいというものではない」といった厳しい意見が出た。改めて男性に向けた講座の目的、方向性を見直すこととなった。

実際に男性に事業に参加してもらうためには、市の広報誌の数多くの情報の中で目立つよう、男性に届く言葉を考え、タイトルを付けるよう心がけている。生涯学習センターとの複合館であるため、男性の来館者は多い。チラシ作成にあたっては用紙の色、使用する文字のフォント、呼びかけるコピーなど細部にもこだわって、男性が手に取りやすい工夫をしている。

また、情報媒体も市の広報誌やチラシだけでなく、静岡新聞、NHK静岡放送局に依頼して、県内情報コーナーで広報してもらうことも多い。テレビやラジオは中高年男性がよく視聴しており、効果も高い。

## 施設名 ▶ 静岡市女性会館 「アイセル21」

### 事業名（講座名） 男性介護者交流会

## 1. 事業概要

### ■事業の位置づけ

「第2次静岡市男女共同参画行動計画」（平成21～26年）の9つの基本的施策に基づき、女性会館事業を展開している。男性介護者交流会は「基本的施策1 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し」「基本的施策2 男女の人権を尊重する教育や学習の充実と意識改革」「基本的施策4 地域における男女共同参画の推進」「基本的施策6 家庭生活と職業生活その他の社会における活動の両立」にあたる。

### ■企画の背景

静岡市でも少子高齢化が加速している。「単身世帯」が最も多くなり、「夫婦と子ども世帯」「夫婦のみ世帯」が続く。「夫婦と子ども世帯」の子どもは、すでに成人している未婚の子どもが増加している。こうした変化によって、介護をめぐる家族関係も変化している。嫁による介護が減少し、夫婦間介護（とりわけ夫）、実子介護（とりわけ息子）が増加している。静岡市でも男性介護者は増加傾向にあると思われるが、従来、介護は女性の問題とされてきたため、男性介護者の存在が見えない現状がある。介護者の集まりや講習会があっても、参加者は圧倒的に女性である。男性介護者の抱える困難を推察してみると、以下のようなことがあげられる。

- ・家事や介護のスキルを持たない男性にとって、介護に対する負担感は大きい
- ・弱みを見せないといった男性性によって、支援を受けにくい
- ・性別役割分業によって地域に関わってこなかった男性は、孤立しがちである
- ・夫婦間介護の場合、男性介護者も健康問題を抱えている
- ・実子介護の男性の場合、仕事の継続困難に陥りやすい

これらの現状を想定すると、男性介護者に向けた支援が必要である。

### ■ねらい

ジェンダー規範の強い男性ほど、親や妻の介護に直面した時に、家事に戸惑ったり、人間関係に悩んだり、孤立を招きやすい。男性介護者同士の交流を図ることで、お互いに悩みを分かち合い、介護のスキルや支援の情報を提供し合い、孤立を防ぐ。

■対象 親または配偶者の介護に携わっているおおむね50歳代以上の男性

■テーマ 介護とジェンダー

■今年度予算 ファシリテーター謝金、消耗品等 4万円

■定員 男性介護者 各回10名程度

■連携したネットワーク 地域包括センター、静岡県介護・実習普及センター

## 2. プログラム

男性介護者を対象にした事業を初めておこなった平成22年度は、男性介護についての講演会と実技研修を組み合わせた。講師の津止正俊さんは、社会福祉協議会で20年間勤務した後、研究者となり「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の事務局長も務める。講演会には30人の参加者があったが、実際に介護している人より介護予備軍が多く、当事者に限定した交流会への参加者は12人だった。

津止さんから男性介護者の実態や今後の支援のあり方についてアドバイスをもらい、プログラムを改善しながら継続的に男性介護者支援に取り組むことを決めた。

平成23年度は、定員を絞り、ゲストの話を変えながら、フリートークの交流会を3回おこなった。また、毎回、曜日を変えておこなったところ、平日の昼間の方が参加しやすいことがわかった。

平成24年度は2年間の試みで得た参加者の声から、交流会のみ平日の午後、実施することになった。

### 平成24年度「男性介護者交流会」

| 日 時                              | 内 容              | ファシリテーター               |
|----------------------------------|------------------|------------------------|
| 9月～3月の<br>毎月第3火曜日<br>13:00～15:00 | 男性介護者交流会「フリートーク」 | メンズサポートしずおか<br>木村 幸男さん |

### 平成23年度「男性介護者交流会」

| 日 時                     | 内 容                       | 講 師                  |
|-------------------------|---------------------------|----------------------|
| 4/23 (土)<br>13:30～15:30 | 交流会                       | 社会福祉士<br>野嶋 稔さん      |
| 8/5 (金)<br>13:00～15:00  | 男性介護者を取り巻く最近の状況に関する講話と交流会 | 立命館大学教授<br>津止 正敏さん   |
| 1/12 (木)<br>13:00～15:00 | 交流会                       | 心理カウンセラー<br>松林 三樹夫さん |

### 平成22年度「男性が介護するということ」

| 日 時                      | 内 容                                                                    | 講 師                |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 7月24日 (土)<br>13:30～16:00 | 第1部 講演会「男性介護の実態」<br>男性介護の実態と孤立しないための解決策についての講演<br>第2部 男性介護者交流会「フリートーク」 | 立命館大学教授<br>津止 正敏さん |
| 8月7日 (土)<br>13:30～16:00  | 第3部 介護実技講習<br>(共催) 介護・実習普及センター                                         | 介護講師ねっと<br>柴 美重子さん |

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

今年度は交流会のみに特化し、9月に第1回目を開催したが、以降のことは、参加者の意見をもとに決めることにした。定期的に顔を合わせたいと考えた参加者から「毎月1回、集まりたい」と提案があり、参加者同士の話し合いによって、毎月第3火曜日午後開催することを決めた。

毎回、フリートークをはじめるときには、担当者が安心して自分のことを語り、考えられる場所にするために「ここで話すことは外に持ち出さない」「話している人の話をさえぎらないで、最後まで聞く」「話してくれた人の話を否定しない」ことを参加者に伝えている。お茶とお菓子を用意し、和やかな雰囲気づくりを心がけている。

毎回の交流会には参加者と同年代の「メンズサポートしずおか」共同代表の木村幸男さんにファシリテーターを依頼している。木村さんはNPO法人静岡県ボランティア協会の理事や静岡市男女共同参画審議会委員も務め、男性相談やいのちの電話にもかわり、男女共同参画の視点を持っており、参加者の話をうまく引き出し

ている。性別役割分担意識に縛られている参加者には、傾聴しつつさり気なくものの見方を変えるようなアドバイスをしている。また、話のきっかけづくりになるような新聞の切り抜き等を用意するなどしている。

交流会の開催や進行、内容など、会館主導でなく参加者の思いや主体性を大事にすることを心がけている。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

9月以降、毎回、10名前後の参加者がある。新規の参加者も毎回1、2名程度いるが、うまく溶け込めるような雰囲気を前からの参加者が作ってくれている。

年末には参加者自身から忘年会開催の提案があり、呼びかけた人が幹事になり、忘年会がおこなわれた。担当者も同席し、ふだんの交流会以上の和やかな会となった。

定期的に交流会を開催することにより、お互いが顔見知りになり、場に対する安心感、信頼感が生まれ、参加者同士、慰め励まし合う姿が見られる。徐々にピアサポートの場となりつつある。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

今後は、現在、定期的集まっている男性介護者の自主的な自助グループづくりを期待したい。また、現在、定期的集まっているメンバーによる新しい参加者へのサポートにも期待したい。

これまでの介護経験に基づく当事者ならではの介護や家事等の工夫等の情報交換も重要であるが、当事者同士が話し合うことでメンタル面のケアも可能となっている。

女性会館でできることには限りがある。男性介護者自身の介護役割の受容の過程をサポートし、男性介護者の置かれている個々の状況を考慮したサービス情報の提供、場の提供は今後も継続していきたい。

男性介護者支援を考える時、女性被介護者の存在も忘れてはならない。ケア役割は女性の仕事と考えられがちな社会の中で、夫や息子に介護してもらおう女性の気持ちにも寄り添いたい。男性介護者が介護される妻や母親の気持ちに気づく機会をつくっていくことも心掛けたい。

各々の抱える困難にきめ細かく対応し、利用できる制度やサービスについての確かな情報を提供できるようにするとともに、専門機関につなぐなどの役割も重要であり、努力したい。

## 男性が介護するとういこと

それはある日突然やってくる  
今や介護者の3割が男性の時代

ゴールの見えない介護生活  
誰だって投げ出したくなる時がある  
でも、ひとりじゃない

| 日 時 / 場 所                                                                             | 内 容                                                                                                                                 | 講 師                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 7月24日(土)<br>第1部 11:00~13:00<br>第2部 13:00~16:00<br>会場<br>静岡市女性会館<br>[アイセル21]<br>4F 研修室 | 第1部 講演「男性介護の実態」<br>男性介護者の声に耳を傾け、介護に必要のない男性が<br>満足する家庭介護の推進を目指す。日本の介護<br>現場と向き合おう。<br>第2部 コリドー<br>現在介護している男性性介護士、講師の体験から、<br>話しかけよう。 | 立命館大学教授<br>男性介護者と介護者<br>の協働とワーク<br>講師<br>津止正樹 さん |
| 8月7日(土)<br>13:30~16:00<br>会場<br>介護実習・普及センター<br>(シズカビル4F)                              | 介護実習(演習)「介護スキル基本のキ」<br>必要スキルを身に付け、実践に活用できる人、いざい<br>しのかたのサポートに役立つ人になるための入門講座。<br>(共催)分科委員会・普及センター                                    | 介護講師会講師<br>代表 安藤美子 さん<br>講師                      |

刊 家 男性介護者及びその家族(約30名)第2部(コリドー)で演習を介護士と協働し、  
第1部の講演会とは併行して介護者や介護者の悩みを聞き取り、迅速受付します。

参 加 費 無料

申 込 方 法 8月15日(水)12:00迄電話かホームページで申し込み

申 込 先 静岡市女性会館(電話申込みの場合は、平日9時~17時の間)は限りません  
TEL 054-248-7330 ホームページ <http://aicel21.jp>

H22年度

## 男性介護者交流会

今や介護者の3割が男性の時代  
ゴールの見えない介護生活  
誰だって投げ出したくなる時がある。

**4/23**  
(土)  
13:30~16:00

本来開催したかった「男性が介護するとういこと」に集まられた皆様からの  
ご要望にお応えして、今年度も「男性介護者交流会」を開催することになりました。  
今回は、介護現場のスキルアップにも役立つと参加していただく予定です。  
今回はまだ開催予定、詳しくは広報しずくでのご案内いたします。



会 場 静岡市女性会館(アイセル21) 4階 研修室

対 象 現在、妻や親など家庭で介護している男性 30名

参 加 費 無料

申 込 方 法 電話かホームページで

申 込 先 静岡市女性会館

電話申込みの場合は、平日9時~17時の間にお願ひします  
TEL 054-248-7330 (平日9時~17時)  
ホームページ <http://aicel21.jp>

●会場のご案内

バス - 徳川商船船橋「アイセル21」前で下車  
徒歩 - 井原駅北口より30分、静鉄新静岡駅より  
徒歩 - 静鉄日吉町駅より15分

※アイセル21には駐車場はございませんが、近隣の  
ものがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用  
ください。当日のバスアクセスについては駐車場でござ  
います。



**静岡市女性会館**

〒420-0985 静岡市清水区御幸町3番 3号  
TEL:054-248-7330 FAX:054-248-7333

静岡市女性会館は、平成15年4月より指定管理者NPO法人男女共同参画フォーラムが運営しています。

H22年度

〈静岡市女性会館 松下 光恵〉

## 施設名

# 浜松市男女共同参画推進センター

〒430-0929 浜松市中区中央一丁目13-3

電話：053-457-2831 ホームページ：http://www.ac.auone-net.jp/~ha-danjo/

### 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

浜松市は、静岡県西部に位置する全国第2位の面積と人口82万を擁する政令指定都市である。豊かな自然に囲まれており、北部は赤石山系、東部は全国でも有数の流域を持つ天竜川、南部は広大な砂丘からなる遠州灘、そして西部は浜名湖と四方を異なる環境に囲まれているため、市内各所に館山寺や奥浜名湖、弁天島、白倉峡などの景勝地がある。広大な市域に過疎地域や限界集落が存在し、都市的な課題だけでなく、中山間地域の振興などの課題も抱えていることから「国土縮図型政令指定都市」とも呼ばれている。男女共同参画に対する意識も男女、世代、地域により違いがみられ、それぞれの対象に応じた施策による意識啓発が必要といえる。地域に出向き、自治会、女性団体、NPO等と連携・協働し事業をおこなうことで、地域のニーズ把握と市全域における一体感の醸成を促していくことが重要である。

浜松市では、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に一層力強く推進するため、浜松市男女共同参画推進条例第12条第1項の規定に基づき、「浜松市男女共同参画計画」《平成20年度～29年度》が策定された。浜松市がめざす将来像として「男女がともに自立・参加し、高めあう創造都市 浜松」を掲げ、男女が積極的に「自立」「参画」「高めあう」ことにより、「人」も「まち」もさらなる飛躍をめざすものである。

浜松市が平成24年に実施した「浜松市の男女共同参画に関する市民意識調査」によると家庭、地域、職場などほとんどの分野で「男性が優遇されている」と回答する人の割合が男女ともに高くなっていると同時に、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識も根強く残っていることがうかがえる。そして「男性が家庭生活や地域活動に積極的にたずさわっていくためには、何が必要だと思いますか」の問いに「夫婦間や家族間で、お互いを尊重しコミュニケーションをよく図ること」の回答が65.7%と最も多かった。そこで男性講座でも夫婦や親子で参加できる講座を企画している。これはひとりでは参加しにくい男性、男女センターを知らない男性、男女センターは「女性が利用する施設」と思っている男性に対しての女性（妻）からの広報を期待した工夫でもある。

浜松市男女共同参画推進センターの事業は、指定管理者である特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会の幅広い年代の会員（65名、平成24年1月1日現在）が、「市民活動の支援」「講座イベントの開催」「相談室」「情報の収集・発信」を4本柱に、有給職員とボランティアの立場から事業に関わっている。そこで「男性を対象とした講座」を企画する際には「子育て中の父親」「シニア（団塊世代・高齢者）」など、参加対象と同世代の男性がスタッフとして企画運営に関わることで、当事者ニーズをより取り入れた企画および実施に努めている。

## 施設名 ▶ 浜松市男女共同参画推進センター

事業名（講座名）

# ママも喜ぶ♪イクメン教室 パパとスキンシップ！！

## 1. 事業概要

### ■企画の背景

近年、生活の利便化等とあわせ、社会環境や生活様式が大きく様変わりし、児童虐待をはじめ、家庭環境の悪化、子育てにかかる経済負担、地域や社会との交流の希薄化など核家族化や家庭の孤立化、密室化が進み、子育てに関する問題が数多く取り上げられるようになってきた。本来出産というすばらしい体験をし、期待と喜びや楽しみに満ちた子育てをしたいところだが、不安を抱えて子育てをおこなっている母親が増加している。ママだけが問題を抱えるのではなく、パパももっと家庭に向き合い、積極的に育児に参加・参画し、ママの気持ちを理解するとともに子育ての楽しさを知ってもらえるよう企画した。

■実施年度 平成24年度

### ■目的

他の家族との交流を通して子育ての楽しさを一緒に考える場を提供することで、パパの積極的な子育て参加・参画を促し、親子のふれあい力を高め、家庭での笑顔を増やすことや、親子でのスキンシップの楽しさを再確認する。

■テーマ イクメンは子どももママも喜ぶ

■対象 子育て中の親子

### ■定員・参加者数

1歳～3歳のお子さんと父母（親子での参加）

定員10組・参加11組（応募16組）

（子どもを対象とした講座は急な病気等の欠席が

考えられる。16組の応募を受付したが、当日キャンセルが出て参加は11組）

### ■講師

東山 和樹さん（はあもにい保育園 副園長、特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会 会員）



## 2. プログラム

日程 平成24年5月26日（土）10：00～11：30

### 第1部

・パパと子どもの運動遊び。ママは運動を見ながら他のママと交流会

※プログラムでは、ママは交流会としたが、パパと子どもの運動を見学していた。父子がふれあう姿が見られたと喜ばれた。

### 第2部

・3組のグループに分かれての意見交換会

「パパが頑張っていると思うこと」

「子どもが生まれてからの時間の使い方」

「子育ての悩み」

「ママがとっても喜ぶこと」

をテーマに話し合い、他の家庭の意見や悩みを共有した。

・動き出す子ども用に部屋の真ん中にキッズスペースを設置した。



サンキューカード

- ※他の子どもと遊ぶ姿を見られたことを喜ぶ声が多かった。
- ・パパ・ママお互いの感謝の気持ちを「サンキューカード」に記入した。
- ・受付時に撮影した親子写真を記念に渡した。

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

参加家族と同年代の男性講師から、「パパの子育て参加は、家族全員にとって大切」。パパが子育てに積極的に参加することにより、夫婦のコミュニケーション頻度が増える。パパが育児を楽しむことで、子どもは笑顔になり、ママは喜ぶ、そして家族全員が明るくなることを伝えた。

座談会では、センタースタッフが各グループにファシリテーターとして同席し、男女共同参画についての参加者からの質問等に対応した。

(質問)「夫が家事・育児に参加してくれないと不満を感じてしまいます。仕事が忙しいことは理解できるのですが…」(ママ)

(回答)「お母さんの方からお父さんが家事・育児に消極的だと決めつけてしまわずに、たとえば買い物へ一緒に行くとか、子どもと遊ぶなど、お父さんの家庭での仕事・居場所を、提案してみてもどうですか」(センタースタッフ)

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

講座後のアンケート調査で「自分の父親が育児を全くしなかったことで、母親から今でも小言を言われている。そうならないためにも自分は育児をしていく」「仕事と育児の両立は大変だけど、男性が育児に参画するのが今の流れ、自分は楽しんでいる」「他の家族の子育ての様子が大変参考になった」との参加者の声が寄せられた。若い子育て世代の男性が家庭への参画意識を共有できたことが参加者の声からも感じられた。

### 5. 今後に向けた展望と課題

父親のネットワークづくり、仲間づくりにつなげられる講座となるよう連続講座を計画することが必要。毎年、センターで募集しているイクメン・カジダン写真展との連携や、母親向けに実施している講座との連携も密にする必要がある。

「理想」は家事に参画したいが、「現実」には仕事を優先してしまうという若い子育て世代の男性

は多い。企業へ向けての仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についての理解と取り組み

の促進をセンターとして啓発していくことが必要である。

平成24年度 浜松市委託事業  
男女共同参画推進セミナー

ママも喜ぶ♪

# イクメン教室

## パパとスキンシップ!!

もっともっつと笑顔に♪  
「ありがとう」でいっぱい毎日になあれ!

子育てっていいもんだ

お父さん 大好き♪

**5月26日(土) 10:00~11:30**

- ・対象 1歳~3歳のお子さんご夫婦 (8人1組のご参加となります)
- ・講師 東山和樹さん (はあもにい保育園 園長)
- ・会場 浜松市市民協働センター2階 第1・2研修室  
浜松市中区中央一丁目10-3 (地図参照・JR浜松駅から徒歩8分)
- ・定員 10組 (応募者多数の場合は抽選)
- ・参加費 100円 (子どものお菓子代)
- ・申込み 氏名・参加者全員の氏名・子どもの年齢・電話番号を電話・FAX・Eメールにて  
お申込み下さい。 5月14日(日)午後5時締め切り。

【申込み&問合せ先】 浜松市男女共同参画推進センター  
TEL 053-457-2831 FAX 053-457-2832  
Eメール info@a1-hall.com



## 施設名 ▶ 浜松市男女共同参画推進センター

事業名（講座名）

# 「協奏」で地域に生かす熟年力！ ～いきいき10万時間～

## 1. 事業概要

### ■ 企画の背景

10万時間とは、男性の平均寿命79歳を前提に定年後自由に使える時間を計算したものである。シニア世代が定年にこだわらず、その長い自由時間を社会貢献に参画するなど価値あるものにしていくために、コミュニケーションのコツや友だちづくり、夫婦の意識のズレの修復のしかたなどを学ぶことで、豊かな人生を送るとともに、シニア世代の力を定年後の地域活動へ生かすことを促す。

■ 実施年度 平成24年度

### ■ 目的

地域での活動を円滑にするためにも、「競争」から「協奏」への価値観の切替が大切であることを知ってもらうとともに、夫婦間の和づくり、異性への理解が定年後の人生の基盤であることを再認識する。

■ テーマ 「競争」から「協奏」へ

### ■ 対象

定年前後の男性

定員・参加者数

①定員30名・参加29名（男性11名、女性18名）

②定員30名・参加19名（男性9名、女性10名）

（シニア世代の男性を対象にした講座としたが、夫が定年となる女性も応募可とした。）

（PRの対象としてシルバー人材センターに広報した。）

### ■ 講師

①上鷗瀬 孝志さん（名古屋在住コピーライター、特定非営利活動法人参画プラネット会員）

②センタースタッフ

## 2. プログラム

### 日 程

平成24年7月24日（火）13：30～15：30

「シニア世代の自由時間10万時間を価値あるものに」

平成24年7月31日（火）13：30～15：30

「思いが伝わる自分表現」

### 講演会

7/24「シニア世代の自由時間10万時間を価値あるものに」

- ・自分に還る、家庭に還る、地域へ還る
- ・地域で世代間交流：（今どきの若い者は？）
- ・おとこは、「おひとりさま」によわい
- ・「協奏」から「協奏」の価値観へ
- ・友だちは“値”年金
- ・妻の思いVS夫の思い

講師の上鷗瀬孝志さんは、名古屋市男女平等参画推進センター「つながれっとNAGOYA」等で、男性の定年後の生き方を考える講座を開催している。

参考書籍 上鶴瀬孝志著『定年そして10万時間』角川学芸出版

### 座談会

7/31「思いが伝わる自分表現」

- ・アイスブレイク（自己紹介）
- ・4グループに分かれて1回目の講座内容を踏まえた課題で意見交換・発表座談会をおこなった。

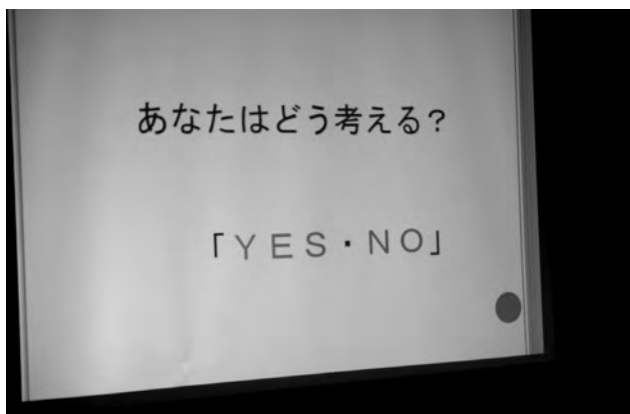
私はYES・NO

「友達に自分ではあまり興味がないことに誘われた？」

「地域の集まりで、常に男性が会のまとめ役であることは？」 YES か NO か

「家庭内の重要事項の決断をするのは男性（夫や父親）の役目？」

「過去を語らず・聞かず・自慢せずの人づきあいができる？」



### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

座談会では、センタースタッフが各グループにファシリテーターとして同席し、男女共同参画についての参加者からの質問等に対応した。課題については座談会の最初と最後で同一の設問にYES・NOを挙手してもらったが、座談会で他の参加者やセンタースタッフと話し合ったことで意見の前向きな変化が見られた。

(質問)「自分は男らしく育てられ、仕事一筋を良しとする社会を生きてきたのに、今になって男女共同参画に反していると責められる…」(70歳代男性)

(回答)「男女共同参画は、あなたの考えや生き方を否定はしていません。ただいろんな生き方、考え方があってもよいと他者を認めることが大事ですね。それは楽しい生き方にもつながりますよ」(センタースタッフ) ※高齢男性を否定せず女性・若者の味方にする。

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

後日、センターで毎月第4水曜日18:30～20:30に開催している「寄り道カフェ」（参加自由、仕事のこと・趣味のこと等を自由におしゃべりしてもらう会）に受講者が参加してくれた。センターで開催している講座の際やセンタースタッフが日頃からカフェを案内することで、気軽に男女センターに来館していただける雰囲気を醸成している。

### 5. 今後に向けた展望と課題

今後もシニアを対象とした講座の際には座談会を実施していき、男女共同参画に対して否定的な人、誤解している人、興味がない人にも直接、講座参加者やセンター職員と会話・交流をすることで男女共同参画に対する意識を持ち、推進のよき理解者となることを促す。

シニア対象2回連続講座

平成24年度 浜松市参画事業  
男女共同参画推進センター

**「協奏」**  
で地域に生かす  
**熟年力!**  
～いきいき10万時間～

定年後の自由時間を地域活動に生かしてみませんか?

**講座**  
7月24日(火) 13:30～15:30  
かみうせ たかし  
講師: 上鷗瀬 孝志さん  
(名古屋在住コピーライター)

**座談会**  
シニア世代の自由時間10万時間を価値あるものに  
7月31日(火) 13:30～15:30  
テーマ: 「思いが伝わる自分表現」

★対象 50歳以上の方  
★会場 浜松市市民参画センターチャラリー  
浜松市中区中央一丁目13-3 (地図参照・JR浜松駅から徒歩8分)  
★定員 30名(先着順)  
★資料代 200円  
★申し込み 6月20日(水) 午前9時受付開始。講座名「シニア講座」、氏名、電話番号を電話またはFAX、メールで、浜松市男女共同参画推進センターまで  
★問い合わせ 浜松市男女共同参画推進センター  
TEL 053-457-2831 FAX 053-457-2832  
Eメール info@ai-hall.com

主催 浜松市男女共同参画推進センター

〈浜松市男女共同参画推進センター 事務局 朝倉 邦博〉

## 施設名

# 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

〒514-0061 三重県津市一身田町上津部田 1234

電話：059-233-1130 ホームページ：<http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

### 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」は、三重県の男女共同参画を推進する拠点施設として平成6年にオープン（当時「女性センター」、平成13年改称）した。三重県は南北に長い県域で人口は約184万人（平成23年、男性49%、女性51%）。当施設は県のほぼ中央、県庁所在地である津市（人口約29万人）にある。

三重県も他県同様65歳以上人口が年々増加傾向にあり、高齢者割合が高まっている。また、単独世帯、夫婦のみ世帯、ひとり親と子どもの世帯も増加している。全国と比較して固定的性別役割分担意識は根強い傾向にあり、平成21年度の意識調査結果では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に43.8%（全体）が同感し、女性の職業へのかかわり方では「結婚や子育てなどで一時的に仕事をやめるが時期が過ぎたら再び職業を持つ」という回答が58.7%と、全国（31.3%）と比較しても非常に高くなっている（同調査結果、「結婚して子どもが生まれた後も職業を持ち続ける」は19.6%、全国は45.9%）。

当センターは複合文化施設「三重県総合文化センター」内にあり、同じ敷地内の「三重県文化会館」「三重県生涯学習センター」と共に、「公益財団法人 三重県文化振興事業団」が管理・運営している。事業団は県出資100%の公益財団で、平成16年度から公募の指定管理者制度が導入され、現在3期目、平成27年度まで5年間の管理者として指定されている。また、平成13年度には「ISO9001品質マネジメントシステム」の評価制度を採り入れ、事業企画や施設管理の品質維持および効率化を推進している。

当センターの事業は、指定管理者制度での指定期間計画・目標に基づき年間計画を策定し、企画・実施している。事業は「情報発信」「研修学習」「相談」「調査研究」「参画交流」の5本柱を元に展開しているが、指定管理の事業計画で各企画のターゲットや実施回数が定められており、年度内の事業はその計画に沿うよう企画している。

当センターでは、平成13年の「男女共同参画センター」への名称変更にともない、男性を対象とした「男性のための相談」を開設。また、開館当初から男性を対象とした講座を年数回実施してきた。男性講座は「男性の地域・家庭等への参画を推進するために、世代別にターゲットを絞り効果的な啓発を、年度内2回以上実施すること」となっている。例年、主に「子育て世代向け」と「定年世代向け」として、各世代・ターゲット層が抱える課題やニーズを捉え、性別役割分担意識にとらわれない新しい生き方の提案となる企画をおこなっている。ただ、規定どおりの企画のみにせず、課題に対する直接支援型の事業を考えている。たとえば、子育て世代で特に父子家庭の抱える生活困難に対応したシングルパパ同士の交流の機会・情報提供を目的とした講座や、10歳代～20歳代の若者世代を対象として「結婚」をテーマに男女共同参画の視点で対等な人間関係の構築を考えることを目的とした講座を開催するなど、ニーズを反映した事業展開もおこなう。一方、年度途中でも新たな事業を立ち上げて実施したり、男性講座としての位置づけでも内容的に効果が見込めれば女性の参加も可能にしたりするなど、柔軟な姿勢で臨んでいる。

当センターでは、過去におこなった男性講座の参加者を中心に男性グループが複数結成され、「フレン

「ソフリエ」の登録団体として施設を利用するとともに、地域でさまざまな活動をおこなっている。最近では、祖父が安心して孫育てできる民間資格「ソフリエ」を取得できる定年世代向け男性講座から「ソフリエみえ」というグループが結成され、当センターの事業だけでなく地域の子育てセンターでの育児サポートなどで定期的な活動をおこなっている。その他、現在では主に5団体ほどの男性グループが、地域イベントへの参加（絵本読み聞かせ・ライブ、むかしあそび等）や料理会、しゃべり場、悩み相談（男性対象）などで活躍している。また、当センター主催「母子家庭等の女性のための就労支援事業」では、男性グループと連携・協働し参加者の子どもを対象に「子どもプログラム」（男性グループによる朝食やお菓子づくりなど生活自立に役立つスキルを子ども自身が楽しみながら得るプログラム）を実施した。男性が加わることで、安心してかかわれる男性の存在や、男女が友好的に協力する姿を体験的に知る機会を提供することができた。

これらのグループ活動は情報誌などでも紹介し、また、新しい男性講座の際は、講座内において参加者が意見交換する機会を必ず設けたり、講座終了時にグループ形成を促したりするなど、一時の講座だけで終了することなく、今後も互いのネットワークを保ち地域に参画していけるよう工夫している。

その他、同じ複合文化施設内で同財団が主催する三重県文化会館のコンサートや演劇などの催事を共催することで新規層へのPRをおこなったり、登録団体や個人登録者、これまでに協力関係が築くことができた県内企業登録などさまざまな登録制度を活用し、講座の対象者へ向けてDMや電話などでピンポイント営業をおこなったりするなど、認知度の向上と集客に向けて工夫をしている。

## 施設名 ▶ 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

事業名（講座名）

「楽しみながら目指そう！育-MEN! イクメン応援フェア！」

### 1. 事業概要

#### ■ねらい

男性の地域・家庭等への参画を推進するために、世代別にターゲットを絞り効果的な啓発をおこなうこと。また、子育て世代の男性を対象に、父親の家事・育児への参画推進を目的とする。

ジェンダーイコリティ実現へのアプローチの一手段として、昨年度実施し大変好評だった「えほんうたライブ」の再上演、また地域で活動している男性グループ・団体がワーク型式で企画参加し、ライブやさまざまなワークで父子が同じ時間を過ごすことをきっかけとして、その後の家庭での家事・育児参加への抵抗を和らげる（＝扉を開ける）効果を狙うものとする。

参加者、参加団体間の交流を促し、関係団体、機関の情報紹介などと合わせて参加者のその後の活動につながる働きかけをおこなう。

■対象 幼稚園児～小学校3年生くらいまでの父子（ただし、母親も含む家族の参加を促す）

#### ■講師

えほんうたライブ：西村 直人さん（ミュージシャン）

1964年福岡生まれ 音楽家 音楽療法士 NPOえほんうた・あそびうた代表理事

パパ'S絵本プロジェクト・メンバー ファザーリング・ジャパン社員

ワークショップ参加団体：ファザーリング・ジャパン東海、ちよいワルおやじの会、Happyよかパパ（男性グループ計3団体）

お母さんのためのリラックススペース参加団体：なちゅーら（1団体）

お子様一時預かりサポート参加団体：ソフリエみえ（1団体）

■開 催 全1回 平成23年8月28日(日) 10:00～15:15

■予 算

講師料: えほんうたライブ出演料 約50,000円

参加団体: 準備費として約5,000円(×5団体)

消耗品・食料費: 約10,000円 計: 約85,000円

■参加費 無料

■定 員 180名〔参加者数〕212名〔年代〕20～40歳代(最多30歳代)

■新規参加率 71%

■満足度 100% (「とてもよかった」72%、「よかった」28%)

■会 場 三重県総合文化センター内 三重県文化会館 2階 第2ギャラリー

■託 児

子どもと一緒に参加する事業のため基本的には実施せず。

ただし、会場内に子どもがむかし遊びなどで自由に遊べるスペースを設け、一時的に子どもを預かることができるようにする。(サポート団体: ソフリエみえ)

## 2. プログラム

|             |           |
|-------------|-----------|
| 10:00～      | (開場)      |
| 10:30～11:00 | ワークショップ①  |
| 11:00～11:45 | えほんライブ①   |
| 11:45～13:00 | (休憩・昼食)   |
| 13:00～13:30 | ワークショップ②  |
| 13:45～14:15 | ワークショップ③  |
| 14:30～15:15 | えほんライブ②   |
| 15:15～      | (終了・クローズ) |

西村さんの「えほんうたライブ」は午前・午後の2回公演。

参加団体によるワークショップ(それぞれ30分ほどのプログラム: 同時進行)で実施し、その後、各ワークショップを体験した参加者がライブスペースに集合、親子揃って西村さんのライブを楽しむという流れで実施。事前に「いずれかのワークショップ+えほんうた」のセットで申し込んでいただいた。(午後のワークショップ②は当日参加枠として、空いているところを自由に体験できるようにしていた)

### ワーク内容

いずれも父子、または親子間に潤滑なコミュニケーションを促す内容とする。

- ・ファザーリング・ジャパン東海「家事場のパパヂカラ ～パパと子どもでクルクルボール作り～」  
アクリル毛糸を使って掃除にも使用できるアクリルたわしボールを作成。父子で工作を楽しみながら、帰宅後は掃除(家事)にも使える。
- ・ちょいワルおやじの会「とべ! かみひこーき ～自然の形を折り紙へ～」  
世界最大の空飛ぶ種「アルソミトラ」に似せた紙飛行機などを父子で作成。自然の造形へ興味を抱かせつつ、好天時はテラスから広場へ実際に飛ばして遊ぶ。
- ・Happy よかパパ「子どものあそび場 パパのしゃべり場」  
身体を動かすさまざまなゲームで楽しみながら親子コミュニケーションを図る「ちびリンピック」を実施。また、パパカフェも併設。先輩パパたちとの会話を通して育児参加等へのヒントを得られる。
- ・お母さんのためのリラックススペース: なちゅーら

家族で訪れた参加者で、父子がワークショップに参加している時間に母親に少し子育てから離れ、リラックスできるようなスペースを設置。ハンドマッサージの実施。当日予約制。

- ・お子様一時預かりサポート参加団体：ソフリエみえ

親子での参加が原則の事業だが、合間の時間などに子どもが飽きてしまったり、親同士のコミュニケーション時に少し余裕ができるよう、子どもが自由に遊べるスペースを設置。

男性グループの協力のもと、竹細工などむかし遊びを実施。出入り自由。

- ・展示・情報コーナー：フレンテみえ

子育て関連、イクメンプロジェクト関連の資料を持ち帰ることができるコーナーを設置。

フレンテみえをはじめ県関係、市町・活動団体などの資料やパネルの展示

- ・その他：各ブースの間に自由にお茶やジュースなどが飲めるフリースペース(コミュニケーションスペース)を設置。無料。

#### [参加者の声]

- ・子どもと一緒に楽しくすごせてよかった
- ・とても楽しかった
- ・パパと長い時間遊べてよかった
- ・家族で参加できる機会があってよかった
- ・育児している父親がいっぱいて元気をもらった

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

男性講座企画の中心的主旨である「男性の家事・育児参加を促す」企画を、座学のようにかたくなく楽しみながら提供することができる企画をと考えていた。前年度に実施し好評だった「えほんうたライブ」の再演と、同じく前年度の市内のヨットハーバーで実施した事業「たのsea！うれsea！大航海～パパを狙いうちっ！」(前年夏に実施。内容は、父子で弁当づくり・ヨット体験・ワーク・ライフ・バランスを考えるワーク)の親子で気軽に楽しく参加できるような雰囲気を継承し、フレンテみえ登録の男性グループの地域参加機会の提供という要素を加え、夏でも参加しやすい室内型イベントとして新たに企画。

広報は登録団体や関係先を中心とした通常のルートでチラシ配布を中心におこなう一方、保育園や育児系サークルなど、子育て世代を中心にアプローチをおこなった。ワークの材料などや事前準備のため人数把握が必要だったため事前申込をおこなったが、申込の複雑さと、小さな子どもと一緒に場合先のスケジュールが立てにくいということもあり、当初はあまり伸びなかった。事業直前に関係者へ向けての勧誘など集中的に広報をおこなった結果、定員の8割以上の申込を受け付けることができ、また当日参加も可能としていたことから、定員を超える集客となった。

男性グループがそれぞれ独自に企画した個性的なワークと西村直人さんによる「えほんうたライブ」は、父子向けではあったが母親や祖父母世代も含めた家族揃っての参加も多く見られた。

参加団体とは個別に連絡をとりながら、1カ月前に会場プランを含めた全体打合せを実施。企画意図を含めて情報を共有した。

複数のブースでイベントを同時進行させるという企画の特性上、男女共同参画の解説や必要性を直接伝える時間は入れづらい構成だったが、えほんうたライブにおいて西村さんがMC中に男性の子育て参加を促すメッセージを経験を交えながら伝えるようにしたり、入口(受付)付近にさまざまなパネル・資料などを展示したりするなど、可能な範囲で工夫をおこなった結果、ショッピングセンターのイベントとは違う、楽しい中でもセンター独自性を発信する内容を実現できた。また、ワークを運営した男性グループは全員父親でもあることから参加者の父親とコミュニケーションがとりやすく、それぞれの子育て体験などを話しあう場面も見られた。母親向けのブースも含め1日を通してさまざまな要素を集中的に同時進行させる内容となったが、全体としては、父親の家事・育児参加のきっかけの場という目的は一定レベルで果たされたと考える。

## 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

男性の育児参加を促すためには、まず父親が「子どもと一緒に過ごすこと」を怖がらず前向きに捉えるように、子どもが「父親といると楽しい」という感覚をもつように、という思いで企画・実施したが、参加者からのコメント（アンケートなど）ではおおむねその目的は達成できたと思われる。ただ、参加者がその後具体的にどう変化したのかについては追加調査などもおこなっていないため不明。

連携・協力した男性グループについては、当センターの事業への参加や地域の子育てイベントへの協力・参加など、いずれも地域活動を継続的、積極的におこなっている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

満足度も高く、会場も華やかで楽しい事業であったが、多彩な内容だったため現場を回すことが優先され、参加者を次につなげるための踏み込んだコミュニケーションまで及ばず「一過性」のような形になってしまった。参加団体（男性グループ）に興味をもった父親もいたかもしれないが、現場ではあまりしっかり個別ニーズを把握できない状態だったため、効果の検証が不十分となっている。アンケートを通常の形式でおこなわず、「困っていること」「楽しいこと」などそれぞれの子育て環境やその様子に踏み込んだ内容を盛り込み、その回答を元に連絡をとって新たな交流の機会を設けるなど、次へつなげる工夫が必要だった。

子育てグループの活動は、（男性グループに限らないが）子育てが終了すると自然消滅してしまうケースが多く、その後の家事参画、地域活動参画へどうつなげていくのかを考える必要がある。子育てが一段落した段階はワーク・ライフ・バランス再考、社会参加のきっかけにもなることから、その世代をターゲットにライフプランを見つめる機会や情報提供の場を設けるなど、高齢化した活動世代と若い世代の間にいるであろう多数の無関心ミドル世代へのアプローチが今後重要。特に子育てを終えたが定年までまだ時間のある男性（主に40歳代後半～50歳代）という対象に対しては、定年後の第3の人生への前準備として有効なテーマを提示し、意識をつないでいく必要があると考えられる。



**Frente イクメン 応援フェア 2011**

楽しみながら目指そう！ 男-MEN!

2011年 8月28日(日) [OPEN/10:00~15:30ころ]

三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」

参加費無料!!

心あたたまる♪ えほんうた・遊ぶうたライフ♪

西村直人 (NPOえほんうた・あそびうた代表)

【11:00～、14:30～(2回公演) \*事前申込制】

**イクメン応援ワークショップ**

A: 『家事場のババ(子カラ)』 ～ババと子どもでワルクルボール作り～ (by フォーティンガジヤ(中絶))

B: 『とべ! かみひこーき』 ～自然の形を折り紙へ～ (by ちんたけ(おたけの香))

C: 『子どものあそび場 ババのしゃべり場』 (by Hasegawa/V.V)

参加申込方法はチラシ裏面をご覧ください

参加申込方法はこちら



**イクメン 応援フェア 2011 参加申込書**

下記「参加申込書」に必要事項をご記入のうえ ●郵送 ●FAX ●電話 ●持参 いずれかの方法でお申込みください

締切日: 2011年 8月7日(日) [当日消印有効]

**ご注意 「えほんうたライブ」と開演前のワークショップ①③をセットでお申込みください**

- 「えほんうたライブ」「ワークショップ」のみの事前申込はお受けできません。あらかじめご了承くださいませよう。お願いいたします
- ワークショップ②(13:00～)は、事前申込不要でご参加いただけます(当日受付)
- このフェアは、小さなお子さまと一緒にご参加いただけます。ぜひご家族みなさまでお越しください(会場内にお子さまを一時お預かりするスペースも設備する予定です)
- お申し込みは1家族につき1回とさせていただきます
- お申し込み多数の場合は抽選となります(締切日後)
- お申込みいただいた方には入場券(ハガキ)をお送りします(8/15ころ発送予定)
- 事前申込で定員に満たない場合は当日参加も可能です(詳しくは8/16以降にお問い合わせください)

申し込み・問合せ先

三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」

〒514-0001 三重県津市一津田上津田1214

TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135

E-mail: friend@cent-mie.or.jp URL: http://www3.center-mie.or.jp/center/frente

申込日: 毎週月曜日(休日はお休み) ※お申込みは9月19日まで

受付時間: 9:00～19:00

**イクメン 応援フェア 2011 ☆参加申込書☆**

|     |                 |
|-----|-----------------|
| お名前 | フレンドみえのイベントには   |
| ご住所 | 初参加 □ 2回目以上 □   |
| お電話 | ( ) - ( ) - ( ) |

10:30～ ワークショップ①

11:00～ えほんうた・遊ぶうたライブ

13:45～ ワークショップ②

14:30～ えほんうた・遊ぶうたライブ

ご家族の参加予定人数 おとな  人 こども(小学校6年生以下)  人



## 施設名 ▶ 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

事業名（講座名）

「カッコイイじいじになろう！  
～ソフリエ資格をとって地域デビュー～」

## 1. 事業概要

## ■ねらい

仕事だけが人生の目的になっていた団塊世代に「ソフリエ」資格の取得を通して、生活自立の必要性や地域参画への意識を学んでもらうこと。その後、これをきっかけとしたライフプランを立てることにより、定年後の生涯について改めて見つめなおしてもらうきっかけとすること。

また、男性同士のつながりを作ることで、情報交換の機会、仲間作りの機会としてもらうこと。

- 対象 定年後の生きがいを探している男性、社会参画したい男性、育児スキルを学びたい男性
- 講師 NPO法人エガリテ大手前 代表 古久保 俊嗣さん  
理事 竹村 泉さん  
前理事 藤川 久美子さん（2回とも／肩書は講座当時）

- 開催 全2回 ①平成23年5月15日（日）10：00～16：00  
②平成23年5月22日（日）13：30～16：00

- 予算 講師料：約80,000円、消耗品費：約20,000円、宿泊・食料費：約10,000円、計：約110,000円

- 参加費 1,000円（材料費とテキスト代）

- 定員 20名

- 参加者数 15名×2日間

- 年代 50～70歳代（最多60歳代）

- 新規参加率 47%

- 満足度 80%

- 会場 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」1階 生活工房（調理スペースあり）

- 託児 あり（1歳6ヵ月～未就学児、有料：500円／ひとり、要事前申し込み）

## 2. プログラム

## 〔1日目〕

|             |                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------|
| 10：20～10：50 | 講義：基本編                                           |
| 10：50～11：20 | 日常編〔抱っこ、栄養〕<br>（使用備品：ベビー人形、おむつ、ベビー服、哺乳瓶）         |
| 11：20～12：30 | 調理実習（使用備品：食材、調味料、調理器具など）                         |
| 12：30～13：00 | 昼食                                               |
| 13：00～13：20 | 後片付け                                             |
| 13：20～14：00 | 日常編I〔沐浴・おむつ替え〕<br>（使用備品：ベビー人形、ベビーバス、沐浴ガーゼ、バスタオル） |
| 14：00～14：30 | 講義：安全編                                           |
| 14：30～14：40 | 休憩                                               |
| 14：40～15：10 | 安全編〔救命救急法〕（使用備品：ベビー人形）                           |
| 15：10～15：50 | 講義：ふれあい編                                         |
| 15：50～16：00 | 終了挨拶と次回のご案内                                      |

1日目は、孫育てのためのテキスト学習や離乳食づくりなど実習を実施。1日を通してさまざまなスキルを

得るための実践的な講習をおこなった。最後に2日目の「ライフプラン作成」のための宿題が出された。

〔2日目〕

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 13:30～13:40 | 開会 司会、スケジュール説明、所長挨拶 |
| 13:40～15:20 | ワーク「ライフプラン作成」       |
| 15:20～15:40 | 認定式                 |
| 15:40～16:00 | 交流会                 |

2日目は、ソフリエ資格を得た自分を加味した「ライフプラン作成」のワークと参加者の交流を目的として開催。「自分のつよみ・よわみ」などを見つめた上で、過去・現在・未来（希望）のライフプランを図式化し、これからの地域参画についてのイメージとしてもらった。

（ワーク：自身の性格や夢を改めて振り返り、勤労・学習・家事育児・社会奉仕・趣味遊び・交友の6項目について、それぞれ10年前、現在、5年後の希望をグラフに記入してそれを基にグループディスカッションを実施）

〔参加者の声〕

- ・すぐに役に立つ知識や実践を教授していただき大変役に立ちました。
- ・参加者同士が交流できる場があってなによりでした。
- ・今の時代に見合った企画でした。
- ・講師の事例を織り込んで語っていただき、楽しく学べた。
- ・孫との遊び等により、孫との関係がうまくいくことを知った。

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

前年度、内閣府が「パパ・ママの楽しい子育て じいじ・ばあばのイキイキ孫育」フォーラムを開催し、孫育てについての関心が高まりつつある気運の中、NPO法人エガリテ大手前が独自の孫育て資格を認定しているという情報を得、それをきっかけに男性の家事・地域参画を促進する男性講座として企画。

広報は登録団体や関係先を中心とした通常のルートでチラシ配布を中心におこなった。また、過去の男性講座参加者などへのアプローチも平行しておこなった結果、募集開始後比較的早い段階で定員以上の申し込みがあった。定員増を検討するほどの出足だったが、2日間開催のためどちらかに参加できないということでキャンセルになる申し込み者も多く発生し、結果的に当初定員内での実施となった。

ソフリエ資格の取得が講座の目的のひとつであったが、資格取得のためのプログラムには男女共同参画啓発の要素が特に盛り込まれていないことが直前にわかり、急遽職員（所長）による男女共同参画の講義を実施した。事前リサーチをさらにしっかりとおこない、当初から（男女共同参画に関する必要な）情報をもう少し盛り込める工夫もおこなえたのではと思われた。2日目は「ライフプラン作成」のワークの中で男性役割についてやこれからの地域参画について、参加者に新しい意識を得てもらうことができた。講座では、当センターの職員も一緒に講習・実習に参加し、参加者個々とコミュニケーションをとりながら、必要な際は職員から男女共同参画の視点を持ってフォローが入れられるようにこころがけていた。

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

講座参加者の中に地域活動などに対して非常に積極的な男性がいたため、その方を中心とした新しい男性グループの結成を初回から意識し、促していた。同年8月に予定していたもうひとつの男性講座「イクメン応援フェア」が最初の活動の場となるように職員間で連携・準備を進めながら、講座終了時に新グループに参加する意思のある人から別途連絡先などを聞き、仮名簿を作成。当センターが中心となって後日改めて「交流会」を設け、意思を確認し、結果、日本で初めてのソフリエ活動グループ「ソフリエみえ」が誕生した。8月の子育て世代向け男性講座は、昔あそびなど育児サポートのブース出展という形で、グループ初めての活動の場となった。

その後、地域の子育て支援センターでの育児サポートを定期的におこなうなど、リーダーを中心に活動の場を広げている一方、グループの活動が安定するまでは、当センター広報での紹介、活動PRをおこないながら、フレンテ主催事業だけでなく地域で開催されるさまざまなイベント・フォーラムなどを積極的に紹介して参加を促し、活動の火が消えないようサポートを続けていた。

現在では、グループのメンバーが男女共同参画の啓発活動をおこなう他のグループに参加し公民館などでの講座を主催したり、県の「男女共同参画審議会委員」を任命されたりするなど、ジェンダー視点を持った男性が地域活動へ参画するきっかけとなっているほか、グループの活動もNHKをはじめとする各種メディアに採り上げられ、全国的に発信されるようになってきている。また、メンバーはその後のフレンテみえ主催事業にも積極的に参加したり、広報に協力してもらったり、当センターにとっても大変心強い存在となっている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

本講座はその後同内容の講座を開催していないことから、現在のグループメンバーが何らかの理由で活動から引退した場合、新たなメンバーを補充しにくい状況にある。資格を認定しているのは東京のNPOで個人的に資格を取得できる機会も限られているため、再度同様の講座を開催したり、資格の有無にかかわらず地域活動ができるようにグループの方向性を検討したりするなどの対応が必要と思われる。

積極的なグループ活動もメンバー個人の意識の高さによるところが大きいのが、意識の高い参加者個人のネットワークからまた新たな活動者・活動団体と連携できる機会が生まれる可能性もあるため、特に必要がない期間でも近況をたずねたり参画できる地域イベントの紹介をおこなったりと、定期的に連絡を取り合うなどコミュニケーションが途絶えないようにしていく必要がある。

また、直接的な企画では集客しづらい男性講座に一定の集客を確保するためには課題やニーズを把握し効果的な企画内容を検討することが重要であり、まずはターゲットとなる男性が（男女共同参画にかかわらず）何に興味を持っているかをメディアや周囲の男性からも情報収集し、発信したいメッセージとどう効果的に組み合わせるか、そのしくみや工夫を練っていく必要があると考える。

フレンテみえ 魅力的なオトナを増やすプロジェクト

ソフリエとは「孫育てができる祖父」を表す  
NPO法人エガリテ大手前の認定資格です。

平成23年度男性講座  
**カッコイイ  
じいじになろう!**  
ソフリエ資格を  
とって地域デビュー〜

ふるく ぼしせんじ  
講師：古久保 俊嗣さん 他  
(NPO法人エガリテ大手前 代表)

第1回 5/15⑩ 10:00 ~ 16:00  
孫育てのテキスト学習や、離乳食作りなどの実習

第2回 5/22⑩ 13:30 ~ 16:00  
ソフリエを元にライフプラン作成、ソフリエ認定式

会場：三重県男女共同参画センター  
「フレンテみえ」1階 生活工房

定員：20名(先着順)

参加費：1,000円(材料+テキスト代)

託児：500円/人  
(1歳6ヶ月～未就学児/5/1⑩申込締切)

申込方法：チラシ裏面の申込書に必要事項を記入の上、  
電話・FAX・郵便・HP・持参にてお申込みください。

お申込み・お問い合わせ先 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」  
住所：〒514-0061 三重県津市一海田上津郎田1234 電話：059-233-1130 FAX：059-233-1135  
E-mail：irentecenter-mie.or.jp HP：http://www3.center.mie.or.jp/center/frenste/

家庭で、地域で活躍するカッコイイじいじを目指そう!

「団塊世代には社会を変革し続けてきた潜在力がある。単なる遊び相手ではなく主体的に孫育てができる真のソフリエを目指してほしい。ソフリエという呼称には、食文化についての幅広い知識を求められるワインのソムリエのように、これまでの人生経験を生かした孫育てをしてほしいという想いも込めています。」  
NPO法人エガリテ大手前代表・古久保俊嗣さん

講師紹介

古久保 俊嗣さん(ふるく ぼしせんじ)  
NPO法人エガリテ大手前代表  
一般職、専任として米国ユウノウ・オブ・ザ・エス・アンド・エス・グループ、日本及び海外の多国籍企業で経営に携る。2004年NPO法人エガリテ大手前を設立、男女共同参画の促進研究、政策提言、研修などを担当。

竹村 泉さん(たけむら いずみ)  
NPO法人エガリテ大手前理事  
京都大学、からがわ 福知山 山崎建設など3期正副代表委員(主に教育費、スタートアップの振り返りに関する)活動中。

藤川 久美子さん(ふじかわ くみこ)  
NPO法人エガリテ大手前理事  
大阪大学助産師、助産師資格、豊田市立看護学院非常勤講師(産科)担当。産科、児童の指導、保護者支援を行う消費者生活アドバイザー。消費生活問題にも関心があり、家庭消費生活アドバイザーとして活動中。

【交通のご案内】  
バス：三重交通路線バス 津駅西口から約15分、津駅西口から約25分  
自家用車：伊勢自動車道宮田インターから約15分、伊勢自動車道津4インターから約10分  
※津駅西口から約15分、津駅西口から約25分、津駅西口から約15分、津駅西口から約25分  
※お持ちの方のみご記入ください

男性講座「カッコイイじいじになろう!」申込書

| ふりがな            | 年代            |
|-----------------|---------------|
| お名前             | 歳代            |
| 住所              | 〒 -           |
| 電話番号            | ( ) -         |
| FAXもしくはE-mail   |               |
| ※お持ちの方のみご記入ください |               |
| 既婚申込            | 子どもの名前・子どもの年齢 |

1. 18歳未満の未成年者、未成年者に関する事項はご記入できません。2. お名前が法人の場合は、個人情報を保護するために必ずしもご記入しなくても構いません。3. 個人情報は関係する個人、および関係する法人に提供されることがあります。4. 本センターは、個人情報保護法に基づき、個人情報を適切に管理いたします。

## 施設名

# 大阪府立男女共同参画・青少年センター

〒540-0008 大阪府中央区大手前1-3-49  
電話：06-6910-8625 ホームページ：http://www.dawncenter.or.jp/

### 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

#### 施設の運営方法

大阪府は施設管理部分については指定管理者制度、事業部分は市場化テストを導入し、現在、いずれも一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団が受託している。

#### 男性向け講座の位置づけ

当財団が大阪府から委託を受けている「男女共同参画の実現に資する啓発講座事業」の一環として、男性のみを対象とした講座を実施している。

啓発講座で取り上げるテーマについては、年度当初に大阪府の所管課と受託者である当財団が協議および調整して決定している。府の施設が担うべき役割として、すべて20コマのうち市町村職員や学校教員を対象とした研修プログラムが大半を占めている。限られた一般府民向け枠については、できるだけ多様な参加者を対象としたいという府の意向により、男性のみを対象とした講座も実施することになった。

#### 施設の立地によるポイント

当施設が官庁およびオフィス街にあるため、生き方やメンタルヘルスに関係したテーマであっても、男性が仕事帰りに人目を気にせずに参加できるメリットがある。府の施設として、市区の男女共同参画センターで実施すると、男性が参加しにくいと考えられるテーマにも取り組む役割を担っていると捉えている。

大阪府はドーンセンターにおいては、基礎自治体との役割分担を踏まえ、広域的、専門的事業に特化した事業展開を図っている。男性を対象とした講座についても、市区の男女共同参画センターとの役割分担を意識する必要がある。

### 施設名 ▶ 大阪府立男女共同参画・青少年センター

事業名（講座名）

## 男性向け講座 「心が折れない男の生き方：男の鎧を脱ぎ捨てよう」

### 1. 事業概要

#### 背景

現代社会において、仕事の頑張りすぎによる疲れや、職場の人間関係に馴染めないなどの問題を抱えてひとりで悩み、いずれ深刻な事態に陥る可能性のある男性が増えている。

内閣府の「地域における相談ニーズに関する調査」（平成22年8月）でも健康、病気、障害や、メンタルヘルス、ストレスなどが、男性が抱える問題の上位にあげられており、また以前実施した男性向け講座の参加者

からも、メンタルヘルスやうつに関する講座を希望する声があがっている。

### ■目的

現在このような悩みを抱えている男性や、またそのような可能性のある男性が、深刻な事態に陥る前に自身のおかれている現状に気づき、しなやかに・おだやかに・したたかに生きるヒントを探ってもらおう。

### ■効果

男性相談の現場からの声を聞くことにより、自身のおかれている現状・悩みを再認識することで、「うつ」「自殺」などの深刻な事態に陥ることを未然に防ぐとともに、これからの人生をもっと素敵にプロデュースし、自分らしくいきいき生きるヒントを得ることができる。

■対象・定員 テーマに関心のある男性・各50名

■参加費 無料

### ■参加者概要

〔年代〕

20歳代1名、30歳代7名、40歳代22名、50歳代16名、60歳代12名、70歳代2名

〔職業〕

会社員19名、公務員12名、自営業4名、学生0名、その他7名、無回答19名

〔開催情報入手先〕※複数回答あり

チラシ31名、ドーンセンター HP 6名、財団HP 8名、ドーンセンターメルマガ1名、大阪府メルマガ0名、新聞13名（五大紙7、日刊ゲンダイ1）、その他4名、無回答0名

（チラシ入手先：図書館9、ドーンセンター6、生涯学習センター3、男女共同参画センター3、非暴力ネットワーク1、ホール1、公民館1、役所1、労働センター1、職場1）

## 2. プログラム

日時

〔メンタルヘルス編〕平成23年10月19日（水）19：00～21：00

〔ワーク・ライフ・バランス編〕平成23年10月26日（水）19：00～21：00

会場 ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）大会議室1

内容

「心が折れない男の生き方」～男の鎧を脱ぎ捨てよう～

〔メンタルヘルス編〕「あなたの心が折れる前に」～男性相談の現場から

講師：吉岡 俊介さん

男性向けカウンセリンググループを運営している講師に、相談現場からの事例を交えて話し、参加者にメンタルヘルスの必要性に気づいてもらう。

〔ワーク・ライフ・バランス編〕「しなやかに・おだやかに・したたかに」～これからの男の生き方

聞き手：吉岡 俊介さん、スピーカー：中森 勇人さん（対談形式）

メンタルヘルス編を踏まえ、スピーカーの中森さんの体験談を交えながら、これからの男性の生き方について対談し、参加者に生き方のヒントを与える。

参考書籍 中森勇人著、吉岡俊介監修『心が折れそうなビジネスマンが読む本』ソフトバンククリエイティブ、2010年5月

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

男性が参加しやすい呼びかけについて

企画段階から講師と相談及び情報交換し、講師の著書を前面に出す等、男性の知的好奇心にも響くような呼びかけを工夫した。

広報について

主な対象である働き盛りの男性が日頃の情報収集をしているメディア（新聞等）に案内を掲載する等、通常の講座・イベントとは異なる広報ルートを開拓した。

開催日について

多くの企業や役所がノー残業デーに設定している水曜日の夜に開催した。

社会資源の提供について

近畿圏の男性相談窓口一覧を作成し、講座の参考資料として参加者に配布した。

4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

当日は講座終了が21時を過ぎていたにもかかわらず、参加者同士が声をかけあって連絡先の交換等をしている様子が見受けられた。

講座2回目を講義型ではなく、スピーカーによる体験報告およびそれを受けての会場とのディスカッションの時間としたことにより、参加者間の連帯感が深まったこともその一因であると考えられる。

5. 今後に向けた展望と課題

当講座では、心が折れた経験のある参加者が自分自身のことを語る場面もたびたびあった。講師が発した「うつ病は『心の骨折』。放っておくと心身に重大な影響を及ぼす。自分は大丈夫と過信しないで、完全に心が折れる前に気づいてほしい」というメッセージが参加者に届いたからだろうと考えられる。

事業担当者には、男性は自らのことを語ることに抵抗があるという先入観を払拭し、男性が参加しやすいテーマを設定して男性向け講座を企画・開催することが求められている。

告知ポスターのデザインは、男性向けの講座であることを示す「男性向け講座」のラベルと、DawnCenterのロゴが特徴的。メインのタイトル「心が折れない男の生き方」は大きく、副題「～男の鎧を脱ぎ捨てよう～」が添った。講師の吉岡俊介と中森勇人の名前が明記されている。開催日時、会場、参加費（無料）などの詳細情報が一目でわかるように配置されている。

申し込み用紙は、講座の概要と申し込みの必要事項を記載している。講師の経歴や会場案内、申し込みの締め切りと連絡先が明確に示されている。申し込み欄には氏名、年齢、職業、連絡先などの項目があり、参加希望日として10/19と10/26の2日指定されている。

〈一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団 木下 みゆき〉

## 施設名

## 鳥取県男女共同参画センター

〒682-0816 倉吉市駄経寺町212-5  
 電話：0858-23-3901 ホームページ：http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

## 施設の置かれている状況

鳥取県男女共同参画センターは、鳥取県が設置および運営する施設であり、県中部地区に位置する倉吉市内の複合施設「倉吉未来中心」内に設置されている。本県の人口は588,667人（平成22年国勢調査）と全国で最も人口が少なく、過疎と高齢化が進展している。

「平成23年社会生活基本調査」では、ボランティア活動の行動者率は33.9%で全国第4位となっており、自治会などのまちづくりや環境活動などに参加する人の割合が高い。中山間地域の高齢化や都市中心部の空洞化によって地域のコミュニティは、以前に比べて弱くなってはいるが、地域における互助意識は残っている。

## 地域のニーズ把握

平成21年度鳥取県男女共同参画意識調査では、仕事と生活の調和については、男女とも約30%の人が望んでいるのに対し、実現している人は10%に満たない。今後、男女共同参画センターで力を入れていくべき事業としては、「情報・資料等の収集と提供」が45%、「男女共同参画の理解者・リーダーの養成」が33%と多く、「男性向けの講座の実施、充実」については17%と他の項目と比較して多くない。ただ、事業の企画内容によってはニーズはあると考えている。

## これまでの取り組みおよび工夫

主に男性を対象にした事業としては、平成22年度は男性の家事・育児参加を促す「共同参画時代のパパ力養成フォーラム」、平成23年度は定年前の男性を対象にしてこれからの生き方を考える「男の人生マネジメント事業」、平成24年度は孫世代との関わり方を学ぶ「イクジイ養成スクール」などに取り組んだ。

本県は公共交通機関の整備が十分でなく、県域内の移動に時間を要するため、県東部および西部地区の県民が気軽に当センターを利用することは困難な状況にある。したがって、広く参加者を集めるために当施設外で事業を実施することが多い。

より多くの県民に関心を持って参加してもらうため、より県民に近い場所で事業を実施することやNPOや団体などとの連携を前提して、その資源やネットワークを活かした企画を考えることに特に配慮している。そのため、当センター直営で事業を実施するのではなく、NPOや団体に事業を委託して、それぞれの持ち味を活かした事業の企画および運営をおこなっている。

## 施設名 ▶ 鳥取県男女共同参画センター

### 事業名 (講座名) 男の人生マネジメント事業

## 1. 事業概要

### ■事業背景

男性はこれまで仕事一筋に生きてきたため、定年になってから身の回りのことや地域へのデビューで戸惑うことが多い。また、男性も介護に関わることが多くなってきているが、家事の経験も少なく、介護に大きな不安を持っている。定年後の人生を充実したものにするための意識改革やライフプランの構築が求められている。

■実施年度 平成23年度

### ■事業目的

男性が定年を迎えるときに、家事や介護などの生活面や地域社会で生きていくために困ることなく、生きがいを持って第2の人生を送ることができるように、男性の生き方を学ぶ。

■対象 定年前の男性

■テーマ 男の人生復活祭 ～定年後の人生を力強く生きていくために～

■予算 300,000円

■参加者数 第1回：150名 第2回：130名 ※予定者数は各100名

■主催 特定非営利活動法人がいなネット（鳥取県男女共同参画センター委託事業）

## 2. プログラム

### 第1回

日時 平成23年8月7日（日）13：30～15：30

会場 米子ホスピタウン ゆうとぴあ広場

内容 ①講演「活力・魅力のある老人になるために」

医療法人・社会福祉法人真誠会理事長 小田 貢さん

②ディスカッション 医療法人・社会福祉法人真誠会理事長 小田 貢さん

子育て支援ネット西部 松本 寿栄子さん

### 第2回

日時 平成23年10月23日（日）13：30～15：30

会場 米子市文化ホール イベントホール

内容 ①講演「定年後の生活設計～聞かないと損する年金の話～」

安酸社会保険労務士事務所所長 安酸 早苗さん

②ディスカッション 医療法人・社会福祉法人真誠会理事長 小田 貢さん

安酸社会保険労務士事務所所長 安酸 早苗さん

※1回および2回共通の催し（簡易体力測定、健康クラブ体験、レクリエーション等）

## 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

### 男女共同参画の視点

定年前の男性が、家事や介護、お金の問題など生活面で困らないように生活自立力を高める。さらに、地域の一員として助け合いながら、生き生きと暮らし、社会貢献や地域づくりに積極的に取り組むことの重要性について理解を深め、さらに実践につなげていくことができる企画にした。

### 事業の公募および選定



本事業は当センターの直営でなく、県内で活動するNPOや団体等が持つさまざまな資源を活用することをねらいとして、委託により実施することにした。委託先は公募をおこない、5団体から応募があった。外部委員を含む選考委員では、事業目的の適合性、事業効果等の審査をおこない、1団体を選考した。

#### 受託団体の資源活用

受託団体は県西部を活動拠点にするNPO法人がいなネットで、ボランティアのコーディネーター、意見交換の場を作ることを主な活動にしている。代表者は、医療法人および社会福祉法人の代表者でもあり、医療・介護従事者などの人的資源、NPO法人の持つネットワークを活用して企画および運営をおこなうことができた。これらにより、本事業への集客に大きな効果があった。

#### 広報

男性を対象にした事業は集客が難しい面があり、対象者に情報が届いていないこともその原因のひとつである。本事業では地元新聞やケーブルテレビによる広報や事業の様子を紹介するDVDを制作して、当日参加できなかった人も視聴できるように配慮した。

## 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

### 事業の目標

男性の生活自立力を高めることと、地域活動等に参加することの重要性を理解し、実践できる人を増やすため、必要な情報を多くの県民、特に定年前の男性に提供することを事業の目標とした。

### 事業の成果

第1回が150名、第2回が130名と各回とも予定数（各100名）を上回る参加者を集めることができた。また、男性参加者の割合は第1回が65%、第2回が57%で、定年前の参加者の割合は第1回が39%、第2回が63%という結果になった。参加者数および属性については、ほぼ目標どおりの成果を上げることができた。

内容面では、健康や年金という誰もが関心が高いテーマを基礎にして、定年後も自分の能力や個性を生かし、地域や社会と関わりながら、目標や生きがいを持って人生を送ることの重要性を学んでもらうことをねらいに構成した。参加者の満足度は不明であるが、基本的な情報は提供できたと思う。今回の企画は、老後のライフプランを構築するために必要な情報を提供することを目標にしており、講座の受講後のフォローはおこなっていない。次のステップを支援するための当センターとしての取り組みについては、今後の課題である。

## 5. 今後に向けた展望と課題

男性の家庭・地域への参画を促進するための取り組みは、第3次計画でも重点目標のひとつであり、当センターとしても重点的に取り組むべきテーマである。しかし、当センター単独の取り組みでは、事業の展開には限界がある。センターとしての役割を明確して、市町村や企業、NPO等と連携した取り組みが必要である。以下、今後の方向について整理してみたい。

### (1) 市町村の取り組み支援

市町村の男女共同参画に関する取り組みには濃淡があり、当センターによる支援をさらに充実していく必要がある。例えば、県民が身近な地域で学習できるように、市町村の男女共同参画、社会教育担当者向けの学習プログラムを作成したい。

### (2) 企業との連携

企業ではワーク・ライフ・バランスへの関心が徐々に高まっており、当センター職員が出前講座として出かける機会が増えている。県が認定した男女共同参画推進企業を中心に、さらに働きかけをおこない、企業と連携した取り組みを充実したい。

### (3) NPO、県民等との連携

全県的な取り組みを進めていくためには、多様な主体と協働連携していくことが必要であり、新たなNPO等とパートナーとしての関係づくりをおこないたい。

将来どうしていくんだ？ 見つけるイベント

# 男の人生復活祭 その巻

～定年後の人生をより良く生きていくために～



平成23年8月7日(日)  
13時30分～15時30分  
米子ホスピタウンゆうとぴあ広場  
米子市河崎 581-3 TEL0859-24-5666

**入場無料**

ご夫婦・カップルの参加も大歓迎です!!

**1 講演** 13:30～  
「活力・魅力のある老人になるために」  
医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢

**2 ディスカッション** 14:00～

**3 催し** 14:30～

- 簡易体力測定
- 健康クラブ体験
- 認知症タッチパネル
- 健康チェック診断
- レクリエーション
- 出店(たこ焼き・フリードリンク)
- ボランティアとサークル活動紹介



次回予告 **男の人生復活祭 その巻**  
日時:平成23年10月23日(日) 13:30～15:30 会場:米子市文化ホール(イベントホール)

鳥取県男女共同参画センター よりん彩 男の人生マネジメント事業  
主催:特定非営利活動法人がいなネット  
(お問い合わせ先)〒683-0852 米子市河崎 580 TEL:0859-24-6000 FAX:0859-24-2249 E-mail:scerry@hospitalon.or.jp 担当:磯村・尾越

〈鳥取県男女共同参画センター 所長 大西 孝弘〉

## 施設名

## 島根県立男女共同参画センター「あすてらす」

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ236-4  
 電話：0854-84-5500 ホームページ：http://www.asuterasu-shimane.or.jp/

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

島根県立男女共同参画センター「あすてらす」は、東西約230kmと細長い県土のほぼ中央に位置する大田市にあり、平成19年に世界遺産に登録された石見銀山遺跡の玄関口ともなるJR大田市駅に隣接している。愛称である「あすてらす」は明日を照らし、私たち（英語でアス）を照らすみんなの活動の場（テラス）という思いを込めてつけられたもので、男女共同参画社会の実現に向けた県民の主体的な取り組みへの支援と、島根県による具体的な施策をおこなう拠点として平成11年4月に開館した。

財団法人しまね女性センターは、開館時より館の施設管理および啓発事業の企画、運営を担っており、施設管理については平成17年度から指定管理者の指定を受けている。

男女共同参画を推進するためにさまざまな啓発事業を展開する中で、男性の多くは、男女共同参画を「女性の問題」あるいは「女性の活動」と捉え、「自分自身の問題」「今後の日本社会のあり方に関係するもの」という認識は低く、当財団がおこなうさまざまな事業への参加もほとんどみられなかった。

こうした状況を踏まえ、当財団では、男性の生活者としての自立や働き方の見直しを図るとともに、女性の社会参画の環境整備をおこなうことを目的に、平成21年10月から3カ年にわたり、島根県内の男性を対象として「男性のための生活自立支援セミナー」を企画、実施した（財源として国の経済対策にともない造成した基金を活用）。

## ＜男性のための生活自立支援セミナー＞

- ①生活必須科目修得セミナー（連続講座）：家事を楽しく体験し生活者としての自立を図る
- ②自分流ライフプラン応援セミナー：自己をふりかえり、今後のライフデザインのきっかけを作る
- ③職場で学ぶライフマネジメント講座：企業等で働く男性が働き方や家庭・地域参画を考える
- ④啓発パネル、男女共同参画かるた等の啓発グッズ作成

## 施設名 ▶ 島根県立男女共同参画センター「あすてらす」

事業名（講座名）

連続講座「男性のための生活自立支援セミナー」（雲南会場）

## 1. 事業概要

これまで主に女性が担ってきた家事を男性に楽しみながら学んでもらい、家庭での生活自立を図るとともに、女性の社会進出のための環境づくりを目的に、「衣・食・住・介護・育児」に関する講義と実践を盛り込んだ連続講座を県内8市町でおこなった（平成21～23年度予算額 約2,200万円）。

実施地の選定にあたっては、地域バランスに配慮するため県内を7ブロックに分け、市町村の男女共同参画行政担当部署や社会福祉協議会等に共催での実施を持ちかけた。共催先決定後は、より成果のある講座とする

ために受講対象やテーマ選定においては共催者の意向を尊重し、地域住民により身近な講座と感じてもらうために、共催者に広報、申し込み窓口、受講者との連絡調整や当日の進行を依頼した。一方、共催者は男女共同参画に関する専門的な知識を有していない場合も考えられることから、財団は企画全体の監修をはじめ、テーマに沿った講師候補の提案および交渉、連絡調整をおこなった。また、実施にかかるすべての経費を負担した。

**実施市町** ※（ ）内はテーマ 講座の詳細については下記ホームページ参照

平成21～23年度 邑南町（衣・住・食・介護）

平成22年度 雲南市（食・介護・育児・住）、江津市（衣・食・住・介護）、海士町（食・育児・介護）

平成22～23年度 隠岐の島町（食・育児）

平成23年度 出雲市（住・食・介護）、安来市（衣・食・介護・育児）、津和野町（食・住・衣）

『男性のための生活自立支援セミナー 報告書』

<http://www.asuterasu-shimane.or.jp/swc/publish/h24dansei-houkokusy02.pdf>

島根県には平成15年度から各市町村に男女共同参画推進に向けた啓発活動をおこなう「島根県男女共同参画サポーター（男女共同参画推進員）」を設置しており、邑南町と安来市ではサポーターで構成されるグループと共催で実施したほか、受講の呼びかけや講座当日の受付や作業補助等の運営に協力をお願いした。

ここでは、平成22年度に雲南市と共催で実施した連続講座（全4回）を紹介する。

## 2. プログラム

### 第1回 料理教室「簡単！お手軽！5分間クッキング」

日時 平成22年6月29日（火）9：30～13：00

場所 三刀屋交流センター（雲南市三刀屋町）

内容 ・男性の生活自立度チェック  
・講義「週末主夫のすすめ」  
・調理実習「簡単！お手軽！5分間クッキング」

講師 神長 一徳さん（家事コンサルタント）

人数 19名

### 第2回 介護体験教室「知っておきたい介護サービスと介護術」

日時 平成22年8月25日（水）13：30～15：30

場所 特別養護老人ホーム笑寿苑（雲南市加茂町）

内容 ・講義「介護サービスについて」  
講師 社会福祉法人かも福祉会職員 勝平 亨さん  
・施設見学  
・実習「車椅子・ベッド上の基本動作」  
講師 社会福祉法人かも福祉会職員 勝平 亨さん、  
森脇 富栄さん  
・講義「男性介護者の介護実態と今後の課題」

講師 （財）しまね女性センター専門員 福岡 祐子

人数 23名



**第3回 よみかたり教室「おやじの絵本読み語り」**

日時 平成22年10月13日（水）10：00～12：00

場所 木次図書館（雲南市木次町）

内容 ・講義「平成育児事情～男の子育て・孫育てのススメ  
イクジイだって、読み聞かせ！」  
・実習「おやじの絵本読み語り」

講師 安藤 哲也さん（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）

人数 20名

**第4回 住まいの掃除教室「年末大掃除大作戦」**

日時 平成22年12月8日（水）10：00～12：00

場所 大東健康福祉センター（雲南市大東町）

内容 ・講義「年末大掃除大作戦」  
・実習

講師 江川 佳代さん（ハウスキーピングコーディネーター）

人数 22名

**3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫**

受講者募集にあたっては、雲南市の担当職員が中心となって、同市全域へのチラシ配布や積極的な声かけをおこない、毎回20名程度の受講者を確保することができた。また、隔月で実施し、定期的に顔を合わせる機会を得たことで受講者同士のつながりが強まり、受講者有志による子育て支援グループの誕生につながった（4. 成果 参照）。

事業の効果を高めるために、開講式と連続講座修了時には家事や地域活動に関連した20項目の設問による「男性の生活自立度チェック」をおこない、受講前後の意識や行動の変化に対する気づきを認識してもらった。また、第2回の介護体験教室では、講師の施設職員からは一般的な介護サービスの紹介や介助指導のみとなり男女共同参画の視点を盛り込むことが困難なことが予想されたため、財団職員が男性介護者の介護実態や課題について講義をおこなった。

さらに、連続講座で得た気づきをより深めるため、1カ月後に「自分流ライフプラン応援セミナー」を実施した。他の市町村ではライフラインチャートの記入をおこなったところもあるが、雲南市では受講者と同年代で現在家事や地域活動を積極的におこなっている男性に、ゲストスピーカーとして体験発表してもらった。仕事人間だった現役時代と家庭や地域に生き甲斐を見つけた定年後の暮らし方の違いを聞いた受講者たちは大いに共感し、連続セミナーのふりかえりや今後の暮らし方を語る場面では一人ひとりが気づきや思いを語り、共有する機会となった。

**4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）**

受講者は団塊世代の男性が多かったことから、第3回のよみかたり講座の演題を決める際に、育児に関わる男性「イクメン」に対し、育児を楽しむ「イクジイ」という造語を生み出すことになった。また、このことは、育児の講座の指導者であったファザーリング・ジャパンにおいては、団塊世代の男性が育児参画する事業へと全国展開するきっかけになった。

「自分流ライフプラン応援セミナー」の準備を進める中で「このまま終わってしまうのはもったいない」という意見が出ていたので、同セミナーの終了時に雲南市の担当者から受講者に話を持ちかけたところ、「自分たちも講座に参加して面白かったので何かできると嬉しい」との声が返ってきた。その結果、2カ月後には、受講者有志15名による子育て支援グループが発足。「イクジイ」をおしゃれな呼び方にしたいという考えから、

グループ名を「グランパin雲南」と名づけ、絵本のよみかたを中心に、紙芝居や手品を採り入れ、市内の保育園、幼稚園、子育てサロンで継続した活動をおこなっている。さらに、この活動を知った県内の行政機関や団体等から講演（公演）依頼があるほか、鳥取県男女共同参画センターや陸前高田市においても公演や活動発表をおこなっている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

平成23年5月に策定された「第2次鳥根県男女共同参画計画」に男性や若者に向けた理解促進が盛り込まれ、平成24年度からは連続講座「男性のためのブラッシュアップセミナー」（2市町）を鳥根県からの受託事業として、リニューアルした内容で実施している。

実施（共催）市町村の選定に当たっては、1カ所は平成21～23年度に連続講座を実施し、更なる啓発効果が期待できる市町村を、もう1カ所はこれまで男女共同参画に関する事業をあまり実施していなかった市町村をターゲットにしている。

平成24年度からは少ない予算での事業実施となるため、今まで以上に効果的な運営に努めなければならない。そのためには、それぞれの市町村の実情にあった企画や受講対象者の選定とその確保等が重要であり、実施市町村との連携をより緊密にして協議を進める必要があると考えている。

講座の企画立案をおこなう上では、受講者の興味づけがしやすい手段を用いることが必要であるが、単なるカルチャー講座ではなく、常に男女共同参画の推進につながるものとするために講師選定や運営のしかたを意識することを心がけている。家事や介護、育児に関する実習を取り入れた内容となると、男女共同参画の視点を盛り込んで指導できる講師ばかりではない可能性が高いため、事前の打ち合わせでは講師自身の意識醸成を含め、足りない部分は財団職員が補うようなプログラムを考えることが望ましい。また、連続講座でおこなうことにより繰り返し受講者の意識や行動の変革に向けた働きかけができることから、第2回以降のアンケートには前回から当日までの意識や行動の変化を記載する項目を設けることも効果的だと思う。

今後、県内の男性が男女共同参画の視点を持って家庭や地域活動に参画していくためには、①基礎的自治体である市町村が男女共同参画社会は地域活性化につながることを理解し、主体となって啓発活動や事業を展開していくことや、②「グランパin雲南」のように、講座を受講した男性たちが自発的に個人やグループで活動する気運を高めていくことが必要であると考えている。

当財団では、これまでに実施したセミナーの実績を検証しながら、今後も県内の市町村や団体等と協力しつつ男性向けの事業を展開することとしている。

# 男性のための 生活自立支援セミナー

**4回シリーズ**

「これまで家事はほとんどしたことがない」「家の事は妻がやった」と言っているあなた！楽しみながら、家事を体験してみませんか？暮らしに役立つ内容ばかりなので、すぐに実践できますよ。男性の皆さん集合！！

|     |                                                                                                                                                       |                                                                                   |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | <b>料理教室「簡単！お手軽！5分間クッキング」</b><br>日 時：平成22年6月29日（火）9：30～13：00<br>場 所：三刀屋農村環境改善メインセンター（三刀屋町三刀屋144-1）<br>講 師：神尾一彦さん（家事コンサルタント）<br>※エプロン、三角巾をお持ちください。      |  |
| 第2回 | <b>介護体験教室「知っておきたい介護サービスと介護術」</b><br>日 時：平成22年8月25日（水）13：30～15：30<br>場 所：特別養護老人ホーム笑寿苑（加賀町加賀916）<br>講 師：社会福祉法人かも福祉会職員<br>※動きやすい服装でお越しください。              |  |
| 第3回 | <b>よみかたり教室「おやじの絵本読み語り」</b><br>日 時：平成22年10月13日（水）10：00～12：00<br>場 所：木次図書館（本郷町木次1008）<br>講 師：安藤哲也さん（NPO法人ファザーリングジャパン代表）<br>※お子さんやお孫さんが好きな絵本があればお持ちください。 |  |
| 第4回 | <b>住まいの掃除教室「年末大掃除大作戦」</b><br>日 時：平成22年12月 8日（水）10：00～12：00<br>場 所：大東地域交流センター（大東町大東1031）<br>講 師：江川佳代さん（ハウスキーピングコーディネーター）<br>※エプロンをお持ちください。             |  |

※講師プロフィールは裏面に記載ください。

◎対 象：雲南市在住の男性の方  
 ◎定 員：25名程度 ※原則として4回とも受講できる方（先着順）  
 ◎参加費：無料（第1回は材料費300円）  
 ◎申込方法：住所、氏名、年齢、電話番号をご記入の上、裏面の申込用紙またはハガキ、Fax、E-mailにてお申し込みください。  
 ◎申 込 先：雲南市男女共同参画センター  
 〒699-1334 雲南市木次町新町3番地  
 TEL:0854-42-1767 FAX:0854-42-1839  
 E-mail: dan@yokyoudoucity.urman.shimane.jp

**申込締切  
5月31日(月)**

主催：雲南市男女共同参画センター  
（財）しまね女性センター

～講師プロフィール～

**第1回 料理教室** 講師：神尾一彦さん<家事コンサルタント>  
 雲南在住。ハウスキーピング会社にてプロの掃除クッキングを指導。その後、ホームページ「キッチン習熟プログラム」を立ち上げ、家事の悩み無料メール相談を開始。近畿圏、kazami japan 株式会社を設立し、出張コンサルティング業務を開始。無料メールマガジン「週末専業主夫おじさんの5分間クッキング」は購読者が17,000人を突破。また、メルマガオブザイヤー2006グルメ&クッキング部門一位を獲得。男性でも簡単に作れるメニューが好評。マスコミからも高く評価され、新聞・雑誌・ラジオ・テレビ等で数多く取り上げられている。

**第2回 介護体験教室** 講師：社会福祉法人かも福祉会  
 橋平 亨さん<居宅介護支援事業所管理者・介護支援専門員>  
 森脇富栄さん<ヘルパーステーションかも管理者(係長)>

**第3回 よみかたり教室** 講師：安藤哲也さん<NPO法人ファザーリングジャパン代表>  
 東京都在住。明治大学卒業後、出版社勤務、書店、IT企業などに勤務。会社員時代に父親の手育て支援・自立支援事業を開始する。NPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げ、代表に就任。また、F.V.V.（絵本プロジェクト）のメンバーとして、全国の図書館、保育園、自治体等で、<F.V.V.の出張絵本おはなし会>を開催している。12歳、9歳、2歳の3児の父親。

**第4回 住まいの掃除教室** 講師：江川佳代さん<ハウスキーピングコーディネーター>  
 広島県在住。専業主婦からプロの整理収納コンサルタントへ転身。自宅セミナーを中心に、講座や整理収納コンサルティング・収納サービスを行う。ハウスキーピングコーディネーター2級、香川県教員免許所持。カリス主催として多くのファンに支持されている女性です。

**会場案内**



- ①三刀屋農村環境改善メインセンター  
Tel: 45-2115
- ②特別養護老人ホーム笑寿苑  
Tel: 49-9500
- ③木次図書館  
Tel: 42-1021
- ④大東地域交流センター  
Tel: 43-2270

FAX:0854-42-1839

**「男性のための生活自立支援セミナー」申込書**

|          |    |   |
|----------|----|---|
| 氏名（ふりがな） | 年齢 | 歳 |
| 住所 〒     |    |   |
| 電話番号     |    |   |

（財団法人しまね女性センター 福岡 祐子）

## 施設名

# 長崎県男女共同参画推進センター

〒850-0862 長崎市出島町2番地11号  
電話：095-822-4729 ホームページ：<http://www.pref.nagasaki.jp/danjo/center/>

### 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

本県人口は、約141万人で、離島、半島が多い地理的条件もあり、交通等利便性が低い。特に、壱岐、対馬においては、航空機利用以外の交通機関利用は、佐賀県、福岡県を經由しなければならず、経済圏は福岡市となっている。また、一次産業が多く、雇用環境等が厳しく、県外に流出する新規学卒者が多い等で、全国に先行して人口減少、高齢化が進展している。学習機会も少なく、情報が届きにくい状況の中、固定的性別役割分担意識がまだまだ強く残存し、女性の活躍も十分でない状況がある。

センターは、平成17年4月に、県直営でオープンし、専任の職員はセンター長と相談員の2名と少人数であるが、開設当初から行政の男女共同参画室内組織であり、室4名と同フロアで執務し、一体となって事業等に取り組んでいる。

地理的条件のため一般県民の方が、センターに参集しての受講等は経済・時間的にも負担が大きい。したがってセンターが各地域・団体等に出かけ講座開設などの支援をすることを主体としている。そのためセンターを、男女共同参画推進のリーダーを中心とした学習、交流および情報収集発信の拠点施設として位置づけている。

県内各地域への男女共同参画の推進は、地域において男女共同参画の普及啓発に取り組む男女共同参画推進員（市町長推薦で知事が委嘱、任期1期2年で最長任期は3期6年間）26名（内男性5名）とその任期終了者である男女共同参画推進アドバイザー17名（内男性2名）を活用し、市町担当課と連携した啓発活動等に取り組んでいる。推進員・アドバイザーの中でも、特に男性の推進員、アドバイザーは、地域において女性の活躍支援と男性自身の固定的な性別役割分担意識の解消のための活動に取り組む男性グループの結成等に力を入れ、自らもグループ員として活躍している人もいる。

本県では、性別役割分担意識が強く、男女共同参画は女性のためのものだという意識も残っている中で、男性にとっての男女共同参画推進は、第2次長崎県男女共同参画基本計画においても、重点的かつ早急に対応すべき4課題の中のひとつに位置づけられている。

平成19年度から3年間、男性の参画を促し、男女共同参画社会を促進するため、従来男性の取り組みが少なかった分野に男女で取り組む「男女でともにチャレンジ・モデル事業」を創設。平成22年度からは、男女共同参画の地域での主体的な取り組みの推進のために、地域課題に取り組むモデルとなる実践グループを育成し、そのグループが地域のロールモデルとなって波及を及ぼすことをねらいとした男女共同参画地域力活性化事業を企画した。この事業は、男性を対象にしたものではなかったが、結果として県内8地域の中で、2地域が男性の意識改革の推進を課題に取り上げ、取り組むことになった。



## 施設名 ▶ 長崎県男女共同参画推進センター

事業名（講座名）

# 男女共同参画地域力活性化事業

## 1. 事業概要

### ■ 目的

地域における男女共同参画を推進する上での課題の解決に自ら取り組むことで地域の活性化をめざす

### ■ ねらい

- ① 地域での男女共同参画推進上の課題について検討し、課題に取り組む実践グループの育成を通じて、地域課題を解決する支援をおこなう地域活動促進会議を設置する
- ② 男女共同参画の課題の解決に取り組む実践グループを育成し、そのグループが地域の課題解決のための具体的な実践活動を展開し、地域への波及をねらう

### ■ 企画の背景

地域における男女共同参画推進のために、21年度までは、単発の講座の開催（1地域年間3回程度の8地域）と不特定多数の住民を対象とした啓発フェスタを開催してきたが、効果の測定が困難で一過性のイベントに終わり、地域への波及が少ない。また、男女共同参画についての課題は理解しているが、その解決のための具体的手法についてのスキルを保有している人材が少ない状況があり、男女共同参画の進展が遅い。

■ 実施年度 平成22年度～24年度（3カ年）

### ■ 対象

活動促進会議：市町の男女共同参画担当課（担当者）、県男女共同参画推進員・男女共同参画アドバイザー、NPO等がメンバー（県内8カ所設置）

実践グループ：地域住民および一部活動促進会議のメンバー（1地域1グループ育成）

### ■ 予算

- ① 事業の全体予算（単年度） 平成22年度 3,759千円、平成23年度 2,866千円、平成24年度 2,512千円
- ② 補助金：地域活動促進会議により提案を受け採択された、地域化課題解決に取り組む実践グループに、具体的な取り組みにともなう経費に対して補助金を助成
  - 1グループ30万×8グループ＝240万円
  - 22年度 2グループ
  - 23年度 3グループ
  - 24年度 3グループ

内 男性の男女共同参画推進の課題に取り組む実践グループが2グループ結成され、現在も活動を継続している（22年度1グループ、23年度1グループ）。

## 2. プログラム

男性の男女共同参画に取り組む実践グループ活動の内容（壱岐地域の例で紹介）

「D&D IKI」（平成22年12月22日発足）の活動内容——長崎県壱岐市

壱岐地域活動促進会議で地域の取り組み課題を検討した結果、取り組み課題が男性の意識改革の推進に決定、課題の設定の背景には、男性中心の地域の中で、男性の意識を変えることが男女共同参画推進のスピードアップにつながる意見が大半を占めたこと。そのために、男性主体のグループを育成することになり、この課題解決に取り組む男性グループ員を公募し結成した。活動促進会議のメンバーが支援をしながらグループ活動を展開。

- ① グループの名称の意味：ダンディなダティ＝粋（壱岐）なお父さん
- ② グループの構成員：10人（男性のみ）

③目的：壱岐にカジダン、イクメン、イクジイ、ドクメン（本の読み聞かせができる男性）を多く誕生させる。

〈1年目目標〉名称のとおりのお父さんになるための学習会等の開催

1回目：男女共同参画推進の必要性と男性の役割についての学習会  
グループの名称の決定（グループ員でアイデアをだし決定）

2回目：男性の家事参画と生活自立推進のプログラム検討

3回目：弁当づくりに挑戦（チラシを作成、メンバー以外の参加を呼びかけ）  
地域にあるホテルのコックより指導を受け実習

4回目：弁当を家族へプレゼント（ホワイトデイを活用し開催）

3回目の研修で実習した弁当を作り、家族（妻・子ども）にふるまう会を開催し、その時にメッセージ（カードに記載）を家族と交換

その様子をケーブルテレビが取材、その後1週間放映され、D&D IKIの認知度が高まった

〈2年目目標〉男性の生活自立支援、男性のネットワークづくり、「ホワイトデイは、D&D IKIの日」として定着させる。

ホワイトデイ活用して男性の男女共同参画推進をPRする。

1回目：ケーブルテレビ活用の男女共同参画啓発方法の検討

男女共同参画週間に放映を実施（壱岐市男女共同参画審議会と連携）

2回目：男性限定の料理教室の開催「ホワイトデイ」に開催

「初めてでも簡単にできるお菓子作り教室」

教室開催の様子が3月に1週間ケーブルテレビで放映された

〈3年目目標〉子どもと父親への男女共同参画の啓発に取り組む

壱岐子ども劇場（2～4回目）および壱岐人権擁護委員協議会（5回目）とコラボして実施する

1回目：今年度活動計画の検討会（壱岐地域男女共同参画活動促進会議と合同開催）

2回目：お父さん出番ですよ（パパと子どもと一緒に積み木で遊ぼう）

3回目：　　　　　　〃　　　　　　（パパと一緒にお芋の料理教室）

4回目：　　　　　　〃　　　　　　（パパと消しゴムはんこを作ろう）

5回目：男子厨房に入ろう

子どもへの絵本の読み聞かせ会

ホワイトデイにも啓発行事を計画中

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

#### ①地域課題の検討をおこなう地域活動促進会議を設置したこと

地域課題を検討し、その中の1課題を取り上げ、解決するために、課題解決に取り組むグループを育成することをねらいとした地域活動促進会議を設置したために、当初から男女共同参画の推進の目的でグループを結成し、活動の開始に至らせることができた

#### ②人材の選定を関係者一体となって実施したこととグループ代表予定者からの呼びかけ

男性の実践グループ育成は、男性の意識改革推進という課題解決活動を展開するためであり、単なる講座受講者募集とは違うために、活動促進会議および壱岐市の男女共同参画審議会連携し、各種団体等に呼びかけ、その趣旨に賛同した男性が参集して結成された。

しかし、地域で啓発活動に従事する男女共同参画推進員が「男女共同参画の話をしたい」と申し入れると相手方が引いてしまうような古い体質が残存する地域で、スムーズにグループのメンバーが集まったわけではないが、市担当課および男女共同参画推進員が呼びかける人材を把握していたことと、後日メンバーの代表

者になった男性の直接的な積極的な呼びかけが共感を呼び、10人のメンバーが集まった。

#### ③事業実施以前に活動の核となる人材の養成が図られていたこと

メンバーの中心となった男性は、平成19年度に男女共同参画推進員が幼稚園の保護者会での啓発活動のうちに発掘、その後「お父さんによる子どもへの絵本の読み聞かせ」の人材として支援し、平成22年度には内閣府主催の「ヤングリーダー研修会」に参加してもらい、より一層男性の男女共同参画の推進の必要性を認識していた人であった。

事業を円滑・効果的に進めるためには、適切な人材が必要であり、事業実施以前の活動の中での人材養成も重要な要素となる

#### ④実践グループが活動内容を主体的に企画し実践、および活動の公開

男女共同参画推進の必要性と取り組む課題の背景および活動の位置づけを最初に理解してもらい、グループ自らが活動の企画書を活動促進会議が助言をしながら作成した。

企画書をもとに補助金申請等の手続きも主体的に行った。このことにより、与えられた計画でなく自らの計画であり主体的に取り組むという認識が芽生えた。

活動の展開にあたっては、研修会の講師等もグループで選定し依頼、研修会の準備、広報等も主体的に実施することに結びついた。また、研修会はグループ員のみならず地域住民が参加できるように公開し実施した。

#### ⑤楽しく取り組める手法で家族に認知、マスメディア活用で地域に認知度を高めた

男性が弁当作りを学び、家族を招待したいとのメンバーの意見を具体化するとともにグループ員は、エプロンとバンダナを揃え、形を整えることから開始された（形を整えた方が活動に意欲が湧くという意見を具現化した）

まずは弁当作りを男性が学び、その次の会で学んだ弁当を作り、家族を招待したことにより、家族に喜ばれるとともに、家族にグループの活動を認めてもらう機会となった。

研修会の様子は、ケーブルテレビに取材依頼をし、1週間放映され、地域住民からの反響も大きく、寄せられた声が、活動へのエネルギーとなっている。

#### ⑥無理をしない活動の展開

打ち上げ花火的な活動でなく、長く持続する活動とするために、決して無理のない活動計画にしている、1年ごとにひとつの目標を決め、年々ステップアップするという方式をとり、長年活動を継続することを目標にしている。

#### ⑦地域の団体とコラボして課題の展開にステップアップさせたこと

3年目からは、地域の団体とコラボして活動に取り組んだことで、グループの認知もさらに向上して、活動に自信をつけている。

## 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

①県補助金は1年目活動の単年度のみであるが、補助金終了後も自主活動を継続し、現在3年目に入っている。

②男性の男女共同参画を進めるグループが存在することを示すために、「ホワイトデーはD&D IKIの日」というキャッチフレーズでケーブルテレビを活用することにより、認知度が高まり、地域のロールモデルとなっている。

③グループ活動を地域の他の団体とコラボで展開できるようになっている

2年目の活動までは、グループが料理教室等を開催するという活動であったが、3年目には、壱岐子ども劇場および壱岐市人権擁護委員協議会とコラボしての活動を実施できるようになった。これは、グループ活動の計画を、地域活動促進会議で発表し、活動促進会議よりコラボ先の紹介を受け、助言のもとに実現している。

④グループメンバー自らが地域の男女共同参画推進で活躍

グループの代表者は、県の男女共同参画委員会（22年度～23年度）務め、24年度からは県の男女共同参画

推進員に就任、県内女性議員研修会等でも取り組みを発表、また、他のメンバーも子ども支援活動、地域の活動等に等に積極的に関わっている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

本事業の実践グループ「D&D IKI」の活動は、男性の意識改革の中で、家庭生活における意識改革に取り組むことができた段階である。グループ活動を地域に波及させるためには、職場や学校（PTA）の中での男性の意識改革にも取り組み、ステップアップを図る必要がある。そのためには、グループメンバーの男女共同参画に関するスキルアップ支援と活動資金の確保等のための情報提供や、グループの活躍の場の提供等の支援が重要となる。

今後は、さらに地域活動促進会議の機能の拡大と強化を図り、グループや各種団体等の活動の支援を実施することにより、地域への定着をはかる。グループは活躍の場があることによりさらに活動への意欲が高まるので、グループ員ができることをできる場所で無理なく、楽しみながら活動できるように、市、男女共同参画推進員等と連携を密にして活用促進に努めたい。

回覧


男性限定

♪ 家族を幸せにする ♪

### カジダン（家事男）講座 参加者募集

～ホワイトデーにあなたの思いを  
手作りのお弁当で 伝えてみませんか～

カジダンとは、家事に積極的な男性のこと  
つまり家事男です。  
カジダンをめざして、まずは、料理に挑戦してみませんか？



| ① | 日時・場所                                         | 内容                                                                                                  |
|---|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | 2月27日(日)<br>9時～13時<br>香城西部商工会センター<br>(調理室・和室) | 料理教室Ⅰ<br>～料理の基本を学びながらお弁当づくり～<br>★家庭へプレゼントするお弁当を、多岐分けて<br>みよう(補習)<br>★で色あがったお弁当をワイワイ試食会              |
|   | 3月13日(日)<br>10時～15時<br>香城文化ホール<br>(調理室・大会議室)  | 料理教室Ⅱ<br>～家族・パートナーへプレゼントするお弁当づくり～<br>★お弁当づくり(本番)<br>★完成したお弁当を家族・パートナーへプレゼント<br>★家族・パートナーと一緒にワイワイ試食会 |

※講師は「くいの家 三平」 竹下 繁 さんです。

- 対象 男性(未婚・既婚、若否は問いません)  
※料理教室に2回とも参加できる方。  
※3月13日(日)の料理教室には、12時から  
ご家族・パートナーの方のご参加をお願いします。
- 定員 20人(定員になり次第締め切ります)
- 参加費用など 1回 500円(空に参加されるご家族・パートナーの方は無料です。)  
各自で弁当箱をご準備ください。
- 申込方法  
申込は、電話かFAXで ①名前 ②住所 ③電話番号 を下記へお知らせください。  
申込先 香城市 政策企画課 市民協働班  
電話 48-1111(内線254) FAX 47-4360
- 申込期限 2月16日(水)

- 主催 D&D IKI(代表 赤木貴尚)
- お問い合わせ先 香城市役所 政策企画課 市民協働班  
香城市郵/浦町本村562番地 電話 48-1111(内線254)

- 共催 香城市

\*D&D IKIは、香城市の男女共同参画を推進するグループです。D&Dには、ダンディなダディというニックネームが  
こめられています。  
\*この講座は香城市男女共同参画推進会議の協賛で実施しています。

回覧

男性限定

♪ 参加者募集 ♪

### 初めてでも簡単にできる お菓子づくり教室



| 日時                           | 場所                                            |
|------------------------------|-----------------------------------------------|
| 平成24年2月26日(日)<br>10:00～12:00 | 国民の郷(かざたみのさと)<br>「農林漁業体験学習館」<br>(勝本町市真融288-1) |

- 対象 男性(未婚・既婚、若否は問いません。初めての方も大歓迎です。)
- 定員 20人(先着順)
- 参加費(材料費) 1人 500円
- 申込期限 平成24年2月17日(金)
- 申込方法  
電話、FAXまたはメールで下記へお申し込みください。  
申込みの際は ①名前 ②住所 ③電話番号 をお知らせください。

＜申込先・お問い合わせ先＞

香城市 政策企画課 市民協働班  
電話 48-1111(内線254) FAX 47-4360  
E-mail iki-kikaku@city.iki.lg.jp  
※facebook D&D IKIからも申込可能です。

- 主催 D&D IKI(代表 赤木貴尚) / 香城市

- \*D&D IKIは、香城市の男女共同参画を推進するグループです。
- \*D&Dには、ダンディなダディというニックネームがこめられています。

## 施設名 ▶ 長崎県男女共同参画推進センター

事業名 (講座名)

## 男女でともにチャレンジ・モデル事業

## 1. 事業概要

## ■ 目的

これまで男性の取り組みが少なかった活動に、男女ともに取り組み、地域に貢献する活動を支援することにより、男女共同参画意識の広い普及・啓発を図る。

## ■ ねらい

家事、子育て、高齢者支援、食育普及など活動に取り組む男性を増やし、男女共同参画社会の促進を図る。

## ■ 企画の背景

平成18年度までの事業は、女性の社会参画を促進するものを実施したために、女性のエンパワーメントには効果があったが、男性の関心がうすく、男性の主体的な参画が必要であった。

■ 実施年度 平成19年度～21年度 (3カ年)

■ 対象 県内在住の男性を含む5名以上で構成されるグループ

## ■ 予算

①事業の全体予算 (単年度) 平成19年度 2,638千円、平成20年度 1,975千円、平成21年度 1,945千円

②補助金：企画グループを公募し、1次審査の書類審査、2次審査のプレゼン審査を経て選定したグループに対し、具体的な取り組みにともなう経費を助成

助成金の限度額 19年度 1グループ40万円

20年度 1グループ30万円

21年度 1グループ30万円

実施グループ数 19年度 4グループ

20年度 4グループ

21年度 5グループ

うち 男性のみで取り組んだグループ3グループ、男女混合グループ10グループ

## ■ 取り組みテーマ

男性の地域活性化活動参加 3グループ

DV加害者対策 1グループ (メンバーは男性のみ)

男性の育児参加 7グループ

男性の家事参加 1グループ (メンバーは男性のみ)

男性の家事参加+地域活性化1グループ (メンバーは男性のみ)

## 2. プログラム

## 事業内容

全体で13グループ取り組んでいるが、男性のみで取り組み、大きな効果をあげ、地域活性化グループとなっている「おおせとオヤジ夜究教室」のグループの実施内容1事例を紹介

グループ名「おおせとオヤジ夜究教室」(事業実施 21年5月～2月)

①グループの名称の意味：毎月第2・4木曜日の夜に2回、定例会を開催することからつけられた名称

②グループの構成員：26人 (男性のみ 39歳～68歳)

職業：公務員、新聞記者、会社員、自営業 (農業・漁業) 教員

③目的：男性の生活自立、良好な家族関係をめざすため、男性の家事分担の促進、地域で男性の子育て促進等に取り組む、地域で男女共同参画推進の核となり、男女共同参画のまちづくりを推進する。

④内容：活動のキャッチフレーズ：「男の自立をめざして、家事を究めて男を磨く、オヤジたちの飽くなき挑戦」

- ・家事ができる男の形成講座  
基本は食におき、食を通じた活動の展開
- ・料理教室の開催 20回（夜の定例会はほぼ料理実習）  
材料購入等の準備はすべてグループで実施  
講師：学校栄養士、地元女性
- ・男の身だしなみ講座（アイロンかけ技術、着物の着付け）実習
- ・マイバック運動の実施 メンバーが買い物時にマイバックを持参する運動
- ・介護の実習（1回）
- ・学習成果の地域への還元活動の実施

①子どもへの食育活動の実施（3回）

そば、小麦、大豆をオヤジ農園（レンタル農園およびメンバーの圃場）で栽培し地元小学校と連携し、農業体験の場とし、収穫した農作物を活用したそば作り、ピザづくりを指導するプログラムで実施

②市民向けの活動発表会の開催（1回、西海市の後援）

市民および県内の男性グループにPRし、約200名が出席

[内容]

- ・オヤジの活動実績発表
- ・オヤジの技術体験会（ピザ焼き、そば打ち、郷土料理）
- ・オヤジと語ろう
- ・講演会（食の安全と地産地消）

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

①男女共同参画推進の事業であり、事業趣旨の徹底を図った

夜究教室は、生涯学習講座の受講終了者で結成され、本事業実施までに8年の活動キャリアを持つグループである。活動内容は、関心の高いことにチャレンジするもので、マイ包丁作り、料理実習、オヤジ農園づくり（レンタル）、パン焼釜づくり、買い物用マイバック作り（古傘の布のリフォーム）、写真撮影のしかた等に取り組んでいた。

内容的には、家事参画等の男女共同参画に関する活動も含まれていたが、男女共同参画の視点は意識しないままに取り組んでいた。

そのため、事業採択のための2次審査のプレゼンの際に、男女共同参画推進の事業であり、男女共同参画の視点がどの部分に入っているか等のやりとりを実施し、不足している部分は、内容の修正等を実施し、事業趣旨の徹底を図った。

②グループの支援体制を整備

採択後、事業実施に当たっては、西海市を担当する県男女共同参画推進員に支援を依頼した。推進員は、男女共同参画の視点で実施されるように毎回参加し、きめ細かに支援を実施した。県センターは推進員と進捗状況、問題点等の情報を密に交換して、時には推進員と同行しながら支援を実施した

（例）男性のみのグループであり、料理実習のメニューも酒の肴になりそうなものを優先しがちであったが、短時間ででき、バランスが良く安価なもので家族を喜ばせる献立に変えるなど粘り強く指導した。また、材料購入も予算を決め、地元産の旬のもの、鮮度のよいものを購入する等。

③講師に男女共同参画の視点を持たせる努力を実施 ← 男女共同参画推進員

介護実習の時には、介護の講師に事前に趣旨を伝え、男女共同参画の趣旨を理解してもらい、介護技術のみ

でなく家庭介護時の家族の協力体制づくり、役割分担等の必要性を交えて指導の実施を依頼した。

#### ④市民向けの発表会の開催

グループだけの活動にとどまることなく、成果を発表することにより、グループ員の自信につながることで、市民を含む多くの人に活動を認知してもらうことに結びつくため活動の発表会を開催するように誘導した。西海市長に長崎県の男性の男女共同参画推進のモデルになる活動であり、発表会開催の支援をセンターより依頼した。

#### ⑤広報部長の設置とマスメディア有効活用

メンバーの中に新聞記者（地元の長崎新聞大瀬戸支局）がおり、グループの広報部長として活躍しており、積極的な広報活動をグループが自主的に実施した。

## 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

- ①男女共同参画の視点を持ち活動ができるようになり、事業実施年度以降の活動も、視点を持ち目的を明確にし、テーマを持った活動に変化している。
- ②男性の男女共同参画推進の長崎県のロールモデルに成長  
市民向けに活動発表会を年1回開催することを事業実施以降も継続して実施している。地域のロールモデルとなり、メンバーの意識も変化している。  
波及効果で、西海市内に男性の男女共同参画に取り組むグループがひとつ結成された。
- ③オヤジ夜究教室の下部組織として、寸劇集団「天下島はんちゃんず」を育成  
発表会を楽しいものにするために、男女共同参画について面白おかしく寸劇で紹介を進めるために、西海市職員の中から芸達者な4人に誘いをかけ、グループを結成。現在は、オヤジとともに市内のみならず、県内各地から出演の声がかかっている。
- ④男性の男女共同参画グループとして、県内に認知が高まり、県内各地から講師として依頼され、対応している。特に介護講座受講後、実際に家族の介護を実践しているメンバーの発表は、インパクトを与えている。
- ⑤食育分野、地域活性化分野でも、県内の優良グループとなっている。特に、メンバーの中の2人は、自宅や自身の圃場で食育の体験学習の場を設け、食育指導を実施している。
- ⑥地域特産物の活用にも取り組み、西海市特産のタコを使ったタコ飯を完成させ、県内各地のイベントに招待され、試食販売を実施し、特産タコの普及にも貢献している。
- ⑦グループメンバーの中から2名の県男女共同参画推進員が誕生し、男女参画の啓発を担う男性の貴重な人材となっている。
- ⑧家庭生活の充実（円滑な家族関係が構築）  
家事は女性がすべきという意識がなくなり、家庭内での役割分担が理解でき、実践するようになっている。また、介護が必要となった家庭では介護も分担し実施している。家族からも喜ばれ、家族関係がよくなったとの評価を受けている。

## 5. 今後に向けた展望と課題

今後も長崎県の男性の男女共同参画推進のロールモデルとして活用を進めるとともに、より一層マスメディアを活用（現在は、NHKTV長崎支局が1年を通じての活動を取材中で平成25年度2月に放映される予定）し、県内への波及を図る。

オヤジの男女共同参画推進フォーラム

福引き大会もあります!!

家事を極めて男を磨く やきゅう  
おおせとオヤジ夜 究 教室

平成22年

1/30 見よ! オヤジの力

(土) 於: 大瀬戸コミュニティセンター (西海市役所隣り)

10:30~15:15

発表・意見交換 男の自立をめざして

～家事を極めて男を磨く、オヤジ達の飽くなき挑戦～

体験・試食 男の実力披露

・披露1 種まきから収穫、製粉まで全て自作のそば粉を使ってそば打ち体験  
・披露2 自慢の石窯で大瀬戸名物「あべす蛸」をのせたたこピザ

展示・ワークショップ

・長崎県男女共同参画推進委員の活動  
・村の菓子工場の活動  
・食と農を考える女性の会の活動  
・オヤジ夜究教室の活動

お楽しみ (西海産物試食、販売)

西海市より・・・さいかい元氣村「村の菓子工場」特産みかんシフォンケーキ 他 西海市の特産品販売  
長与町より・・・ジャム販売  
崎津町より・・・目録ワイン試飲会

参加定員 200名 (先着順)

昼食 (1,000円)  
「食と農を考える女性の会」特製  
西海の郷土料理弁当  
事前申し込みが必要

おおせとオヤジ夜究 (やきゅう) 教室  
2010年のおおせと米米塾「男性の自立のための生涯学習講座」の受講者を中心メンバーとして発足。男女共同参画の時代を迎え、これまでの「家事は女性がすべし」との観念を払拭するため、料理・そば打ち・包丁研ぎ、エプロン作り・ハン石焼き器作り、また介護福祉などあらゆる分野にチャレンジし、「男を磨く」ことをめざしています。  
現在会員30名。  
(20代～70代までの幅広い年齢層で構成)

主催: 長崎県、男女共同参画長崎・西海・西彼地域連絡会議 後援: 西海市  
申し込みは裏面をご覧ください

|       |   |    |    |     |   |   |
|-------|---|----|----|-----|---|---|
| 参加申込書 | 1 | 氏名 | 住所 | TEL | 有 | 有 |
|       | 2 | 氏名 | 住所 | TEL | 有 | 有 |
|       | 3 | 氏名 | 住所 | TEL | 有 | 有 |

オヤジの男女共同参画推進フォーラム  
“見よ! オヤジの力”

開催日時 平成21年1月30日(土) 於: 大瀬戸コミュニティセンター  
☆☆当日は長崎市より無料バスを運行します。先着50名要申込☆☆

タイムスケジュール

|        |                                                    |                                             |
|--------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 10:00~ | 受付開始                                               |                                             |
| 10:30~ | オープニングセレモニー<br>ワーバンギャーカス (アンデス音楽)                  |                                             |
| 10:55~ | 発表<br>「家事を極めて男を磨く、オヤジ達の飽くなき挑戦」<br>おおせとオヤジ夜究教室代表    |                                             |
| 11:45~ | コント<br>「大瀬戸井で語る 男女共同参画の現状と夢」<br>西海市有恩の皆さん          |                                             |
| 12:00~ | 昼食<br>「食と農を考える女性の会」手作りの特製郷土料理弁当                    |                                             |
| 12:50~ | 体験<br>①そば打ち体験 50名<br>②ピザ焼き体験 100名<br>※エプロンをご持参ください | 展示・ワークショップ<br>・男女共同参画推進員、女性団体<br>・市町等の活動 など |
| 14:50~ | アンケート回収<br>福引き大会 楽しい買品をご用意                         |                                             |
| 15:15  | 閉会                                                 |                                             |

(会場のご案内)  
国道202号横 西海市役所隣り  
西海市大瀬戸町瀬戸瀬浦部 2222  
TEL0959-37-0026  
・駐車場あります

参加及び昼食・無料バス申込方法  
下記申込書を郵送またはFAX、メールで下記までお送り下さい。(申込締切1月15日)  
〒650-8570 長崎県長崎市出島2-111 長崎県男女共同参画推進センター  
TEL 095-822-4729 FAX 095-822-4739  
メールアドレス: s03510@pref.nagasaki.lg.jp

〈長崎県男女共同参画推進センター センター長 前田 きみ子〉



## 団体名

## NPO法人エンツリー

〒192-0363 東京都八王子市別所2-1 ビア長池4階  
 電話：042-670-2236 ホームページ：<http://www.npo-en-tree.org/Pages/default.aspx>

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

NPO法人エンツリーは八王子市男女共同参画センター主催の講座「女性のためのキャリアアップコーディネーター養成講座」修了生有志が平成18年に立ち上げたグループである。市民団体として女性のさまざまな社会参加を支援する活動（市民活動をはじめめるための冊子「まるごと八王子の使い方」作成、「市民活動はじめの一歩相談コーナー」開設など）を進め、平成20年、男女共同参画、子育て支援、地域活性化支援等の活動を目的としてNPO法人の認証を取得した。

主な活動として

男女共同参画にかかわる啓発講座の企画運営

八王子市親子つどいの広場堀之内（通称CacheCache）の運営受託

コミュニティスペースCUORE・堀之内運営

等の事業をおこなっている。

事業のうちつどいの広場は、主に0～3歳児とその保護者に遊び場の提供、保護者同士のネットワークの育成支援、育児に悩む母親支援（虐待、ネグレクトの早期発見を含む）等を目的として八王子市が市内に5カ所設置している施設である。当法人が運営受託しているCacheCacheは市内東部地域を主なエリアとしているが、同地域は多摩ニュータウンとその周辺の丘陵地で構成され、八王子市内の全人口の19.5%、0～4歳児では市内人口の21.9%を占め（平成24年6月現在）、核家族率の大変高い地域でもある

本来男女共同参画の立場から女性のさまざまな社会参画支援をミッションとするエンツリーが子育て支援事業にエントリーするきっかけは、当法人の企画した男女共同参画関連の託児付講座の中で、母親が元気になると子どもが元気になるという体験にある。特にニュータウンという特性からも、核家族で孤立しがちな「母親支援の場としての広場運営」を第一目標としている。そのために利用者の来所のきっかけとなる各種プログラムも、子育て支援のプログラムだけでなく、子育て中から準備をしてさまざまな社会参加を果たしているロールモデルを招いての「ステキ！わたし時間」というミニトークプログラムなど、「子育て中の今」だけにとらわれず「子育て後」を見据えたプログラムも実施している。一方で、育児に不慣れな母親が性別役割分担意識にとらわれて、夫にSOSを出せずにいる事例の多さに危機感を抱き、父親への意識啓発のため月1回土曜日にパパのしゃべり場を実施した。

団体名 ▶ NPO 法人エンツリー

事業名 (講座名)

## 八王子市親子つどいの広場堀之内 (CacheCache) を中心とする父親のネットワークづくり支援

### 1. 事業概要

パパのしゃべり場は当初、母親も父親もともに参加し、親としての喜びや悩みを共有することで母親の悩みにも気づいてもらいたいと、スタッフが主導で話を進める形をとっていた。しかし開設から半年近く人が集まらない状況が続いた。その対策の検討の結果、スタッフも来所者も女性ばかりに取り囲まれているという父親にとってのアウェー感を払拭するため、しゃべり場を「パパだけのしゃべり場」として、企画運営すべてを父親主導で実施することとし、広場利用者である T 氏に取りまとめを依頼した。スタッフとの打ち合わせの中で「しゃべり場」の日はパパが子どもを連れて来所する (= その間、妻がリフレッシュ、休息はもちろん、自分育てや子育て後の社会参加の準備のため等、自由に使える時間を確保する) というルールもできあがり、リニューアル第1回目から10名近い父親参加と大盛況となった (もちろんその陰には自由時間を確保したい母親たちの後押しがあったと推測される)。その後も毎月途切れることなく第4土曜日の午後にしゃべり場は開催され、少ない時で2、3名、多い時には10名を超える参加者がある。

### 2. プログラム

初回「パパだけのしゃべり場」終了後、父親たちはすぐにグループ Cache-PAPA (カシュパパ) の会 (現在は Cache-PAPA に改称) を立ち上げ、それぞれの仕事のスキルを活かして広報発行、HP 作成等次々と活動を充実させていった。

しゃべり場では、パパのための育児クイズや妻とのかかわりについて等の話題の他、日頃の育児の悩みを共有したりといった風景が見られる。しゃべり場の間、スタッフは求められない限り話には加わず、子どもの見守りなどのサポートに徹しているが、それも回を重ねるごとに父親たちが自分の子もよその子も分け隔てなく面倒をみながら話を進めるという体制ができあがってきている。スタッフの役割も、時には求められて行政や地域の情報を提供したり、しゃべり場に参加することで心理的なハードルが払拭されたパパたちに、日頃の話しかけの中で「地域のおばさん」として妻、母親の気持ちの代弁をしたり、祖父母世代の視点を伝えたりという働きかけを心がけるという形になりつつある。

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

Cache-PAPA に参加する父親が増え、その活動はどんどん活発になっていったが、一方で当法人スタッフにはひとつの危惧が生まれていた。かつて子育てしてきた世代として、また実際に広場に来ている母親たちの声からも、父親たちがめざす育児、家事参加と女性が望むそれとの間に微妙なずれ (父親の育児参加は、単に育児のいいとこどりをしているだけなのではないか、父親と母親が同じ視点で育児にかかわり、結果子どもに対して過保護になり単一の価値観を植え付ける恐れがあるのではないか等) があることが感じられていたからである。

何のために父親の育児参加が必要なのか、そのあたりをもう一度考え直してほしい、そのきっかけ作りとして冊子「Real IKUMEN'S Club」を制作、発行。ここでは、男女合わせて約600名のアンケートや座談会で現役パママの意見を洗い出し、「元祖イクメン」と呼ばれる中央大学教授 広岡守穂、立美夫妻へのインタビュー、子育て現場にかかわる他世代か



冊子「Real IKUMEN'S club」

らの意見を載せることで、父親の育児参加の意義、男女共同参画の視点からの育児参加を改めて提唱した。

#### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

アンケートの回答者からは、妻と同じ設問項目に答えていく中で改めて自分（父親）の育児参加がいかにも中途半端であったかを実感したという声が多く、また妻からは、夫のどこが不満だったのかがわかったという声もあり、このアンケートをきっかけに夫婦で話し合ったという例も多数報告された。

座談会では、父親たちが立会い出産の経験や子どもと2人きりでまる一日を過ごした体験などから、「自分ごと」として体験することの重要性、「手伝いじゃないんだよね、自分の子どもなんだから」という声とともに、その重責をより多く担っている妻への感謝の思いが語られた。

Cache-PAPAのメンバーからは「仕事のつながり以外に地域で友人ができたのがうれしい」という声が多く聞かれる。Cache-PAPA代表T氏は、父親が地域でつながることで母親や子どもたちにとってもネットワークが大きく広がり、異世代交流を含め地域で子育て、高齢者支援をしていける街づくりの基礎ができるのではないかの思いを強め、市内の他のつどいの広場にも出かけて5カ所の広場すべてでパパグループの立ち上げを支援した。現在では市内全域でのネットワークも作られ、八王子パパ会として独自の活動も始まっている。

また、Cache-PAPAではメンバーの妻たちを指導役として「パパソーイングくらぶ」や「料理教室」なども開催され、妻に依存しない自立した育児、家事スキルの習得にも関心が高くなっている。

#### 5. 今後に向けた展望と課題

CacheCacheでは子どもが幼稚園や保育園に入園すると、親もほぼ自動的に卒業となる。結成から3年がたったCache-PAPAも、広場内のグループとしてはそろそろ世代交代の時期を迎えている。

現在子育て中の世代では高度成長期に育ち、まさに父親は企業戦士、幼いころから母親と母子家庭のようにして育ったという人が多い。特に都市部では地域から男性の姿が急速に消えていった時期に育った世代と言えるだろう。

Cache-PAPAに参加してよかったことの中に「地域に知り合いができた」という声が多いことから、彼ら現役親世代の中には潜在的に地域参加への願望があると感じられる。その一方で彼ら自身が「地域で活動する男性」というロールモデルを持たないために具体的にどうしたらいいのかわからないという戸惑いがみられる。

これは、単にCache-PAPAのみならず、現在できつつあるパパグループの多くに共通の課題であると考えられる。彼らの活動がごく自然な形で地域の大人たちの、世代や性別役割を超えた緩やかなつながりとして存続していけるよう、平成24年1月にはワールドカフェ「イクメン@TAMA2～パパが地域でできること～」を開催した。このイベントでは、八王子市堀之内地域で「子どもの居場所づくりタマリバ」活動を実践されている大妻女子大学教授炭谷晃男さんをゲストに招き、事例紹介とともに具体的な地域参加の方法について考える機会を提供した。炭谷さんはワールドカフェの各テーブルにも参加し、参加者がそれぞれの思いを具体化する手助けとなった。このことから地域活動のロールモデルの必要性を一層痛感し、エンツリーとしても今後もさまざまな形で彼らの活動を支援していきたいと考えている。

## パパだけのしゃべり場 イクメン@TAMA



子どもが生まれた！ いやあ、かわいい(こんなに可愛らしいもんだとは思わなかった)。そして、こんなに手のかかるものだとも思わなかった。それを何気にとやっていると妻(いや母は)偉大だ。しかし、いくら偉大でも、一人でやるのは大変すぎる。ちょっと手伝うか…と軽い気持ちで始めたが実際に子育てに関わってみたら、地域のこと、仕事のことも今までとは違った景色が見えてきた…

そこで今年のイクメン@TAMAのテーマは

**パパが地域でできること**

**ゲスト** 炭谷晃男さん (八王子子どもの居場所づくりプロジェクト・タマリバ代表・大妻大学教授)  
炭谷先生に「どろんこ大運動会」や「竹たまままつり」、「BeAT@ it 2012」など、タマリバの活動をご紹介いただきながら、父親と地域とのいろいろな関わり方について考えてみませんか。

★八王子子どもの居場所づくりプロジェクト・タマリバの活動内容は (<http://tamari-ba.jp/>) でご覧ください。  
1日限定カフェ方式(ただし、ソフトドリンクのみ)、気軽なしゃべり場です。

|     |                                                        |
|-----|--------------------------------------------------------|
| 日時  | 2012年1月22日(日) 13:00~15:00                              |
| 会場  | Win プラザ多摩センター (たましん多摩センター支店)<br>多摩市善合1-43 京王プラザホテル多摩3階 |
| 参加費 | 800円(ソフトドリンク付)                                         |
| 対象  | 子育て中、または子育てに関心のある男性                                    |
| 申込み | NPO法人エンツリー事務局 (詳細画面参照)                                 |



本イベントは「多摩コミュニティビジネス フォーラム2012」の一環として開催します。  
<http://tamabiz.org/>  
主催：NPO 法人エンツリー 協力：Cache-PAPA

\*\*\*\*\*お申し込み\*\*\*\*\*

1月18日(水)までにNPO法人エンツリー事務局宛メールでお申し込み下さい。  
ただし、定員になり次第締め切らせていただきます。(定員30名)

販売 [npo-en-tree@hop.ocn.ne.jp](mailto:npo-en-tree@hop.ocn.ne.jp) (携帯電話からはQRコードを読み取ってください)

①お名前 ②年代 ③お住まいの地域 ④連絡先 ⑤お子さんの年齢  
⑥お子さんの年齢をお知らせください。(保育はありません)

Win プラザへの ACCESS



多摩信用金庫  
多摩センター支店

多摩市善合1-43 京王プラザホテル多摩3階

イクメンを考える冊子  
**Real IKUMEN'S CLUB**  
**23年1月発売予定!**  
制作・発行 NPO 法人エンツリー 協力 ライター集団

\*\*\*\*\*お問い合わせ\*\*\*\*\*



NPO法人エンツリー  
〒192-0355 八王子市堀之内3-29-16-1F  
TEL&FAX 042-670-9190  
E-mail [npo-en-tree@hop.ocn.ne.jp](mailto:npo-en-tree@hop.ocn.ne.jp)  
URL <http://npo-en-tree.org>

〈NPO 法人エンツリー 理事長 吉田 恭子〉

## 団 体 名

## NPO 法人エガリテ大手前

電話：090-6947-6940 メール：furukubo1978@mercury.ne.jp ホームページ：http://egaliteo.com

## 【男性を対象とした事業の企画にあたって】

## 団体の概要

- ・設 立：平成16年4月（NPO登録：平成17年10月）
- ・所 在 地：東京都杉並区
- ・活動内容：広く一般市民を対象として、男女共同参画社会の形成に関する調査・研究をおこない、評価・公表ならびに、広報・出版、講演、政策提言などの活動を通して、男女共同参画社会の形成促進に寄与することを目的としている。
- ・メンバー：主婦やサラリーマンを中心に、弁護士、大学教授、公認会計士、医師、薬剤師、税理士、産褥ヘルパー、消費生活アドバイザー、シンクタンク研究者、社会福祉士、介護福祉士、統計専門家、アナリスト、中小企業診断士、衛生管理士、福祉サービス第三者評価調査者、フードアナリスト、宅地建物取扱主任など幅広い層からの参加を得ている。

## 企画の前提・背景

「男女共同参画社会の形成・推進」を目的とするNPO法人である。メンバーが60歳前の現役世代であり、男性が半数近くを占めることから、自分たち（女性メンバーは、配偶者や親族男性などを想定）の今後の人生を展望して、そのための準備を考えるメンバー自身の「同時進行小説」の検討を始めたことがきっかけになった。男性メンバーも女性メンバーの配偶者なども、仕事中心の生活であり、交友関係も職場中心に形成されていることが確認され、男性メンバーの日常の家庭生活能力の低さが指摘された。家事全般の知識経験、地域社会とのつながり、仕事を離れた生きがいなど、引退後の生活に不可欠な要素が、いずれも欠落していることであった。

当NPO設立に当たっての中心メンバーは、たまたま高校の同級生であった。その高校は戦前女学校で、戦後の共学化以降も女性教育への情熱があふれる高校である。例えば出席名簿は、女性の五十音順から始まり、次に男性の五十音順が続くという独特の方式をとり、また男女を問わず、全生徒が茶道を体験する「学生茶会」を催すなど、男女共同参画を推進する高い意識と多彩なしくみを持つ。そのため、男女共に早い段階から「男女共同参画」の意識と実践が形成されていたようだ。卒業後、社会に出ると、性別による役割分担、進まぬ女性雇用環境、いまだに残るM字型就労形態、男性の育児休業取得率の低迷などを、社会人として強く実感し、子どもたちの社会環境への不安を払拭できない状況があった。このような背景から、当NPOの目的は、「男女共同参画社会の形成推進」に自然に決まったと言える。

## 男性が企画に足を運ぶための工夫

対象となる世代は「団塊の世代」であり、戦後の民主教育の第一期生として、男女同権、人権、自由平等、民主主義などについて、初等教育就学時から深く触れてきた。学生時代には民主化や非戦運動に触れ、大衆消費文化の中心となった人々である。高度経済成長期に社会人となったこともあり、仕事

心のライフスタイルになったが、価値観には、男女共同参画、家庭地域参画に共鳴する部分も大きい。

まず、家庭地域への参加への「明確なきっかけ」を設定することを考えた。それが、祖父による孫育ての認定資格「ソフリエ」（加えて、父親による子育ての認定資格「パパシエ」も）である。中高年男性の新しいライフスタイルを提案できるように、文化的な香りを少し持たせたブランディングとしての「ソフリエ」を考案した。また、認定証は周囲に提示できるような体裁にして、品格のある認定式をおこなうことで、資格自体の価値を高めている。北九州市の認定式では、一般市民の前で、市長が一人ひとりに認定証を手渡している。こうした方法が、本人の自覚と周囲への宣言につながり、「明確なきっかけ」を実現することになる。

## 団体名 ▶ NPO 法人エガリテ大手前

### 事業名（講座名） 男2代の子育て講座（ソフリエ・パパシエ資格認定）

## 1. 事業概要

### ■事業の位置づけ・企画の背景

男性のより幅広い地域参加のためには、「家庭参加」「地域参加」「社会参加」の3段階に分けてとらえることが必要である。男女共同参画が進んでいない職場中心の生活に浸ってきた男性にとって、男女共同参画が前提となる社会参加には、多くのハードルがある。まずハードルの低い「家庭参加」から始め、「地域参加」「社会参加」に進んでいく段階論が実際的だと感じている。

### ■ねらい

「女性の出産退職」（その後の非正規雇用）をなくすための、家族による子育てに、祖父層や父親層が積極的に参加することは、特に祖父層にとっての、家庭内での役割と地位の確立に直結するものであり、男女共同参画について考え、行動する理想的なきっかけとなる。「性別による役割分担」を自然のものとしてとらえている男性にとって、「性別による役割分担」がいかに多くの社会の問題と矛盾を生み出しているかを、子育てを通じた体験が、祖父層や父親層たちにはっきりと実感させてくれるからである。

■実施年 平成23年2月から

■対象 孫育て前の祖父、子育て前の父親

■テーマ 男2代の子育て講座（ソフリエ、パパシエ資格認定）

### ■予算

- ・講師派遣の場合：主催者の予算に合わせて応相談（NPOの趣旨に則り）
- ・主催者が講師を準備する場合：テキスト・認定代として参加者1人600円のみ徴収し、その他プログラムなどは無償提供して講師を支援

■定員／参加者数 15名（実技講習のため少人数で実施）

### ■主催した行政等機関

全国の自治体、福祉施設、NPO等が主催し、当NPOが運営協力する。北九州市、東京都千代田区、沖縄女性財団、NPO子ども未来ネットワーク北九州、熊本市男女共同参画センター、藤沢市老人福祉センター、東京都港区白金台いきいきプラザ、埼玉県、会津若松老人クラブ連合会、郡山老人クラブ連合会、稲城市、座間市、東京都足立区、東京都練馬区、横浜市陸地域ケアプラザ、名古屋市子育て支援センター、和歌山市、呉市民センター、広島県府中町、東京都墨田区、三重県男女共同参画センターなど

## 2. プログラム

日程 1日コース（例えば10：00～16：00）

## 手 法 実技講習

## 内容例

| 時 間         | 科 目   | 内 容                                               |
|-------------|-------|---------------------------------------------------|
| 10:00～11:00 | 基礎編   | ソフリエの役割とソフリエール、子育ての昔と今、子どもの成長と発達など                |
| 11:00～12:00 | 日常編Ⅰ  | 栄養（生活サイクル）、ミルク、離乳食、幼児食、抱っこ、寝かしつけ、乳歯の手入れ、排泄など      |
| 12:00～13:00 | 調理実習  | 参加者の昼食と一緒に、離乳食を作る                                 |
| 13:00～14:00 | 日常編Ⅱ  | オムツの当て方、着替え、沐浴、身体の手入れ（鼻、耳、目、つめなど）など               |
| 14:00～15:00 | 安全編   | あせも、日焼け、虫刺され、応急手当、病気（病院に連れて行く判断基準なども）、予防接種、事故予防など |
| 15:00～15:45 | ふれあい編 | 遊び、ベビーマッサージなど                                     |
| 15:45～16:00 | 認定式   |                                                   |

書 籍 『祖父、ソフリエになる 新米じいじ初めての孫育て』NPOエガリテ大手前編、メディカ出版、2011年9月

### 3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

「男女共同参画」の視点に立った事業検討のために、まずは、祖父、祖母、母親に対する性別横断的な「育児意識・ニーズ調査」（「出産育児世代女性」と「孫育て支援世代男性」（子の出産育児を想定できる世代）の育児意識を調べることで、女性の子育てと男性の孫育て支援の意識の実態、格差、それにとまなうニーズを分析したもの。期間：平成18年3月～5月、人数：349名（女性134名、男性215名）、場所：首都圏、方法：対面聴き取り調査）を実施した。わかったのは、以下の3点。①母親層は、施設育児（保育所など）とともに、家族（祖父母層）による育児支援を求めている。②祖父層に高い育児参加意識（82%）があった。③祖母層と母親層に、祖父層の育児知識経験の欠如への大きな不安があった。そこで、潜在化している祖父層の育児労働力の顕在化を図るために、「ソフリエ資格」を作り、十分な育児知識を教習して、周囲に自信を持って、育児参加を宣言できるシステムとした。「ソフリエ」という中高年男性の新しいライフスタイルを提唱し、文化的で先進的なイメージを全面に出した「ソフリエ」というブランドを考案した。一方で、父親層に対しても、ややもすれば「育児を手伝うカッコイイお父さん」（育児補助者）のイメージにもなる「イクメン」ではなく、独立して育児を完結できる育児専門者としての「パパシエ資格」を提起した。

「ソフリエ」「パパシエ」は家族の育児を実践する資格取得者であるが、その上級資格として、地域の育児を担う「イクジイ」を設定している。「ソフリエ」「パパシエ」は、あくまでも通過点に過ぎず、「イクジイ」をめざすことを目標に設定して、「パパシエ」を「マスター・オブ・イクメン（修士号）」、「ソフリエ」を「ドクター・オブ・イクメン（博士号）」、「イクジイ」を「キング・オブ・イクメン（王者）」と位置づけて、受講者の上位活動への挑戦を促進している。「イクジイ」を支援するプログラムは、今後、当NPOとして開発を続け、順次発表していく。

独立して育児および家事を担えるために、「調理実習」をプログラムに入れた。これは、離乳食と一緒に、参加者の昼食を作る講習である。この中で一番力を入れているのが、下ごしらえ、食器準備、後片付け、廃棄物の処理である。一般の調理実習では、調理以外の前後の工程は主催者（多くは女性講師陣）が担当して、男性参加者は言わば「作りっぱなし」「食べ散らかし」に終わるケースが少なくない。これでは男女共同参画につながらないし、独立した日常生活能力の涵養もできない。すべての工程を独立的にこなす意識と習慣を体得することが重要である。

### 4. 成果（講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他）

「ソフリエ」取得者が、上記の「イクジイ」に挑戦するケースが出てきている。三重県男女共同参画センター

の「男2代の子育て講座（ソフリエ・パパシエ認定）」を受講したソフリエたちが、同センターで実施される各種催しの託児サービスを実践することになった。「ソフリエみえ」という自主団体を作って、月数回のサービスを継続している。

## 5. 今後に向けた展望と課題

自分の孫育ての「ソフリエ」から、地域の育児を担う「イクジイ」へのステップアップをしっかりとサポートできるプログラムが必要だと考えている。例えば、学童クラブで週1回1時間程度の時間をもらって、地域の中老年男性が、子どもたちに感性教育をおこなう「IQNOH（いくのう）教室」のプログラム・教材の開発を進めており、平成25年中の発表をめざしている。これは、子どもたちが、遊びながら、「姿勢」「笑顔・表情」「呼吸・発声」「洞察力・共感力」などを体得していくものであり、幼児教育の経験がまったくない中高年男性が、自信を持って実践できる完成度の高いプログラムになっている。

# おじいちゃんとパパの 男2代の子育て講座

**受講者募集**



そついえは  
昔はやんながったな？

ソフリエ  
資格認定

ソフリエ  
資格認定

ソフリエ・パパシエ認定とは、男2代の子育て講座を受講したおじいちゃんやパパに NPO 法人と社会福祉協議会が資格を認定する子育て講座です。子育て中の母親の不安や負担感を軽減し、安心して子供を産み育てることができる環境づくりのために、子育てに関する基本的な知識や技術習得の講座として実施します。

**【プログラム】**

- \*受付 9:00~
- \*開講 9:30~
- \*基本編 → ソフリエ/パパシエのルール他
- \*日常編 10:00~  
→ 授乳力・栄養・抱っこ・寝かしつけ
- \*調理実習 11:00~  
→ 離食・片付け
- \*日常編Ⅱ 12:30~  
→ 抱抱（おむつ替え・お風呂）  
→ 沐浴
- \*安全編 13:30~  
→ 健康管理・応急手当
- \*ふれあい編 → 遊び
- \*認定式 15:00~  
→ 認定書授与  
→ 記念撮影
- \*閉講 15:30

※ 受講生持参ですが、履修など、ご一層いただくことが可能です。

**●日時** 2012年  
**9/30 (日)**  
**9:30~15:30**

**●場所** いきいきシニアセンター  
**こぶし荘**

**●対象** 函内市内在住で、  
本講座に興味のある成人男性

**●募集人数・参加費**  
先着 **15名**  
食材費及び昼食費 **500円**

**●お申し込み**  
9月19日(水) 午前9時から電話にて、  
いきいきシニアセンター こぶし荘  
**TEL 45-3121**

主催：(社) 函内市社会福祉協議会・いきいきシニアセンターこぶし荘 ■協力：NPO 法人エガリテ大手前

**認定書**  
ソフリエ資格

仮仮 仮仮 様

あなたは 〇〇〇〇 主催の「男2代の子育て講座」全課程を終了されました。よってこれからの子育てを担う「ソフリエ」として認定することになりました。

平成24年 9月 30日

〇〇〇〇 〇〇 〇〇〇

— NPO法人エガリテ大手前 代表 古久保 俊樹

この度の講座受講の方に、認定書が授与されます。

また、こぶし荘人材バンクに登録していただき、ソフリエとして、パパシエとして、子育ての担い手、そして指導する立場として、こぶし荘事業や地域活動等に参加していただく企画も検討中です。



ソフリエ  
こぶし 太郎 太郎

いきいきシニアセンター  
こぶし荘 人材バンク  
登録者として活動中！  
TEL: 45-3121  
FAX: 45-3122  
E-Mail: info@webmaster.jpnet.com

いきいきシニアセンター こぶし荘  
ソフリエ  
こぶし 太郎  
TEL: 45-3121  
FAX: 45-3122

平成24年度 こぶし荘 男2代の子育て講座



# 男2代の子育て講座

パパ おいしいちゃん

受講者募集

ママもお楽しみに！

ハハシエ  
資格認定

ソラリエ  
資格認定

家族で参加も大歓迎！  
ママやお子さまたちには  
プレイゾーン無料のアレセン！

日時 **10/7** 10:00～15:30  
平成24年

場所 **子育てふれあい交流プラザ 元気のもり**  
〒810-0845 北九州市東区東門前1-1-1 ANAビル5F

内容 おむつ替え、沐浴、離乳食づくり、ふれあい遊びなど、子育て-子育てをおもしろくするヒントがいっぱい！！

対象 1歳未満および1年以内に誕生予定のお子さまのパパまたはおしいちゃん。

募集人数・参加費 先着**12名**、食材費及び昼食費**500円**  
\*お食にたいは別添付させていただきます。

お申込み方法 9月3日(月)10:00から電話申込み。  
子育てふれあい交流プラザ「元気のもり」  
Tel. 093-522-4150

**PROGRAM** ●プログラム

開 始 10:00～

開 始 10:20～11:00 『そろだったのが！変える子育ての道草』  
マニーサイン・佐々木 氏、山本ユキコ氏

開 始 11:05～11:35 『もう心配とは言わせない！子どもと過ごす2人時間』  
北九州市児童センター・池田 氏、藤子氏

開 始 12:00～12:15 『カンタン離乳食！うどん活用術』  
子育てふれあい交流プラザ子育て指導員 渡田 祥子氏

開 始 12:20～14:00 『もしものときに子どもを守る 安心のつくりかた』  
北九州市立小児科病院内児童発達支援センター 橋本 夢穂氏

開 始 14:05～14:45 『6000回のコミュニケーション おむつヨガ』  
後まろろん・カモミール 学園 夢穂氏

開 始 14:55～15:10 認定書授与(受講完了有全額)・記念写真撮影

開 始 15:10～15:30 『人形ポードヴィル・ドラの笑顔の宅配便』  
人形ポードヴィル・ドラ 守野 穂穂氏

※お食事の時間はこちらの図を参考に各自お持ちください。おにぎりをご用意します。

■主催/NPO法人マダモトネットワーク九州 ■協賛/北九州市 ■協力/NPO法人エガリテ大手前

〈NPO 法人エガリテ大手前 古久保 俊嗣〉

